

事務所ニ於テ之ヲ承認シ紀元一九：：年：：月：：日ヲ以テ其ノ効力ヲ生スルモノトス

被備人共濟組合會長 署名 捺印

加盟願ハ組合會長ノ承認シタル日ニ於テ其ノ効力ヲ生シ且組合員證ヲ發行スルモノトス

(註)被備人ニシテ加盟出願上身體検査ヲ受クルコトヲ要セサルモノハ身體検査ニ關スル規定中(イ)

項及(ロ)項ハ適用ナキモノトス

第十八條 體格上ノ缺點組合加盟出願者ニシテ無條件ニテハ其ノ出願ヲ承認シ難キ體格上ノ缺點アル

モノハ之ヲ承認スルコトヲ得但シ其ノ者カ文書ヲ以テ組合會長ノ認容スハキ盟約ヲナシ該缺點ヨリ

發生、起來シ若ハ増大セル不能力ニ對シテハ組合員トシテ何等扶助金ノ受給資格ナキモノナルコト

ヲ承認シタルトキハ此限ニアラス

前項ノ盟約書ハ組合加盟願書ノ一部トシ之ニ添付スルコトヲ要ス此場合ニ於テ前項ニヨル出願書式

ノ變形ハ有効ナルモノトス

釀 金

第十九條 本規程ニ於テ釀金ト稱スルハ會社ヨリ被備人ニ支拂フハキ貸銀ノ一部タル指定額ニシテ會

社カ共濟組合ノ基金ニ充ツル爲メニ差引クハキコトヲ該被備人カ其加盟書ニ於テ承認シタル金額若

ハ該共濟基金ノ爲メ組合員ノ出費ヲ要スハキ現金ヲ謂フ

第二十條 貸銀ニヨル釀金：：拂込日：：毎月ノ釀金ハ其ノ月ノ一日及十五日ニ之ヲ拂込ムモノトス

且通常當該日ニ受領スハキ組合員ノ貸銀ヨリ之ヲ差引キ若ハ毎週貸銀定例支拂日ニ於テ該貸銀ヨリ

差引クコトヲ得釀金ハ被備人ノ受領スハキ貸銀額ノ百分ノ二トス且會社ハ七日以内ノ缺勤ヲ補充ス

ル爲メ同率ヲ以テ追加差引ヲナスコトヲ要ス

組合員ノ釀金カ貸銀仕拂書ニ誤謬アリシ爲メ見合セラレタルトキハ其ノ釀金ヲ差引カサリシトノ事

項ニヨリ其ノ組合員カ當然受クハキ扶助上ノ利益ヲ妨クルコトナキモノトス

前項ノ釀金ハ之ヲ次ノ貸銀支拂ノトキ之ヲ差引クハキモノトス

第二十一條 釀金ノ現金拂込：：組合員ニシテ貸銀支拂書ニヨル貸銀ヲ受ケサルモノナルトキハ現金

ヲ以テ組合會長ニ釀金ヲ前拂スルニアラサレハ忘納トシテ之ヲ取扱フ

單ニ死亡扶助金ニ對シテノミニノ釀金ヲナセル組合員ハ直接組合會長ニ其ノ釀金ヲ現金ニテ拂込ムモ

ノトス

第二十二條 死亡扶助金ノミニ對スル釀金額：：會社ヨリ退職シ且本規程ニヨリ單ニ死亡扶助金ニ對

シテノミニ其ノ組合員タル資格ヲ維持スル組合員ハ扶助金各百弗ニツキ毎月十仙ノ釀金ヲ前拂スハキ

モノトス

前項ノ扶助金ハ其ノ者ノ最後ノ貸銀年額ヲ基準トス但シ二千弗以上ヲ以テ基準ヲラシムルコトヲ得

ス

第二十三條 不能力間ノ離金：組合員ハ別ニ規定アル場合ヲ除ク外身體検査員カ不能力ト證言シタル間ハ離金ヲナスコトヲ要セス但シ賃銀全額ヲ支給セラレ、モノナルトキハ離金定額ノ拂込ヲナスコトヲ要ス

第二十四條 怠納：組合員ニシテ其ノ怠納中ニアルモノハ扶助金ヲ受クルコトヲ得ス怠納ニ箇月ニ及フトキハ其ノ者ノ身體検査ヲ行フコトナクシテ復職スルノ權利ハ豫告ナクシテ當然消滅スルモノトス

第二十五條 扶助金最高限度：組合員ハ年給二千弗以上ヲ基準トシテ離金ヲナシ若ハ扶助金ヲ受理スルコトヲ得ス若シ二千弗ヲ超過スルトキハ離金及扶助金ハ二千弗ヲ基準トシテ之ヲ算定ス

扶助金

第二十六條 本規程ニ從ヒ組合員若ハ所定ノ權利者ニ支給スル扶助金ハ以下數條ニヨリ之ヲ定ム

第二十七條 疾病扶助金：(イ)各就業日ニ對スル支給額ハ其ノ者カ疾病ニヨリ不能力ト決定セラレタル日ヨリ最初一週間ヲ除ク外五十二週間以内ノ期間ヲ限リ其ノ者ノ最近六十日間ノ労働ニヨル平均一日賃銀ノ二分ノ一トス再發ハ不能力期間ヲ計算スル場合ニ於テハ不能力ノ一部トス

(ロ)疾病扶助金ニ對スル請求權ノ發生：疾病扶助金ニ對スル請求ヲナスニハ不能力ヲ惹起スルニ

足ルハキ急性ノ身體上ノ疾患ニ關スル確證アルコトヲ要ス

(ハ)疾病ニ歸スルコトヲ得ハキ不能力ノ原因：切斷、擦過傷、抓痕、刺傷若ハ其ノ他ノ創傷ノ病毒感染又ハ傷害ニシテ直ニ不能力トナルコトナク且其ノ罹災當時報告セラレサリシモノ又ハ身體ニ注入若ハ設置サレタル毒藥又ハ醫術若ハ調劑ノ誤謬ニヨル藥量過用又ハ不能力ヲ惹起スハキ慮アル患部ヲ除却スルニ必要ナル外科手術又ハ日射病若ハ凍傷等ニ基因スル不能力ハ疾病ニ歸スハキモノトス

(ニ)妊娠：妊娠ニヨル不能力ニ對スル扶助金ハ三箇月ヲ以テ期間トシ且扶助金ハ一括シテ之ヲ支給スルモノトス但シ如何ナル場合ト雖モ受給者ハ九箇月以上被傭人共濟組合員タリシモノナルコトヲ要ス

第二十八條 災禍扶助金：(イ)災禍ニ歸スハキ原因ニヨリ不能力トナリタル各就業日若ハ就業日ノ一部ニ對シテ支給スハキ扶助金ハ(其ノ者カ依然就職セルト否トヨリ間ハス)五十二週ヲ超ハサル期間ヲ限リ其ノ者ノ最近六十日間ノ労働ニヨル平均一日賃銀ノ二分ノ一トス

(ロ)災禍扶助金ニ對スル請求權ノ發生：災禍扶助金ニ對スル請求ヲナスニハ災禍アリタルトキハ直ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス且直ニ不能力ヲ惹起スルニ足ルハキ災禍ニヨリ身體上傷害ヲ蒙リシコトニ付キ外見上確實ニシテ明瞭ナル證據アルコトヲ要ス

挫傷、筋違、扭傷等其他不能力ヲ惹起セル傷害ニ關スル身體上ノ證明ヲ缺ク場合ニハ該不能力ヲ惹起セシムルニ足ルハキ突發事件ニツキ組合會長ノ認容スハキ具體的ノ始末書ヲ提出スルコトヲ要ス若シ之ヲ提出セサルトキハ災禍扶助金ヲ支給スルコトナキモノトス

第三十九條 退職後ノ扶助金：：退職後一定ノ期間扶助金ヲ支給セラル、組合員ハ該期間ニ於テ發生シタル疾病若ハ傷害ノ爲メニ扶助金ヲ支給セラル、コトナキモノトス該期間ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ但シ其ノ者カ退職ノ時ニ於テ存シタル不能力ノ間ニ起リタル疾病及傷害ニ直接基因スルトキ若ハ本規程ニヨリ其ノ者カ退職後尙單ニ死亡扶助金ニツキテノミ組合員ナル資格ヲ繼續セルモノナルトキハ此限ニアラス

重傷ニ對スル特別扶助金

第三十條 手及足：：組合員ニシテ災禍ノ爲メ直ニ一手若ハ一足ヲ手頭若ハ足頭以上ヨリ切斷セラレ又ハ組合ノ身體検査員ノ意見ニ於テ切斷スルコト必要トナリタル者ニハ其ノ者ノ一年間ノ平均賃銀額ト同額ノ扶助金ヲ支給ス兩手若ハ兩足又ハ一手及一足ヲ失ヒタル場合ニハ前項ノ扶助金ノ二倍トス乃チ其ノ者ノ二年間ノ平均賃銀額ト同額ナリトス

第三十一條 眼：：組合員ニシテ災禍ノ爲メ一眼失明シタルトキハ其ノ者ノ一年間ノ平均賃銀ノ二分ノ一ノ扶助金ヲ支給ス

兩眼ヲ失明シタルトキハ前項ノ扶助金ノ二倍ヲ支給ス

第三十二條 一括計算：：重大ナル傷害若ハ慢性ノ疾病ノ場合ニ於テ組合員カ其ノ支給セラルハキ扶助金ノ代リニ且其ノ者ノ組合員タル資格ニ伴フ共濟組合ノ負擔ヲ全部一時ニ總括給與ヲ望ムトキハ組合會長ハ文書ヲ以テ之ト契約シタル條件ニヨリ全部且最終ノ勘定ヲナスノ權能ヲ有スルモノトス前項ノ契約ハ之ヲ次ノ評議會ニ報告スハキモノトス

第三十三條 制限：：組合員ハ同時ニ組合ヨリ不能力ニヨル扶助金ヲ受領且會社ヨリ年金ヲ受領スルコトヲ得ス但シ年金ノ如何ニ拘ラス死亡扶助金ニ關シテ其組合員タル資格ヲ繼續スルコトヲ得組合員ハ同時ニ疾病及災禍ニヨル扶助金ヲ受領スルコトヲ得ス

第三十四條 再發：：疾病ニヨル不能力カ二週間以内ニ再發シタル場合又ハ一週間以上續キタル災禍後疾病ニヨル不能力續發シタル場合ニハ其ノ疾病ニヨル扶助金支給期間ヲ計算スル上ニ於テ最初ノ七日間ヲ割引スルコトナキモノトス

尙之ニ直接先チタリシ災禍ニヨル不能力ノ日數ヨリ少キコトヲ得ス
第三十五條 支拂：：引續キ不能力ノ爲メ支給セラルハキ扶助金ハ半月毎ニ之ヲ支拂フモノトス短期間ノ不能力ニ對スル扶助金ハ當該金額ノ決定アリ次第直ニ支拂ハルハキモノトス扶助金ハ不能力者タル組合員ニ對シテノミ支拂ハルハキモノトス又ハ組合長カ承認シタルトキハ其

ノ者ノ提出スル書面ニ基キ支拂ヒ又ハ其ノ者ノ法律上ノ代理者ニ之ヲ支拂フモノトス
扶助金ハ組合長カ扶助金ヲ引出スハキコトニ關スル文書ヲ受理シタル上ニテ作製シタル請求書ニ基
キ會社ノ會計規程ニ從ヒテ支拂ハルハキモノトス

死亡扶助金

第三十六條 疾病ニ因ル死亡：：疾病ニ基因スル死亡ノ場合ニハ一年間ノ平均貸銀額ト同額ヲ支給ス

第三十七條 災禍ニ因ル死亡：：災禍ニ基因スル死亡ノ場合ニハ二年間ノ平均貸銀額ト同額ヲ支給ス

第三十八條 死亡扶助金ニ對スル請求權ノ發生：：死亡扶助金ニ對スル請求ハ組合員ノ死亡後六十日
以內ニ之ヲナスモノトス

災禍ニヨル死亡扶助金ノ請求ヲナストキハ死亡ヲ惹起スルニ足ルハキ災禍ニヨリ身體上傷害ヲ受ケ
タルコトニツキ外見上確實且明瞭ナル證據アルコトヲ要ス其ノ他ノ原因ニ因ル死亡ハ疾病ニ因ルモ
ノトシテ之ヲ取扱フ

第三十九條 死亡扶助金ノ支拂：：死亡扶助金ハ其ノ他ノ不能力ニヨル扶助金未拂額ト共ニ請求權ノ

證明ニ基キ死亡者ノ扶助金受取人ニ之ヲ支拂フハキモノトス

死亡扶助金ノ一部(百弗ヲ超ユハカラス)ハ組合會長ノ自由ニ屬シ該組合員ノ死亡ニ伴フ葬式費其ノ
他緊急ノ入費ニ充ツル爲メ決算前ニ之ヲ内拂スルコトヲ得

第四十條 自殺：：組合員ニシテ其ノ入會後一年未滿ニシテ自殺シタルトキハ其ノ扶助金受給者タル
ハキ者ハ該組合員カ死亡扶助金ニ對シテ備出シタル金額ノミヲ受取リテ其ノ全請求權ヲ充實シタル
モノトスルコトヲ要ス

不能力

第四十一條 本規程ニ於テ不能力ト稱スルハ疾病若ハ災禍ニヨリ身體上業務ニ就クコト能ハサルモノ
ヲ謂フ且不能力者トハ其ノ身體上業務ニ就クコト能ハサルニ至リシ組合員ヲ謂フ

第四十二條 組合員カ不能力トナリ若ハ業務ニ就クコトヲ得ルニ至レル時期ニ關スル判定ハ本組合ノ
身體検査員ニ於テ之ヲナスモノトス身體検査員ノ判定ハ諸規定ニ從ヒ組合員ニ對シ最終ニシテ且繼
伴力ヲ有スルモノトス

第四十三條 通告：：就業中ノ組合員ニシテ不能力トナリタルトキハ直ニ其ノ録時係ニ通告シ若ハ之
ヲシテ了知セシムルコトヲ要ス且他ノ被傭人ハ其ノ上級役員ニ通告スハキモノトス

組合員ハ其ノ不能力ヲ通告スルニ當リ自己ノ住所ヲ提示スルコトヲ要ス
組合員ニシテ其ノ不能力トナリテヨリ恢復スル迄之ヲ通告スルコトヲ怠リタルトキハ扶助金ヲ受ク
ルコトヲ得ス但シ其ノ者カ其ノ不能力タリシコトヲ組合會長ノ認容スハキ様證明ヲナシ且其ノ通告
ヲナサザリシコトニツキ満足ナル理由ヲ提供シタルトキハ此限ニアラス

組合員ニシテ其ノ不能力トナリシコトヲ通告スルコトヲ延引シタルトキハ該通告ノ日以前ニ於テハ不能力ト認メラル、コトヲ得ス但シ其者カ該通告日以前ニ於テモ不能力ナリシコトヲ組合會長ノ認容スルキ様證明ヲナシ且其通告延引シタリシコトニツキ満足ナル理由ヲ提供シタルトキハ此限ニアラス

組合員ニシテ其ノ雇主ノ爲メニ就業中タルト若ハ缺勤休業中タルト問ハス其ノ外出中ニ於テ不能力トナリタルトキハ扶助金ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ者カ直ニ其旨ヲ通告シ且組合會長ノ認容スル様證明シタルトキハ此限ニアラス

第四十四條 通告：組合員ニシテ不能力トナリタルトキハ其ノ者カ不能力ノ爲メ通知ヲナスコト能ハサル場合ヲ除ク外就業時間内ニ於テ自ら直ニ身體検査員事務所ニ通知スルコトヲ要ス不能力トナリタル組合員ニシテ其ノ不能力ノ爲メ自宅ニ籠居セサルモノナルトキハ時々請求ニヨリ身體検査員事務所ニ報告ヲナシ且検査員ノ命スル他ノ指定事項ヲ遵守スルキモノトス

組合員ニシテ身體検査員ヲ忌避シ之ニ對スル報告ヲ怠リ若クハ其ノ指令ニ違背スルトキハ扶助金ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
組合員ニシテ身體検査員ヨリ業務ニ耐ユルモノト報告セラレタルモ當該時日ニ於テ就業スルコト能ハサルトキハ直ニ録時係並身體検査員ニ其ノ旨通告スルコトヲ要ス且身體検査員ニ對シテハ成ルヘ

ク自身通知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ反スルトキハ其ノ指定セラレタル復業日以後ニ於テハ不能力トシテ認メラレサルモノトス

第四十五條 他行：不能力トナリタル組合員カ他行セント欲スルトキハ特定期間内他行ニ關スル身體検査ノ文書ニヨリ承認ヲ受理スルコトヲ要ス且其ノ他行ノ間不能力ニ關スル満足ナル證明ヲ該検査員ニ提供シ歸宅後ハ直ニ其ノ旨通告スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ反スルトキハ他行中扶助金ヲ受クルコトヲ得ス
第四十六條 酩酊其ノ他ノ原因ニ基ク不能力ニ對スル扶助金ノ不拂：酩酊其ノ他酒精飲料ノ飲用、刺戟劑若クハ麻醉劑ノ亂用、不法行爲若クハ不行跡、原因ノ如何ニヨラス花柳病及其ノ結果、尿道炎、睾丸炎、副腎丸炎、狹窄、麻痺、鼠蹊ノ膿瘡、不當ノ加害行爲ニ對スル自衛行爲以外ノ爭鬪若ハ相撲、喧嘩、嬉戲其ノ他ニヨリ衝突、口論若クハ酒場、賭博場其ノ他鄙猥ノ場屋ニ於テ受ケタル傷害ニ因リ間接直接若クハ一部ニツキ惹起セラレタル不能力ニ對シテハ扶助金ヲ支給セサルモノトス

前項ニ掲クル原因ニヨリ不能力ノ間該組合員ハ死亡扶助金ニ對シテノミ醜金ヲナシ且其ノ資格ヲ保有スルコトヲ得ルモノトス

検査

第四十七條 組合員ニシテ其ノ不能力ニヨル扶助金ノ請求ヲナシタル場合ニ於テ身體検査員カ其ノ者ノ状態ヲ確ムルノ必要アリト思惟シタルトキ該検査員若クハ他ノ醫員ノ行フハキ身體検査ヲ拒否スルモノハ扶助金ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

不能力トナリタル組合員ハ自ラ適當ノ注意ヲナシ適當ノ處置ヲ採ルコトヲ要ス身體検査員ノ指令ニ從フコトヲ拒否シ若クハ怠リタルトキハ其ノ者ニ對スル扶助金ノ支給ハ之ヲ停止スルモノトス

二、國際收穫業會社及其ノ附屬會社ノ年金制度

重役會ハ本問題ヲ熟考シ且現行年金諸制度ヲ研究シタル結果左案ヲ以テ彼ノ長年月ノ間忠實ナル勞務ヲナシ名譽アル退職ヲナスニ至リシ被備人ニトリテ最良且最寛ナルモノナルコトヲ承認セリ

重役ハ被備人ノ忠實堪能且熱誠ナルコトヲ了認セルノ表證トシテ爰ニ此年金基金ヲ創設セリ
本年金制度ノ經營上國際收穫業會社、亞米利加國際收穫業會社並其ノ附屬諸會社ハ相聯合スルモノトス

年金事務局

第一條 管理……本年金基金ハ年金事務局ノ管理ニ屬スルモノトス年金事務局ハ本會社若クハ其ノ附屬諸會社ノ被備人若クハ役員ニシテ本會社ノ重役會カ毎年任命シタル五名ノ委員ヨリナルモノトス各委員ノ任期ハ一箇年トシ其ノ後任者カ任命セラレ就職スル迄在職スルモノトス

第二條 役員……年金事務局ハ其ノ委員中ヨリ議長一名書記長一名ヲ互選スルモノトス且本會社ノ會計長ハ職權ニヨリ當然本基金ノ會計主任ヲ兼務スルモノトス

事務局ハ本年金基金ノ管理ヲ堅實ナラシムル爲メ規程ヲ制定施行スルコトヲ得但シ重役會ノ承認ノ經ルコトヲ要ス

年金事務局ハ以下規定スル所ニヨリ年金ノ支給ヲ取扱フモノトス

第三條 定足數……年金事務局ニ於テハ凡テノ目的ニツキ多數者ヲ以テ定足數トス

第四條 代表……事務局ノ委員ハ各主要業務ヲ代表スル様任命セララルコトヲ要ス

年金基金

第五條 本會社ノ會計長ハ本基金ノ保管者ニシテ且會計主任タルハキモノトス

年金基金ハ年金支給總額及之カ支拂ノ爲メニ年金基金ヨリ支出スハキ金額ニ準シ毎年若ハ時々之カ増額ヲ計ルコトヲ要ス

一年間ニ於テ年金支給總額カ十萬弗ヲ超ハ然モ重役カ其ノ年金ニ繰入ルハキ年額ヲ増加セザルトキハ新率ニヨリ凡テ支給ヲ比例的ニ減額スハキモノトス

本基金ヨリスル支拂ハ年金事務局ニヨリ其ノ指定ノ下ニ於テノミ之ヲナスハキモノトス

受給資格

第六條 年金事務局ハ退職セル被備人ニ對シ左ノ標準ニ基キテ年金ヲ支給スルノ機能アルモノトス
(イ)本會社並其ノ附屬諸會社ノ被備人ニシテ其ノ作業ニ從事スル者ハ以下規定スル所ノ年金ノ受給資格アルモノトス

(ロ)凡テ男子タル被備人ニシテ年齢六十五歳ニ達シ且在職二十年以上ナルトキハ自己ノ希望ニヨリ若ハ年金事務局ノ指令ニヨリ現業ヲ退キ年金ノ支給ヲ受クルコトヲ得

(ハ)在職二十年以上ノ男子タル被備人ニシテ年齢七十歳ニ達シタルトキハ該年齢ニ達シタル月ノ翌月ノ最初ノ日ニ於テ退職スルコトヲ要ス但シ年金事務局ニ於テ之ニ異リタル日ヲ指定シテ退職日ヲ延期シタルトキハ此限ニアラス

前項ノ年齢最高限度ニ關スル規定ハ本基金ノ常務ニ關スル職務ヲ有スル者ニハ之ヲ適用セス

意 義

第七條 就職及在職ノ語ハ國際收穫業會社現在若クハ將來ニ於ケル其ノ附屬諸會社及亞米利加國際收穫業會社ノ被備人ニシテ是等諸會社ノ一ヨリ一定ノ給料ヲ受クル者ニ之ヲ適用ス

就職ナル語ハ國際收穫業會社若クハ其ノ附屬諸會社又ハ亞米利加收穫業會社ニ其ノ財産及業務ヲ讓渡シタル元ノ會社ニ對シ就職シタル時ニ遡リテ之ニ適用ス

第八條 一時退職 疾病若クハ減員ノ爲メ一時休業ヲ命スルトキハ其ノ者ノ就職ノ繼續ヲ中断スル

モノトナスコトヲ得ス但シ該退職期間カ六個月ヲ超ユルトキハ其ノ者ノ實際上ノ在職年限ヲ算定スル上ニ於テハ之ヲ差引クハキモノトス

第九條 退職 退職後二個年以上ヲ經テ再ヒ復職スルトキハ其ノ者ノ年金制度トノ關係ニ於テハ新雇備者トシテ之ヲ取扱フ

年金支給及其ノ條件

第十條 金額 年金事務局カ年齢ノ制度ニヨリ退職シタル被備人ニ對シ毎月支給スルコトヲ得ハキ金額ハ左ノ如シ

在職各一年ニツキ其ノ者ノ退職前十年間ニ於ケル平均年賃額ノ百分ノ一ヲ支給ス但シ年金ハ一個月ニツキ百弗以上若クハ十八弗以下ナルコトヲ得ス

第十一條 支拂 (イ)年金ハ被備人ノ退職ノ日ヨリ死亡ニ至ル迄毎月初メニ之ヲ支拂フモノトス

(ロ)年金受給者ノ寡婦若クハ孤兒ニ對シ一定ノ期間年金ノ支給ヲナスト否トハ年金事務局ノ任意トス

(ハ)年金ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス之ヲ讓渡若クハ質人セント企ツルトキハ年金事務局ニ於テ之ヲ承認スルコトヲ得ス此場合ニ於テ年金事務局ハ任意其ノ者ノ年金受給權ヲ剝奪スルコトヲ得

(ニ)重大ナル不行跡若クハ規程ノ違反アリタルトキハ年金事務局ハ年金ノ支給ヲ中止若クハ停止シ

又ハ任意其ノ者ノ家族ニ之ヲ支給スルコトヲ得

(五)退職セル被備人ハ其ノ年金受給ノ故ヲ以テ年金事務局カ本會社若クハ其ノ附屬諸會社ノ利益ニ抵觸セサルモノト認メテ他ノ職業ニ從事スルコトヲ妨ケラレ、コトナキモノトス但シ其ノ者ノ復職ヲ許サス

(六)本會社若クハ其ノ附屬諸會社ノ與フル扶助金ノ支給停止セラル、迄ハ年金事務局ハ之ニ年金ノ支給ヲ承認スルコトヲ得ス

年金：算定法

第十二條 老年ノ爲メニ支給スヘキ年金額ハ左ノ二條件ニ準據スルモノトス

一、本會社ニ於ケル其ノ者ノ在職年數

二、其ノ者ノ退職前十年間ニ於ケル貸銀年額ノ平均

前項ヲ例示スレハ其ノ者ノ最近十年間ニ於ケル貸銀年額平均六百弗トシ且其ノ者ノ在職年數ヲ二十年トスルトキハ年金額ハ六百弗ノ二割五分乃チ百五十弗ニシテ月額十二弗五十仙ナリトス然ルニ年金最小限度ヲ月十八弗ト定メアルヲ以テ該算出額ニ五弗五十仙ヲ加ヘテ月額十八弗トシ其ノ者ノ年金月額トス

特ニ其ノ者ノ在職二十年以下ナル場合ニ於テハ其ノ者ノ年金額ハ全然年金事務局ノ任意決定スル所

トス

各業務主任ハ元ノ被備人ニシテ年金ノ支給ヲ受クル者ニツキ其ノ境遇及健康状態ノ報告ヲ徴シ且其ノ者ノ死亡並其ノ他其ノ者ノ受領セル月額額ニ影響ヲ及ボスヘキ他ノ事情ニツキ年金事務局ニ報告スルコトヲ要ス被備人ニシテ不能力ノ爲メ年金ノ支給ヲ受ケテ退職センコトヲ志望スルトキハ會社附屬ノ醫員ノ身體検査ヲ要スルモノトス若シ女子ナル被備人ナルトキハ年金事務局ノ承認シタル醫師ノ身體検査ヲ要スルモノトス

年金受給手續

第十三條 被備人ニシテ年金ノ受給ヲ志望スル者ハ先ツ其ノ雇傭セラル、業務ノ監督者若クハ其ノ就業セル部局ノ主任又ハ年金事務局ノ一委員ニツキ之ニ關スル申出ヲナスヘキモノトス
前項ノ申出アリタルトキハ之カ用紙ヲ交付スルモノトス出願者ハ用紙ニ自己ノ年齢、在職年數及賃銀等必要ノ事項ヲ記載シ之ニ記名調印スルモノトス
前項用紙ニコル出願書ハ當該出願者ヲ雇傭セル業務監督者若クハ該部局ノ主任之ニ署名シ年金事務局書記長ノ事務所ニ之ヲ送付スヘキモノトス

契約上ノ權利ノ否認

第十四條 本制度ノ設定、年金ノ給與其ノ他年金事務局若クハ本會社ノ役員カ現在若クハ將來ニ於テ

ナスハキ他ノ行動ハ何等契約ヲ締結シ若クハ役員、代理者若クハ被備人ニ其ノ業務ニ包含セラルハキ權利ヲ與ヘ又ハ年金受給者ニアル種ノ權利ヲ與ヘタルト思惟スルコトヲ得ス且本會社ハ本會社ノ利益上必要ト認ムル場合ニハ未拂ノ給料若クハ貸銀ニ關スルモノ、外何等ノ負擔ナクシテ被備人ヲ雇傭シ得ルノ權利アルコトヲ茲ニ明白ニ留保スルモノトス

二、共助基金並慈惠會

一、紐育救護貸費會規約(抜萃)

第一條 本會ヲ紐育救護貸費會ト稱ス

第二條 本會ハ其ノ認メテ金銀上ノ救護ヲ要ストナス者ニ對シ個人ノ資産ヲ擔保トシテ利付貸費ヲナシ之ヲ救濟スルヲ以テ目的トス

第三條 (一)本會々員ハ左ノ者ヨリ成立ス

イ、創立會員

ロ、一八九四年四月二十五日ノ創立總會ニ於テ創立會員カ入會ヲ認メタル者

ハ、爾後五百弗以上本會ニ對スル儲金證書ヲ所得シタル者並評議員會ノ四分ノ三又ハ理事會全員ノ票決若クハ文書ニヨル同意ヲ以テ本會員ニ選舉シタル者

(二)紐育市長、紐育市會計監査吏、警察部長、慈惠部長並左記諸團體長ヲ本會ノ名譽會員トス

紐育市慈惠協會、貧民境遇革進會「セント、ピンセント、ゾーボール」協會及聯合「ハブリユ

」慈惠會

第四條 本會ノ事務ハ本會員ヲ以テ組織セル十五名ノ評議員會ニ於テ之ヲ管理ス

第五條 本會ニ各一名ノ會長、主事及會計主任ヲ置ク但シ凡テ評議員會ノ一員タルコトヲ要ス……

評議員會ハ隨時其ノ便宜ト認ムル所ニヨリ他ノ役員若クハ代理者ヲ任命スルコトヲ得

第六條 評議員會ハ其ノ役員選舉會ニ於テ會長、主事及會計主任ノ外四名ノ常務理事ヲ選任スルコトヲ要ス會長、主事及會計主任ハ理事會ノ名譽會員トス

前項理事ノ任期ハ一箇年トシ其ノ後任者就職スル迄在職スハキモノトス理事會ハ評議員會會期ノ中間ニ於テ之ニヨリ委任セラレタル全職權ヲ實行スルモノトス

第七條 毎年二月第一月曜ニ本會總會ヲ開ク但シ臨時會ハ會長ヨリノ召集若クハ會員十名ノ請求ニヨリ何時ニテモ開會スハキモノトス

二月四月及十一月第一月曜ニ於テ評議員會ノ例會ヲ開ク但シ臨時會ハ會長ヨリノ召集若クハ同會員五名ノ請求ニヨリ何時ニテモ開會スハキモノトス

第十條 本會ノ共同的目的ヲ達スハキ資金ハ左ノ各種ヨリ成立ス

(一) 寄附金若クハ遺贈

(二) 儲金但シ儲金者ニ對シテハ該儲金額ニ關スル證書ヲ支給シ且該證書所持人ハ評議員會ノ定ムル所ニ依リ毎年法定歩合ヲ超ハサル割合ヲ以テ該儲金額ニ對シ利益金ヲ割當テラルハキコトヲ條件トス

(三) 法定歩合ヲ超ハサル利率ヲ以テスル貸金

第十一條 本會ハ其ノナシタル貸付金ニ對シ現在質屋營業者カ法律上認許セラレタル利率ノ二分ノ一以上ノ利子ヲ負擔セシメ又ハ受領スルコトヲ得ス

二、聖路易救護組合規約

第一條 本組合ヲ聖路易救護組合ト稱シ且理事會ニ於テ本組合員メルコトヲ選任シタル儲金者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ教會若クハ他ノ慈善的團體ノ行動ト同シク貧民ノ利益ヲ監視シ必要ニ應ジテ之ニ職業ヲ授ケ並其ノ最モ適法ト認ムル方法ニヨリ之ヲ救済スルコトヲ以テ目的トス

第三條 本組合ハ三十名ノ理事會ニ於テ凡テ其ノ權限ヲ行フモノトス

本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長、副組合長、主事並會計主任各一名

主事及會計主任ハ理事會員メルコトヲ要セス但組合長及副組合長ハ理事會員中ヨリ之ヲ選任ス

第四條ヨリ第八條ニ至ル規定ハ管轄事項ニ關ス

主義、目的及方法

本組合ハ左ノ如キ主義及規程ヲ承認シ且之ニ基キテ行動スハキモノトス

第一項 (一) 本組合ノ救護ヲ正當ニ受クハキモノナルトキハ其ノ者ノ信仰、政派若クハ民族ノ如何ニ拘ラス之カ施與ヲナスハキモノトス但シ他ノ慈善的團體ノ事業ニ關係ヲ及ボスコトヲ避ケ又ハ同時ニ數個ノ施與ヲ受ケシムルコトヲ防ク爲メニ現在存スル教會若クハ他ノ團體ニ關係アル者ニシテ救護ヲ請求スルモノナルトキハ緊急ノ場合ニハ實地視察ノ上直ニ救護セラル、モノトス此場合ニ於テ事務長ヨリ返信用封筒附ニテ書面ヲ以テ其ノ者ノ屬スル教會若クハ其ノ者ノ爲メニ尙特別ノ關係アル慈善團體ニ照會スルモノトス

前項ノ教會若クハ團體ヨリ拒否ノ理由ヲ附シテ文書ヲ以テ回答シ來ルトキハ本組合ニ於テ進ンテ審議ヲ遂クハキモノトス

(二) 本組合ニ於テ如何ナル職務ヲ擔當スル者ト雖モ其ノ地位ヲ改宗ノ目的ニ利用スルコトヲ得ス

(三) 本組合最終ノ目的ハ貧困者ヲ身體上及道德上昂進セシムルニアリ且本目的ニ適合シ得ハキ限りハ貧困者ノ必要物ノ施與ノ範圍ヲ擴張スルモノトス

(四)貧困者ニシテ全部若クハ一部自活ニ堪ユル者ナルトキハ出來ル丈ケ就職ヲ以テ救護ノ基礎トナシ不熟練ナル者ニ對シテハ産業的練習ヲナサシム貧困者ヲシテ尙モ實行シ得ハキ自助的方法及範圍ニ於テ自己ヲ啓發昂上セシムルハ本組合ノ主眼トスル所トス

(五)救護ヲナスニ先チ必ス之カ審査ヲナスコトヲ要ス但シ臨機一時的救護ヲ爲ス場合ニハ此限ニアラス此場合ニ於テハ施與ノ後審査ヲナスモノトス

第二項 本組合ハ聖路易市ニ於テ教會若クハ他ノ慈惠的團體若クハ市救貧制ノ施與ヲ蒙ラサル貧困者不遇者及孤獨者等ノ幸福ヲ増進シ且無責任ナル團體及不當ナル受救者ノ爲メニ慈惠社會ノ負擔ヲ重クスルコトヲ防衛シ且市街乞食及其ノ他各種ノ物賈並貧民ヲ減少防壓スルノ目的ヲ以テ組織セルモノトス

本組合ノ特殊的目的並方法ハ左ノ規定ニ依ル

(一)救護所ヲ設立維持シ一時的就業、産業的練習及經濟上ノ教習所トシ若クハ無宿者ニ對スル宿泊所トシ女工ノ爲メニ其一時的子供預所トシ又自助的貯蓄ノ慣習ヲ獎勵スルモノトス且貧民及不遇者ヲシテ自重的思想並獨立的目的ヲ發生増進セシムハキ方法ニヨリ救護スルコト

(二)本組合ノ管理所ハ全市ニ於ケル貧民ノ狀況及窮乏ニ關スル中央報知局ヲ構成シ且各種ノ場合ニ應シ之カ研究ニ趣味ヲ有スル人ヲシテ無報酬ヲ以テ探究セシメ其ノ結果ヲ報告スルコト

(三)社會上並衛生上ノ革進ニヨリテ貧民ノ一般幸福ヲ増進シ且工場及借長家ニ關スル市ノ衛生的條例及規則ヲ實行スルコト

(四)市常局、公私慈惠團體、教會及個人的慈善家ノ間ニ誠實ナル通信ヲ助成シ一致的且有效ナル協力ヲナサシメ以テ救護ノ重複ニヨリ生スル弊害ヲ阻止シ且希望セララルル限り之等ノ間ニ交互通信ノ中心トシテ行動スハキコト

(五)周密ナル瞞着及詐欺ヲ摘發シ且其ノ違背者ヲ制裁シテ眞ニ窮迫シ且救助ヲ要スハキ貧困者ノ幸福ヲ増進スルコト

(六)救貧ニ關スル各種事項ニツキ智識ヲ蒐集分配シ且該事項ニ關スル縱覽無料ノ圖書室ヲ維持スルコト

(七)學齡兒童ノ就學ヲ獎勵シ且已ムヲ得サル事情アルモノノ外本組合ノ救護ヲ受クル父母ヲシテ兒童ヲ就學セシムルコトヲ要求スルコト

主 要

第一、本部：(一)全市ノ慈善事業ニ關スル通報局

(二)團體組織ノ慈善主義ニ基ク教育的機關

(三)本組合ノ事業ニ對スル總管理部

(四) 調査部：調査ハ私人、病院、施療院其ノ他ノ機關ノ爲メニ之ヲナス此目的ノ爲メ並新ニ救護ヲ要求スル家族カ之ニ適應スルモノナリヤヲ確ムル爲メ登録部ニ關係スル特別ノ調査員ヲ設置スルモノトス

(五) 登録部：本組合ノナシタル總テ調査事項並其ノ救護ノ下ニアル家族ノ爲メニナシタル事項ニツキ確實ナル記録ヲナス通報ハ當該家族ニ對シ慈惠上ノ利害ヲ有スル者ニ對シ本部ヲ經テ又ハ郵便ヲ以テ之ヲナスモノトス

(六) 救護部：凡テ救護ノ要求ヲ受理スルモノトス本組合ノ行動ヲ求ムルニ適當ナル候補者ヲラスト認メラレタル者ハ其ノ相當ノ救護所ニ差向ケラルヘキモノトス

第二、仕事場：家族ヲ伴ハル住居者ニ現金ニヨル報酬ヲ得セシメン爲メニ業務ヲ給與シ且其ノ就業ノ意思如何ヲ審驗スル爲メニ之ヲ設ケ尙無宿者ハ食事及宿泊ヲナスコトヲ得

第三、婦女宿舍：無職無宿ノ婦女子ノ一時的宿舍トス

第四、不熟練婦女ノ仕事場：裁縫室委員ノ管理ニ屬シ裁縫及工場労働上ノ練習ヲ要スル婦女子ニ對シ業務ヲ給與シ現金、衣類若クハ雜貨ヲ以テ之カ貸銀ヲ支給スルモノトス

第五、洗濯所：洗濯所委員ノ管理ニ屬シ家族ヲ伴フ婦女子ニ對シ一時的業務ヲ給與スルモノトス

第六、相助零細貯蓄銀行：零細資金ノ貯蓄ヲ獎勵スルモノトス

第七、出版物：「慈惠ノ榮」ヲ毎半季ニ出版シ全市ニ於ケル各種ノ慈善救濟制度ニ關スル正確ナル通報ヲナシ且臨時「警示一覽」ヲ出版シテ詐欺ヲ防衛スルモノトス

第八、圖書室：實用社會學ニ關スル參考書ヲ備ヘ凡テ慈善事業ニ趣味ヲ有スルモノノ縦覽ニ供スルモノトス

第九、出張看護部：看護人ヲ訓練シテ病ノ貧困者ノ下ニ出張看護セシムルモノトス

第十、晝間子守：晝間六歳未満ノ兒童ノ守ヲナシ之ヲ看護教訓スルモノトス手数料ハ一日五仙トス

第十一、男子宿舍：無宿ノ男子ノ宿舍トシ仕事場ニ於テ三時間半就業スルトキハ夕食、入浴、宿泊及朝食ヲ得セシムルモノトス

第十二、男女及兒童ニ對スル廉價入浴場：濯水浴若クハ温水浴ニシテ温湯及冷水浴料ハ壯年者ハ五仙トシ父母ニ伴ハレタル兒童ハ無料トス

三、ブルックリン「慈惠協會細則（抜華）

一八七八年ニ組織セラレ一八八七年法人トナリシ「ブルックリン」慈惠協會並一八六六年ニ組織セラレ一八七一年ニ法人トナリシ「ブルックリン」市耶蘇教徒慈善組合ハ一八九五年ノ法律第五百五十九章ニ據リ高等法院ノ認可ヲ經テ一九〇一年五月一日「ブルックリン」慈惠協會ノ名稱ノ下ニ合同シタルモノナリ

第一條 名稱：…本會ヲ「ソルツクリン」慈善協會ト稱ス

第二條 目的：…本會ハ「ソルツクリン」市ニ於ケル貧者、不遇者及孤獨者ノ幸福ヲ増進スルヲ以テ目的トス其ノ方法左ノ如シ

- 一、慈善團體、教會及個人間ノ誠意的協合ヲ助長スルコト
- 一、貧困者ニ對スル友誼的慰問者ノ一團ヲ設置スルコト
- 一、貯蓄、自主並產業ヲ獎勵スルコト
- 一、一時的就業並產業的訓練ニ備フルコト
- 一、貧民救助ニ關スル各種事項ニツキ智識ヲ蒐集配分シ且該事項ニ關スル縱覽無料ノ圖書室ヲ設クルコト
- 一、各種課徴ヲ防止シ且乞食及窮民ヲ減少スルコト

第三條 管理：…(一)本會ノ資産及管理ハ理事會ニ於テ之ヲ管掌ス理事會ハ二十四名ヨリ成リ其ノ任期ヲ三箇年トシ若クハ其ノ後任者ノ就職スル迄在職スルモノトス且毎年總會ニ於テ各八名宛ヲ改選スルモノトス

第四條 ヲリ第七條迄ハ會員資格、會合、役員及常務委員會ニ關ス

第八條 支部會：…(一)本市内各區若クハ其ノ他ノ區分ニ據リ出來ル丈ケ速ニ支部會ノ設立スルコト

ヲ要ス支部會成立後ハ理事會若クハ常務委員會ヨリノ請求アリタルトキハ該支部會ノ人名簿ヲ理事會若クハ常務委員會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クハキモノトス

(二)各支部會ハ當該區内ニ活動セル本會ノ友誼的慰問者及當該區内ニ住居スル本會ノ役員並委員會員ヲ包含ス

(三)各支部會ハ十一月第二週ニ於テ毎年總會ヲ開催スルコトヲ要ス

各支部會ハ自己ノ役員ヲ選任シ且本會ノ目的ヲ進捗セシムハキ細則並規程ヲ採用スルコトヲ得但シ理事會ノ監督ニ屬シ其ノ承認ヲ經且本細則若クハ理事會ニ於テ將來ニ採用スハキ規程ニ抵觸スルコトヲ得ス

凡テ支部會議ノ記事ハ明細ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

(四)各支部會ハ如何ナル目的ノ爲メニモ本會ノ基金ヲ貸付クルコトヲ得ヌ又ハ販恤ノ目的ノ爲メニモ之ヲ要求若クハ受領スルコトヲ得サルモノトス但シ其ノ會合費及必要ナル文房具費トシテ經費ヲ徵收スルコトヲ得

(五)各支部會ノ會長若クハ主事ハ五月一日若クハ其ノ以前ニ於テ當該支部會ノナシタル事業年報ヲ理事會ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ年報ニハ役員及委員ノ氏名、前年中ニ慰問シタル友誼的慰問者ノ氏名、同年中支部會ニ於テ報

告セラレ若ハ取扱ハレタル事件ニ關スル分類の記述並支部會ノ收支決算書ヲ添付スルコトヲ要ス

(六)支部會ノ主事ハ本部主事長ニ對シ新任役員若クハ委員氏名、新入友誼的慰問者ノ氏名並支部會ノ友誼的慰問者ノ報告シタル凡テノ事件ニ關スル氏名、住所及記事ヲ報告スハキモノトス

第九條 友誼的慰問者：(一)第二條ニ規定スル目的ノ爲メニ一區内ニ於ケル不遇者及窮乏者ヲ慰問セント欲スル者ハ委員ノ票決ニヨリ之ヲ該區ノ友誼的慰問者トシ又ハ委員會ノ票決ニヨリ友誼的慰問者タル資格ヲ創修スルコトヲ得

(二)友誼的慰問者ハ貧困者及不遇者ヲ友愛ヲ以テ慰問シ且温情ヲ以テ其ノ困窮ノ原因ヲ審査シ該原因ヲ除却スハキ全手段ヲ盡シ各人ノ有スル技能ヲ了認シ之ヲ助長シ且之ヲ自助ノ爲メニ利用スルノ方便ヲ索出シ友誼的交際、同情及訓戒ヲ以テ其ノ獨立心、生業及貯蓄ヲ獎勵シ身體疾患アリテ全瘵若クハ恢復スルコト能ハサル者ノ苦痛ヲ輕減スハキ各種ノ良法ヲ勸メ若シ物質上ノ扶助ヲ必要トスルトキハ現存團體ヨリ出來ル丈ケ潤澤ニ之ヲ得セシメ各種ノ方法ヲ以テ慰問者ノ所管ニ屬スル家族ノ身體上並道德上ノ革進ヲ圖ル義務アルモノトス

(三)友誼的慰問者ハ隨時當該支部會ノ主事ニ對シ自己ノ取扱ヒタル事件並之カ處置上ノ成行ニ關シ詳細ナル報告ヲナスノ義務アルモノトス

(四)友誼的慰問者ニ自己ノ地位ヲ利用シテ改宗ノ目的ニ私スルコトヲ得サルモノトス

第十條 一時的就業所：(一)仕事場、洗濯所、作業室其ノ他必要ニ應シ一時的業務ヲ供給シ産業上ノ

教育ヲ施與シ又ハ本會ノ宣明シタル目的ヲ實行スル爲メノ計畫若クハ手段ニ關スル設備ハ理事會ノ指揮ノ下ニ其ノ票決ニヨリ之ヲ設置スルモノトス

受救志望者ニ對スル本會ノ準備

「プロックリン」市ニ於ケル受救志望者ニ關スル三十年以上ニ亘ル報告ヲ登載セル記録簿ヲ備フルコト
本記録簿ニコト報告書ハ窮民ノ慈善的救護ニ關係ヲ有スル者ノ請求ニ應シ無料ニテ供給セララルモノトス

救護ノ重複ヲ避ケ虚偽ノ口實ノ下ニ救護ヲ請求スル者ニ對スル浪費的施與ヲ節約シ且個人又ハ團體カ其ニ扶助ヲ必要トスル者ニ對シテ爲シ得ハキ施與ヲ増加スハキコト
貧困者ノ救濟方法ニ關シテ市内各所ノ支部會ニ於テ審議セシムルコト
贈金者タルト否トヲ問ハス各人ニ對シ無料ヲ以テ其ノ業務ヲ提供スルコト

各人ノ本會ニ對スル助勢

本會ノ仕事場及洗濯所ヲ愛顧シ以テ自主的ノ貧困者ヲシテ自助ヲナスノ機會ヲ得セシムルコト
本會ノ會計ニ出來ル丈ケ潤澤ノ贈金ヲ爲スコト各種貨物乃チ雜貨、食品、衣類、古麻布、慰問看護人用綿服、敷物絨用絲屑、家具、書籍及雜誌ノ寄贈ハ有益ニ利用セララルヘク事務所宛通告アルトキハ受取人

ヲ差向クハキコト

本會ニ於テ手働キノ間仕事ニ男女ヲ使用スルコト封筒ニ宛書ヲナシ又ハ其ノ他簡單ナル書記的業務ニ對スル機會ハ特ニ志望ニヨリ之ヲ提供ス

事務所、仕事場及晝間子守所ヲ訪問シ且受救者ニ對シ個人的慈惠ヲナスコト晝間子守所ニ於ケル兒童

ニ對シテハ自身及其ノ家族ノ爲メニ助勢タルハキ機會ヲ與フルコト

各自ノ友人及隣人ノ間ニ貧困ヲ救護防止スルノ良策ヲ審議スハキ會合ヲナシ尙出來得ハクンハ貧困ナ

ル家族ヲ慰問スルコト

各自ノ聞知シタル窮狀ヲ凡テ本會ニ報告スルコト

ホ、建物及寄宿舍規程

一、市俄古建物條例：貸家及間貸家ニ關スル規定ヨリ拔萃(第六級)

建物等級：貸家及間貸家ヲ第六級トス乃チ建物ノ全部若クハ一部カ各自別房ニ於テ二個以上ノ家族ノ住居ニ使用セラルルモノトス

第六級ノ壁ノ厚サ：第六級ニ屬スル建物ハ左ノ條件ヲ充スコトヲ要ス

第六級ニ屬スル建物ノ周壁ハ左ノ標準ニ從フハキモノトス

建物種類	階數	地下室	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一階	屋	三	八	八	三									
二階	屋	三	三	三	三									
三階	屋	一六	一六	一六	三									
四階	屋	〇〇	一六	一六	三									
五階	屋	〇〇	一六	一六	三									
六階	屋	〇〇	〇〇	一六	一六	三								
七階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三							
八階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三						
九階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三					
十階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三				
十一階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三		
十二階	屋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一六	一六	三

但シ鐵骨防火建築家屋ニ於テハ壁ノ厚サハ本章第五百十條ノ規定ニ從フモノトス

避火梯：四階以上ノ貸家ニハ本州ノ法律及本市ノ條例ノ要求スル所ニ據リ一個又ハ數個ノ避火梯

ヲ設備スルコトヲ要ス各分階セラレタル室房ハ少クトモ一避火梯迄ノ直路アルコトヲ要ス但シ該室

房ニシテ他室房ヲ通過スルコトナクシテ平地ニ達スヘキ少クトモ二個ノ階段ニ通スルトキハ此限ニ

アラス此場合ニ於テ該階段ハ一ハ建物ノ前部ニ一ハ其ノ後部ニアルコトヲ要シ且建物ノ外部ニ設備セルモノナルコトヲ要ス

各分隔セラレタル室房カ二個ノ階段ニ通セザルモノナルトキハ避火梯ノ椽臺ノ間ニ金屬ノ階段ヲ設備スルモノトス階上橋ハ建物ノ壁ニ緊着セシメ幅二呎以上トシ適當ナル手摺ヲ附シ以テ通常ノ直立梯ニ代フルモノトス

避火梯ヲ設備セル庭地ハ平地ニ沿ヒ街路、路地若クハ空地ニ直通シ且他ノ建物ヲ通過シ又ハ越行クコトナクシテ街路若クハ路地等ニ赴クキ通路アルコトヲ要ス但シ庭地若ハ平地ニ於テ四呎幅ノ防火通路存スル場合ハ此限ニアラス

階段及廊下：：建物ノ改築：：要件：：現在存スル又ハ將來新築スル貸家ハ人口ヨリ最高階上迄通スル二個以上ノ階段アルコトヲ要ス

各貸家ニ於ケル階段及廊下ハ内法三呎以上アルコトヲ要ス且各室房ハ直接該階段ニ通スルキモノトス

現在貸家ヲ其ノ室數ヲ増加シ高サヲ高クシ若クハ火災其ノ他ノ爲メニ階段及行廊カ原價ノ二分ノ一以上損害ヲ受ケタル爲メ改築ヲ要スル場合ニハ人口階段、玄關及廊下等ハ新築貸家ニ關スル本章ノ規定ニヨリ之ヲ建築スルコトヲ要ス

手摺及防欄柵：：各貸家ニ於ケル階段ニハ充分ナル手摺及防欄柵ヲ設クルコトヲ要ス

防火建築ニアラサル八十室ヨリ百二十室迄ノ家屋：：防火建築ニアラサル貸家ニシテ浴室ヲ除キテ室數八十以上ヲ有スルモノハ八十室又ハ其端數ヲ加フル毎ニ一個ノ階段（前掲ノ規定ニヨル階段以上ノモノ）ヲ設備スルキモノトス但シ該建物ニシテ浴室ヲ除キテ室數百二十以下ナルトキハ所有者ノ任意ニ依リ階段ヲ増設スル代リニ全建物内ノ凡テノ階段及行廊ヲ本章第三百九十五條及第四百二條ニ規定スル所ヨリ二分ノ一以上ノ幅ヲ増加スルコトヲ得

百二十室以上ノ防火建築ノ家屋：：浴室ヲ除キテ室數百二十以上ヲ有スル防火建築ノ家屋ハ百二十室又ハ其端數ヲ加フル毎ニ一個ノ階段（前掲ノ規定ニヨル階段以上ノモノ）ヲ設備スルキモノトス但シ該建物ニシテ浴室ヲ除キテ室數百八十以下ナルトキハ所有者ノ任意ニ依リ階段ヲ増設スル代リニ全建物内ノ凡テノ階段及行廊ヲ本章第三百九十五條及第四百二條ニ規定スル所ヨリ二分ノ一以上ノ幅ヲ増加スルコトヲ得

階段昇口、階段及蹴込板：：貸家ニ設備スル各階段ハ街路若ハ路地ヨリ又ハ街路若ハ路地ニ通スル庭地若クハ空地ヨリノ入口ニ其ノ外口ヲ設クルコトヲ要ス新ニ建築スルキ貸家ニ於ケル後部階段以外ノ階段ハ翹形際ヲ除キテ七吋四分ノ三ヨリ高カラサル蹴込板並九吋半ヨリ廣カラサル踏段ヲ置クモノトス但シ翹階段ニ於テハ壁際ノ開展部ヨリ十八吋ノ點ニ於テ其ノ幅翹形際ヲ除キテ九吋二分

ノ一以上アルコトヲ要ス

階段及廊下：…三階以上：…耐火硝子：…新ニ建築スヘキ貸家ノ階段及廊下ハ高地盤ノ三階以上ナル

トキハ全部不燃性ノ材料ヲ以テ建築スルコトヲ要ス但シ階段ノ踏段(厚サ一時四分ノ三以上ノ)及凡

テ手摺ハ硬キ木材ヲ用フルコトヲ得

高地盤三階以上ノ新築スヘキ貸家ニ於ケル廊下ノ窓ハ内庭若クハ屋内ニ面セルモノハ良質ノ耐火硝

子ヲ使用スヘキモノトス

石材ヲ以テ圍ミタル廊下：…要件及例外：…(一九〇七年二月十八日改正)防火建築ニヨラスシテ新ニ

建設スヘキ貸家ニ於ケル凡テ廊下ハ周壁ニツキ特定セラレタルト同一ノ容積寸方ノ石材ヲ以テセル

壁ヲ圍ラスモノトス且該廊下中ニアル窓ニハ金屬製ノ框及枠ヲ作り耐火硝子ヲ嵌込ムコトヲ要ス斯

ノ如キ窓ハ定着スヘキモノトス

本項ノ規定ハ一階ニ一室ノミヲ有スル三階高地盤ノ貸家ヲ新ニ建築スル場合ニハ之ヲ適用セス

枠建築ノ増築禁止：…防火線内ニアル木造枠建ノ貸家ハ其建坪若クハ高サヲ加ハテ増築スルコトヲ得

ス

一地區内ノ建坪：…坪數測量：…爾後獨立シテ又ハ現在若將來ニ建テラルヘキ貸家ハ其ノ一階ニ於テ

角地タル一地區ノ百分ノ八十五以上ヲ占取スルコトヲ得ス若シ該角地ニシテ三方街路若クハ路地ニ

面スルトキハ其ノ百分ノ九十以上ヲ占取スルコトヲ得ス且他ノ地區ニ亘リテ其ノ百分ノ七十五以上

ヲ占取スルコトヲ得ス但シ此場合ニ於テ法律ノ規定ニ據リ建設セラレ且幅四呎以内ナル避火梯ニ要

スヘキ地所ノ殘存スルコトヲ要件トス新ニ貸家建築ノ認可ヲ求ムル場合ニハ請求者ハ該地區ノ幅

員、建新家屋ノ位置並同地區内ニアル他ノ家屋ノ位置ヲ示セル明細圖ヲ提出スヘキモノトス、地所ノ

測量ハ常ニ一階上ヲ標準トシ街路若クハ路地ニ屬スル部分ヲ算入スルコトナキモノトス

高サ：…測定法：…新築貸家ノ高サハ其ノ接セル街路中最モ廣キモノ、路幅ノ二分ノ一ヲ超ユルコト

ヲ得ス但シ建物カ區劃線ヨリ引込ミテ建テラルヘキトキハ其ノ距離ハ本計算ニ於テハ街路ノ路幅中

ニ之ヲ加算ス

現在ノ貸家ハ此高サノ制限ヲ超ヘテ改造スルコトヲ得ス

前項ノ高サハ建物ニ近接スル地面ヨリ屋根ノ頂上ニ至ル迄ノ垂直線ニ依ル(高サ八呎以内ノ蛇腹若

クハ屋根裏戸口又ハ高サ十六呎以内ノ昇降機筒ハ之ヲ屋根ノ一部ト看做サス)

街路面ニ高低アル場合ニハ該家屋ニ對接スル地面ノ中位若クハ平均表面ヲ以テ前項ノ高サヲ測定ス

ヘキ基準トス

路地若クハ後部空地：…新ニ貸家ヲ建築スヘキ地區ノ後部ニハ(幅十呎以上ノ共用路地ニ隣接セルモ

ノヲ除キ)法律ノ規定ニ據リ建設セラレタル幅四呎以上ノ避火梯ヲ除ク外上下何等ノ障礙物ナキ空

地ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ空地ハ同地區内他ノ何レノ場所ヨリモ直通スルコトヲ得ルヲ要シ角地(前掲ノ)ニ於テハ其ノ地區ノ平面百分ノ八以上角地ナラサル地區ニ於テハ其ノ百分ノ十以上ヲ占取スルモノタルコトヲ要ス貸家ノ高サ三階以上一階ヲ増ス毎ニ前項ノ空地ハ該地區平面百分ノ一ヲ増加スヘキモノトス各建物ノ後部ヲ離隔セル前項ノ空地ハ各建物ノ後部ノ最近距離ニ於テ常ニ該地區ノ後部境界ヨリ十呎以上ノ空間ヲ存セシムルコトヲ要ス

前敷項ノ規定ヲ施行スル上ニ於テハ地區ノ後部トハ左ノ意味ニ之ヲ解釋スヘキモノトス

一 設計家屋ノ面スヘキ街路ヨリ最モ遠キ地區ノ一部ニシテ該家屋カ角地又ハ二個ノ街路若クハ路地ニ狭マレタル地面ニ建築セラルヘキ場合ニ於テハ該家屋ハ該角地若クハ狭地ノ前部ヨリ後部ニ亘リテ建築スルコトヲ得但シ本條例ニ掲クル規定ニ抵触スルコトヲ得サルモノトス

庭地：：車寄：：新ニ建築スヘキ借家ノ庭地ハ法律ノ規定ニ據リ且庭地ニ四呎以内ノ地所ヲ塞クヘキ避火梯、階段若クハ中段ヲ除ク外何レノ點ニ於テモ上下何等ノ支障ナキ開展地タルコトヲ要ス且庭地ハ何等障礙物ナクシテ街路若クハ空地ニ直通スヘキモノトス

庭地内ニ車寄ヲ建築スルトキハ該庭地内ノ開展地域ハ階段及車寄ニ要スル地坪ヲ除外ス

後部車寄ハ可燃性材料ニヨリ建造スルトキハ幅八呎ヲ超ユルコトヲ得ス後部車寄ノ周圍ハ本章第五

百六條ニ規定スル不燃性材料ニヨラスンハ建築スルコトヲ得ス

居室：：窓：：通風筒：：(一九〇七年十一月二十五日改正)凡テ新ニ建築スヘキ貸家ニ於ケル居室ニハ便所及浴室ヲ除ク外街路、路地、空地若クハ庭地ニ面スル窓ヲ設クヘキモノトス

前項窓ノ面積ハ其ノ室ノ面積ノ十分ノ一以上タルコトヲ要シ其ノ窓ノ中一個以上ハ其ノ高サ床板ヨリ七呎以上タルヘク且ツ其ノ上半部ハ全部開放シ得ルモノタルコトヲ要ス

前項ノ窓ハ(物置便所及浴室ニアルモノヲ除ク)硝子ノ面積十方呎以上トシ且便所及浴室ニ於テハ窓ノ硝子ノ面積ハ總計三方呎以上トシ一個ノ窓幅ハ一呎以上タルコトヲ要ス

新ニ建築スヘキ貸家ノ便所若クハ浴室ノ換氣窓カ一個ノ通風筒ニ通スルトキハ便所、浴室物置、行廊以外ノ室ノ窓ヨリ該通風筒ニ接続セシムルコトヲ得サルモノトス

内庭ノ幅員：：地區境界線ニ沿ヘル庭地：：本章第三百八十九條ニ規定シタル新ニ建築スヘキ貸家ノ内庭ハ左ノ標準以上ノ面積及幅員ヲ有スルモノトス

建物種類	平方呎	幅最小限
二階屋	一〇〇	六
三階屋	一二〇	七
四階屋	一六〇	八

五階屋	二五〇	一一
六階屋	四〇〇	一六
七階屋	六二五	二〇
八階屋	八四〇	二四

地區境界線ニ沿ヘル庭地ノ面積及幅ハ前項内庭ノ標準ノ二分ノ一以上トス

外庭ノ幅員……本章第三百八十九條ニ規定シタル新ニ建築スヘキ貸家ノ外庭ハ左ノ標準以上ノ幅員有
スヘキモノトス

建物ノ種類	幅最小限
二階屋	三、 ^三 / _四
三階屋	三、 ^三 / _六
四階屋	四
五階屋	八
六階屋	九
七階屋	一〇
八階屋	一二

外庭若クハ地區境界線ニ沿ヘル庭地カ其ノ反對ノ側ニ於テ窓ノ存スル場合ニハ外庭ニ關スル前項ノ
標準ハ之ヲ二倍スルモノトス

室ノ幅員及高サ……屋根室及門番室……新ニ建築スヘキ貸家ニ於テハ便所及浴室ヲ除ク外左ノ標準以
上ノ幅員アルコトヲ要ス

「各房ニハ床上百二十平方呎以上ノ面積アル一室ヲ設クルコト他ノ各室ハ床上七十平方呎以上タ
ルヘキコト

各室ハ床上ヨリ天井迄内法八呎六吋以上タルヘキコト但シ屋根室ハ高サ八呎六吋トス面積ハ前項
ノ二分ノ一トス門番室ニ用ヒラルヘキ地下室ノミハ内法八呎以上トス

既存室房ノ改造……既存貸家ノ室房ハ爾後左ノ場合ヲ除ク外改造、變更、模様替ヲナシ若クハ住居ノ目
的ニ使用スルコトヲ得ス

「該室ニ其ノ床上面積ノ十二分ノ一以上ノ面積アル窓アルトキ且其ノ窓カ街路若クハ路地ニ面シ
又ハ空地若クハ二十五平方呎以上ノ面積アル庭地ニ面スルトキ

同房内ノ一室ヨリ他室ニ通スル場合ニ於テ他室ハ前掲ノ街路、路地、空地若クハ庭地ニ面スル窓ヲ
有シ且此兩室ノ間面積十五平方呎ニシテ上半部ヲ容易ニ開放シ得ヘキ境窓ヲ有スルトキ」

窓……庭……屋根室……既存貸家ニ於ケル室房ニシテ街路、路地、空地若クハ二十四平方呎以上ノ面積

ヲ有スル庭地ニ而スル前掲ノ窓ヲ有セサルモノナルトキハ左ノ場合ヲ除ク外改造、變更、模様替若クハ住居ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

「該室カ床上六十平方呎以上ノ面積ヲ有シ且六百立方呎以上ノ空間ヲ有スル場合ニ於テ床上ヨリ天井迄何レノ部分ニ於テモ高サ八呎以上アルトキ但屋根室ハ高サ八呎ニシテ面積ハ前記條件ノ二分ノ一アルヲ要シ且寢室トシテ使用スル外人ノ住居ニ使用スルコトヲ得サルモノトス」

各人ニ對スル空間ノ分量：凡テ貸家ニ於ケル室房ハ其ノ室内ニアル覺醒中又ハ睡眠中ノ各人ニ對シ十二歳以上ノ者ニ對シテハ四百立方呎及十二歳以下ノ者ニ對シテハ二百立方呎以上ノ空間ヲ存スル要コトヲ要ス

ニ寢床：(一九〇七年二月十八日改正)：寢床部屋ハ凡テ他ノ室房ニ關スル要件ヲ具備スルコトヲス但シ既存セル一階若クハ二階屋ニシテ之ヲ若クハ改造セント欲スル場合ニハ寢床部屋ハ本條例ノ下於テハ各獨立ノ室房ト看做ス他室ニ接続セル寢床部屋トハ其ノ開キ口カ壁全體ノ百分ノ二十以上ニ當ルコトヲ要ス

廊下ノ明リ取り：溜リ場：見廻シ：戸口：新ニ建築セラルハキ貸屋ニ於テハ各廊下ハ直接街路、路地、庭地ニ沿ハル一個ノ窓又ハ天窗ニヨリ光線ヲ導クコトヲ要ス且該窓ニヨル光線ハ室内各部ニ達セシムルコトヲ要ス然ラズンハ該廊下ノ長サ二十呎及其ノ端數毎ニ一個ノ窓ヲ附シ直接街

路、路地、庭地若クハ空地ニ面セシムルコトヲ要ス但シ入口及人口ニ最も接近セル階段ノ間ニアル入口ノ廊下ニツキテハ此限ニアラス廊下ニ接続セル溜場及見廻等ニ於テ其ノ長サカ廊下ノ幅ノ二倍ヲ超ハサルトキハ之カ爲メニ窓ヲ増設スルコトヲ要セス若シ然ラサルトキハ本項ノ適用上之ヲ別房ト看做ス

廊下ノ一部カ一個又ハ數個ノ戸扉ヲ以テ區劃セラルハトキハ本項ノ適用上各別個ノ廊下ト看做ス
廊下ノ窓：新ニ建築スハキ貸家ニ於テ廊下ニ光線ヲ導ク爲メノ窓ハ硝子面十二平方呎以上アルコトヲ要ス

内外部通風筒：幅員：本章第三百八十九條ニ規定シタル凡テ貸家ノ内外部通風筒ハ左ノ標準ノ幅員アルコトヲ要ス

建物種類	呎	幅
二階屋	二二、三	三
三階屋	二七	三
四階屋	三六	三
五階屋	四八	五
六階屋	七二	六

七階屋	九六	八
八階屋	一一〇	八

穴藏及地下室：天井：換氣：（一九〇七年十一月二十五日改正）凡テ穴藏及地下室ハ其ノ端ニ於テ換氣スルコトヲ要ス汽罐若クハ火爐ノ据付ケアル場合ニハ該汽罐若クハ火爐ノ上部ノ天井ハ各方二呎宛餘分ニ金屬製ノ蔽ヲ張り且漆喰ヲ塗り若クハ建築委員ノ承認シタル不燃性材料ヲ以テ蔽フコトヲ要ス

防濕設備：地下室壁及床：新ニ建築スハキ各貸家ハ平地面以下ノ外壁ハ「セメント」若クハ其ノ他

防濕用トシテ承認セラレタル材料ヲ以テ圍ミ内壁ハ平地面以下漆喰ヲ以テ塗ルモノトス

地下室若クハ穴藏ハ厚サ三吋以上ノ混凝土ヲ以テ床ヲ堅ムルモノトス

穴藏ノ居室ハ變更：要件：高：既存若クハ將來新ニ建築スハキ貸家ニ於テハ穴藏ハ住居ノ目的ヲ以テ改造、變更、模様換若クハ使用スルコトヲ得ス且貸家ニ於ケル地下室ハ住居ノ目的ヲ以テ改造、變更、模様換若クハ使用スルコトヲ得ス但シ該室ニシテ本章ニ規定スル要件ヲ具備シ其ノ高サノ三分ノ一以上ハ建物地上部ニ相當シ且街路面ニ四呎以上出ツルトキハ此限ニアラス

前項ノ室ハ既存若クハ新ニ建築スハキ家屋ニ於テ室内何レノ場所ニテモ其ノ高サ内法ニテ八呎六吋以上アルコトヲ要ス但シ本章第四百十七條ニ規定スル門番部屋ニツキテハ此限ニアラス

便所：便所ニ關スル本市ノ條例規則ニ據リ便所タルハキ室房ヲ具備スルコトヲ要ス

流シ：要件：新ニ建築スハキ貸家ニ於テハ各室房ニ一個以上ノ水管付流シヲ具備スルコトヲ要ス

既存ノ各貸家ニ於テハ各房毎ニ流シ有ラサルトキハ一階毎ニ同一階ノ居住者カ他ノ室ヲ通過スルコトナクシテ來リ使用スルコトヲ得ハキ一個以上ノ水管付流シヲ設備スルコトヲ要ス

貸家ニ於テ廊下アル流シノ周圍ヲ木材ヲ以テ繞ラスコトヲ得ス流シノ下部ハ全部開放セルコトヲ要ス

便所人口及窓：燈光：新ニ建築スハキ各貸家ニハ各房ニツキ他室ヲ通過スルコトナクシテ出入シ得ハキ各分隔セル便所アルコトヲ要ス但シ一房カ單一室若クハ二室ヨリ成ルトキハ各二房毎ニ一個以上ノ便所ヲ備フハキモノトス

新ニ建築スハキ貸家ノ便所ニハ各街路、路地、空地、庭地若クハ通風塔ニ通スル一個ノ窓ヲ具備スルコトヲ要ス既存ノ各貸家ニ於ケル便所ハ前記ノ如キ窓若クハ屋根ニ貫通スル換氣筒ニヨリ換氣スルコトヲ要ス

各貸家ノ便所ニハ適當ノ方法ニヨリ燈光ヲ設備スハキモノトス若シ瓦斯若クハ電燈ノ取付ナサレサルトキハ其ノ戸口ニハ玻璃製鏡板若クハ欄間ヲ備フルコトヲ要ス

衛生上ノ要件：新ニ建築スハキ貸家ニ於テハ水垂盤ヲ用フルコトヲ得ス凡テ新ニ建築スハキ貸家ニ

於ケル便所ノ備付品ハ衛生課ノ要件トスル所ニ從ヒテ構造設備スヘキモノトス

既存ノ貸家ニ於テ用ヒラル、舊式便所ハ公設下水道ニ接続スルコトヲ得ル場合ニ於テハ之ヲ新式便所ニ改造スルコトヲ要ス此場合ニ於テ下水道ヲ利用シ得ヘキヤ否ヤハ全然市衛生課ノ裁斷ニ依ルモノトス

既存ノ貸家ニ於テハ二房ニツキ一個以上ノ新式便所ヲ具備スルコトヲ要シ且該便所ハ必要ニ應ジテ空地ニ建設スルコトヲ得此場合ニ於テハ漏斗形便器ヲ用ヒ防臭瓣水溜並鐵管ハ氷凍セサル様豫防スルコトヲ要ス

階段：… 避火梯ハ負擔ヲ免ス：… 各貸家ノ内外ニ於ケル梯、階段、踏段若クハ避火梯ニ對シテハ何時ト雖モ如何ナル負擔ヲモ賦課セラレサルモノトス

凡テ貸家ニアル避火梯ハ整頓修理シ置キ其ノ外部ニ面スル部分ハ常ニ保存塗料ヲ以テ銷燬ヲ防クコトヲ要ス

便所通路：… 新ニ建築スヘキ貸家ニ於テ三室以上ヨリ成ル各房ニ於テハ室外ヨリ居間、寢室並寢室ニ使用スル室及一個以上ノ便所迄寢室又ハ寢室ニ使用セル室ヲ通ラスシテ達スヘキ通路アルコトヲ要ス

改築變更：… 認可：… 凡テ貸家ノ新築及既存貸家ノ變更改築ハ本章ノ規定スル要件ニ準スルコトヲ要ス

ス

前項ノ新築若クハ改築ハ豫メ市建築課ノ認可アルニアラサレハ工事ニ着手スルコトヲ得ス

前項ノ認可ハ新築若クハ改築ヲナス者ヨリ出願アリタル場合ニ於テ之ヲ附與スルモノトス但シ法律若クハ條例ニ依リ該新築若クハ改築ノ設計書及明細書カ市ノ衛生課ノ承認ヲ要スヘキトキハ其ノ承認アリシ後ニ於テ附與スルモノトス

建築委員ニ對スル検査申告：… 證明書ノ附與：… 検査受付ノ申告：… 家屋ノ所有者若クハ其ノ代理人ハ貸家建築中ニ於テ該建物カ直ニ木舞セラルヘキ時ハ之ヲ市ノ建築委員ニ申告スルノ義務アルモノトス此場合ニ於テ該委員ハ三日以内ニ検査ヲナシ其ノ建築カ本章ノ要件ヲ充テセルモノナルトキハ其ノ旨ノ證明書ヲ作製附與シ若シ然ラサルトキハ本章第四百四十五條ニ規定スル罰金ヲ課徴スヘキモノトス委員ハ建築課事務所ニ於テ其ノ受理シタル申告書ヲ見出ラツケテ整理シ且該證明書ノ寫ヲモ整理スルモノトス

空地、庭地等：… 貸家ニシテ家屋自體又ハ其ノ空地、庭地、面積若クハ高さ等ニ於テ本章ノ規定スル要件ニ準據セサルモノナルトキハ之ニ住居スルコトヲ得ス若シ既ニ住居セルモノナルトキハ建築委員ヨリノ通達ニヨリ之ヲ退去スヘキモノトス

前項ノ貸家ハ本章ノ規定ニ凡テノ點ニ於テ準據スルニ至ル迄ハ住居スルコトヲ得ス建築ノ保護ハ此

種ノ建造改築ヲ承認スルモノトス

違背ニ對スル處罰：貸家ノ所有主、賃借人、借家人、住居者若クハ差配人又ハ該家屋工事ヲ監督若クハ擔當シタル技師、請負人、建築者若クハ職工長ニシテ本章ノ規定ニ違背シ若クハ忘リ又ハ該規定ノ實行ヲ抗拒シタル者ハ各違反毎二十弗以上二百弗以下ノ罰金ヲ課ス

本章ノ規定ノ違反ニシテ一回ノ罰金課徴後尙繼續スルトキハ一週間毎二十弗以上二百弗以下ノ罰金ヲ増徴スルモノトス

本章ノ規定ハ一定ノ條件ノ下ニアル家屋ノ外既存家屋ニハ不適用：：本章ノ規定ハ本條例ノ實施ノ日ニ於テ現ニ存スル家屋ニシテ其ノ建設當時ノ條例ニ準據シテ建築シタルモノナルトキハ更ニ本條例ニヨリ之カ構造設備ヲ變更スルコトヲ要求セサルモノトス但シ該家屋カ不充足且不完全ナル階段、位置不當ナル階段不充足且不完全ナル昇降機並具品、戸口、避火梯、窓其ノ他ノ出入手段ニ於テ不充足且不完全ナルトキハ此限ニアラス

若シ現存家屋ヲ増築若クハ建築ノ模様替ヲナシ又ハ本章ノ規定スル一級ヨリ他級ニ變更スル様其ノ用途ヲ改ムル場合ニハ該増築、改築、模様替若クハ用途ノ變更行ハルル以前ニ於テ其ノ増築、改築、新用法ノ結果本章ノ規定ニ準據セシムル様全建物ヲ改造變更スルコトヲ要ス

委員ノ通告：建築委員ニ於テ一建物カ前記出入手段ニ於テ不充足且不完全ナリト認めタルトキハ該

建物ノ所有主、差配人、其ノ他之ヲ所持、管理若クハ監督セル人ニ對シテ其旨ヲ通告シ且該建物ノ居住者使用者及一般公衆ノ安全ヲ保持スルニ必要ナルハキ建物ノ構造若クハ設備ノ改造變更ヲナス様指令スルコトヲ要ス

二、「ポストン」建築規則

「ポストン」市建物ニツキ健康保全ニ關スル條例（一八八五年條例）

第三百八十三章

第一條 「ポストン」市ニ於ケル建物ニシテ住家、借家、間借若クハ多數人ニ依リ使用セラル、モノナルトキハ同市衛生課ノ定ムル所ニヨリ完全セル室内便所、地上便所若クハ窩便所ヲ備フルコトヲ要ス但シ二個以上ノ建物ヲ同一人ニテ占取セルトキハ便所ハ共同ニ使用スルコトヲ得但シ通路ハ直接且簡單ナルコトヲ要ス

前項衛生課ハ各二十人ニツキ便所一個以上ヲ要求セサルモノトス

第二條（一八八九年ノ條例ノ第四百五十五章第三條ヲ以テ改正）將來貸家又ハ間貸家トナシ若クハ使用セラルル建物ハ法律ニ定ムル他ノ要件ノ外本條例ノ規定ニ準據スルコトヲ要ス

前項ノ家屋ハ毎年二回以上衛生課ノ指揮ノ下ニ詳細ニ検査スルコトヲ要ス衛生課カ該家屋ニ關シテ命令ヲ發シタル場合ニハ該命令ヲ実行セリトノ申告ヲ受理シタル後十日以内ニ於テ再ヒ検査ヲナス

第十一條 各家屋ニハ各床ヲ貫通スル完全ナル煙突アルコトヲ要ス且各家族並一組ノ室房毎ニ該煙突ニ通スル爐、火床、煖爐ヲ設クルモノトス灰及燃屑ニ對シテハ適當ナル不燃性ノ受器ヲ備フルコトヲ要ス

各家屋若クハ空地ニ於テハ住居人ノ使用ニ便ニスル爲メ充分ナル水溜ヲ一個以上設備シ地下室ノ床ハ漏水セサル様「セメント」ニテ固ムルコトヲ要ス

第十二條 貸家若クハ間貸ノ爲メニ使用セララル家屋ハ塵芥其ノ他廢物ヲ容ルハキ適當ナル受箱ヲ備フハキモノトス且可燃性物品、生命若クハ健康ニ危險アル物品ノ貯藏所ニ充テ又ハ牛馬、猪、豚、豕、羊、山羊等ノ飼養所ニ充ツルコトヲ得ス

第十三條 各家屋及之ニ屬スル空地、庭地、道路、内庭及路地ハ衛生課ノ満足スル様當ニ掃除シ塵芥、汚物、屑物其ノ他ノ廢物ノ堆積スルコトヲ得サルモノトス

第十四條 (一八八九年ノ條例第四百五十五章第五條ニヨリ改正) 貸家若クハ間貸家ノ賃借人ハ該家屋ノ室内、床、窓及戸其ノ他自己ノ賃借セル部分ヲ衛生課ノ満足スル様清潔ニ支持スルコトヲ要ス且所有主若クハ賃借人ハ該課ノ満足スル様毎年四月及五月ノ中一回以上ヲ壁及天井ヲ洗滌其他掃除スハキモノトス且便所、水吐及下水溜ヲ整備シ且通路及階段ヲ清潔ニ整備シ置クコトヲ要ス

所有主ノ住居セサル貸家ニ於テハ家族以上同居スルトキハ衛生課ノ請求ニヨリ家番、戸主、若クハ其ノ他同課ノ承認スハキ責任者カ同家屋ニ住居シ且之ヲ管理スルコトヲ要ス

第十五條 家屋所有者其ノ代理人及貸家若クハ間貸家ノ一部若クハ全部ノ戸主ハ同居人中熱病又ハ其ノ他傳染性ノ悪疫ニ罹リタル者アル場合ニ於テ該所有者ノ代理人及戸主等カ其ノ事實ヲ知リタルトキハ直チニ之ヲ衛生課ニ申告スルモノトス該課ハ其ノ必要ト認ムル所ニ依リ家主ノ負擔ヲ以テ之カ検査、掃除若クハ消毒ヲ行ハシメ且該患者ノ使用シタル毛布寝具及寢衣ハ全部之ヲ掃除、洗滌及燻蒸シ尙極端ノ場合ニハ之ヲ燒棄セシムルモノトス

第十六條 各家屋ノ各床ニ於ケル廊下ハ適當ナル窓ヲ以テ外氣ニ直通シ且其ノ端ニ於テ室若クハ其ノ他ノ障礙物ナキコトヲ要ス但シ衛生課ノ承認スル方法ヲ以テ該廊下ニ於テ他ノ充分ナル明り取り及換氣装置アルトキハ此限ニアラス

第十七條 穴藏若クハ地下室ハ衛生課ノ認可ヲ經ルニアラサレハ獨立ニ居室若クハ寢室トシテ使用シ若クハ使用セシムルコトヲ得ス但シ左ノ場合ハ此限ニアラス

該室カ各部ニ於テ内法高サ七呎以上アルトキ

該室カ本條例施行前ニ居住セラレ且該家屋ニ續クカ若クハ最も接近セル街路上ニ一呎以上露出セルトキ該室、穴藏若クハ地下室ノ外部ニテ其ノ間口ニ沿ヒテ其ノ床下六吋ノ所ヨリ街路若クハ平

地面迄ノ間ニ於テ各部ニ亘リ二呎六吋以上ノ幅ノ空間アルトキ該室カ水吐溝ノ設備ニヨリテ好良且有效ニ排水セラレ其ノ水吐ノ上部ハ該室ノ床面ヨリ一呎以上低部ニアルトキ

床面以下ニ於テ一呎以上ノ空隙アリ且床ハ「セメント」ニテ固メサルトキ

該室ニ附屬シテ本條例ノ要件ニ適スル便所ノ使用セラレハキトキ但シ九呎以上ノ境窓アルコトヲ要シ該境窓ニハ換氣ノ爲メニ用意サレタル四呎半以上ノ半透明ノ仕切枠ヲ嵌込ムコトヲ要ス

但シ内部若クハ後部ニアル窓、穴藏若クハ地下室ヲ前面部ノ是等諸室ニ積キテ一括シテ貸借セラレルトキハ前面部ノ該諸室ニ於テ所定ノ窓ヲ有シ且後部ノ該諸室カ前面部ノ該諸室トノ間ニ戸及適當ナル換氣窓若クハ欄間ヲ有シ且外氣トノ間ニ換氣窓若クハ欄間又ハ廊下若クハ通路ヲ以テ接近スル場合ニハ該諸室全部カ本條例ノ規定ニ準據セルモノト看做ス

尙該諸室ニ接續スル明キ場所ニ於テ是等諸室ニ通スル爲メ階段ヲ必要トスル場合ニ於テハ該階段ハ外窓上ニ遮蔽セス且該室ノ外壁ト階段トノ間ニ内法六吋以上ノ空間アリ尙該階段ノ蹴上ノ部ハ開展シ居ルコトヲ要ス

尙該地下室ノ上部若クハ前記明キ場所ニ接續スル他ノ室ニ通スヘキ階段ヲ必要トスル場合ニハ前記外窓上ノ遮蔽セサル範圍ニ於テ該場所ノ上又ハ之ヲ貫通シテ階段ヲ設クルコトヲ得

第十八條 (一八八九年ノ條例第四百五十五章第六條ヲ以テ改正) 衛生課ハ各貸家若クハ間貸家ノ一部若

クハ全部ニツキ居住者ノ數ヲ表決制限スルコトヲ得此場合ニ於テハ該家屋内ニ明カニ定住スヘキ人員並其ノ所有者、代理人若クハ其ノ他ノ責任者ヲ記載セル通牒ヲ發スルモノトス

若シ居住人員過多ナルトキハ同課ハ其ノ立退ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テ立退者ハ同課ニ於テ意見一致ノ上之ヲ承認スルニアラサレハ再ヒ居住スルコトヲ得サルモノトス

同課ハ各家屋及其ノ地下室並多數人ノ使用セラレル家屋ノ包容人員、換氣並職業ノ種類等ニ關シ其適當ト認ムル所ニヨリ更ニ規程ヲ制定スルコトヲ得但シ他ノ法律ニ牴觸スルコトヲ得ス

第十九條 各貸家若クハ間貸家ノ所有者代理人若クハ其ノ他ノ責任者ハ其ノ住所ヲ衛生課ニ差出シ且是等ノ人名及住所ヲ該家屋ノ壁若クハ人口ニ讀易ク掲載シ置クヘキモノトス

市外居住者ニ對シテハ本條例若クハ衛生ニ關スル條例若クハ其ノ規程ヲ實行スヘキ手續ニヨリ要スル所ノ書面ニヨル交渉ハ其ノ寫ヲ該家屋ノ所有者代理人若クハ其ノ他ノ責任者ノ住所宛ニ郵送スルトキハ有效ナリトス市内居住者トノ交渉ハ該文書ノ寫ヲ本人住所ニ提供スルニヨリ有效ナリトス

第二十條 衛生課ノ各吏員及或種ノ義務若クハ權限ヲ附與セラレタル各吏員ハ其ノ職務ヲ正當ニ實行スル上ニ於テ必要上貸家若クハ間貸家ノ各部ニ隨意ニ出入スルコトヲ得ヘキモノトス

第二十一條 衡平法裁判所ハ其ノ開期中又ハ休暇中ニ於テモ衛生課ヨリノ請求アルトキハ衡平法上適當ナル方法及命令ニヨリテ本條例ノ規程ヲ實行スルコトヲ得且請求アリタルトキハ本條例ニ違背シ

テ建設、改築若クハ使用シタル「ポストン」市内ノ家屋若クハ建築物ノ使用若クハ占住ヲ制限スヘキ命令ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 本條例ノ規定ニ違反シタル者ハ百弗以下ノ科料ニ處シ若クハ六十日以内懲治場ニ監禁スルモノトス但シ別ニ特殊ノ刑罰ヲ課スヘキ場合ハ此限ニアラス

第二十三條 衛生課ノ各吏員及同課附檢査官ハ其ノ就職スルニ先チ當市總牧師ノ面前ニ於テ忠實ニ且公平ニ其ノ職務ヲ執行スル旨ノ宣誓ヲナスコトヲ要ス此場合ニ於テ市廳牧師ハ該宣誓ヲ記録シ保存スルモノトス

前項ノ吏員ニシテ宣誓ヲナスコトナクシテ職務ニツキ且之ヲ怠リタルトキハ百弗ノ罰金ニ處スルモノトス但シ該宣誓ナキモ同課ノ行動若クハ手續ヲ無効ナラシムルコトナキモノトス

第二十四條 本條例ハ裁可ノ日ヨリ其ノ效力ヲ生スルモノトス

一八九七年ノ條例

「ポストン」市ニ於ケル公衆衛生ノ保護ニ關スル條例（一八九九年ノ條例第二百二十二章第一條ニヨリ改正）

第二百十九章

第一條 「ポストン」市ノ衛生課カ同市中ニアル建物ノ一部若クハ全部カ傳染病ニ感染セルコト又ハ修

繕ヲ缺ケル爲メ生命ニ危險ナルコト又ハ水吐、水管、換氣裝置若クハ建築上ノ缺點ノ爲メ若クハ境内ニ病毒者アリテ住居者間ニ疾病ヲ惹起セントスルカ爲メ使用ニ適セサルコト等ノ意見ヲ有スルトキハ同課ハ命令ヲ發シ該命令書ニ記載シタル理由ニヨリ指定サレタル家屋ノ全部若クハ一部ヨリ住居者ニ退去ヲ求ムルコトヲ得

同課ハ前項ノ命令ヲ家屋ノ全部若クハ一部ノ場所ニ貼付シ且該家屋ノ所有者、賃借人、差配人、居住者若クハ其ノ他責任アル者ニ送達スルコトヲ要ス若シ此場合ニ於テ所有者、賃借人若クハ差配人カ當市ニ在ラサルカ若クハ住居セス若クハ逃避シ若クハ任務ヲ拒否スルトキハ當市ノ郵便局ニ其ノ寫ヲ預托シテ之カ送達ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ郵税ハ支拂ヒ適當ニ封緘シ且所有者、賃借人若クハ差配人ノ最後ノ業務所若クハ住居ニ宛テタルモノトス

前項ノ家屋ノ全部若クハ一部ハ該命令書ノ郵送セラレタル後十日以内ニ退去セララルヘキモノトス但シ該命令書ニ於テ特ニ規定スルトキハ四十八時間以上ノ短期間ニ退去スヘキモノトス且該退去後ノ家屋ハ使用スルコトヲ得ス

同課カ該家屋ノ一部若クハ全部ニ關スル危險消滅シ若シクハ該家屋カ修繕ノ結果住居ニ適スルニ至リシコトヲ認ムルトキハ當退去命令ハ取消スヘキモノトス

衛生課ノ意見ニ於テ本市内ノ家屋ノ一部若クハ全部カ傳染病毒ニ永久的ニ感染シ水吐、水管若クハ

換氣装置ニ缺點アリ又ハ該家屋若クハ市内ノ他ノ家屋ノ住居者ノ間ニ疾病ヲ惹起スヘキ病者アリ又ハ其ノ附近ノ他ノ家屋ヲ人ノ住居ニ不適當ナラシメ健康上危險若クハ有害ナラシメ又ハ他ノ家屋ニ關シテ健康上有害ナル病者其ノ他衛生上ノ弊漬ヲ救済スヘキ適當ナル方法ヲ行ヒ難キ等ノ爲メニ人ノ住居ニ適セシテ該家屋内ニ發生シ若クハ該家屋ニヨリ惹起セラレタル弊漬ハ該家屋ノ全部若クハ一部ヲ破壊スルニアラサレハ修繕其ノ他ノ方法ヲ以テシテハ除去スルコト能ハサルハキ見込ナルトキハ衛生課ハ其ノ家屋ノ一部若クハ全部ヲ移轉スヘキコトヲ命令スルコトヲ得此場合ニ於テ該家屋カ該命令ニ從テ移轉セラレサルトキハ該衛生課ハ市ノ費用ヲ以テ之ヲ移轉スルコトヲ要ス

第二條 「ボストン」市ハ家屋ノ全部若クハ一部ヲ破壊スルニヨリ該家屋所有者ノ蒙リタル損害ニ對シ衛生課ト該所有者トノ間ノ協定ニ據ル之ヲ賠償スヘキモノトシ若シ協定成立スルコト能ハサルトキハ該破壊ノ日ヨリ一年以内ニ於テ家屋所有者若クハ衛生課ノ請願ニ基キ「サツソオルク」縣ノ上級裁判所判事之ヲ決定スルモノトス但シ「ボストン」市ニ於テ街路及公道ノ修築上土地收用ニ對シ損害ヲ決定スルト同一ノ方法ニ依ルコトヲ要ス

第三條 本條例ハ其ノ裁可ノ日ヨリ效力ヲ有スルモノトス

三、「ボストン」下宿屋規則

「ボストン」市ニ於ケル下宿屋ニ關スル條例（一八九四年條例）

第四百十四章

第一條 本條例ニ於テ下宿屋ト稱スルハ「ボストン」市内ノ家屋ニシテ旅館トシテノ免許ヲ受ケス且各人一夜ニツキ二十五仙以下ノ宿泊料ヲ以テ十人以上宿泊スルコトヲ得ルモノヲ謂フ

第二條 本市警務課ハ本市内ノ下宿屋營業者ニ免許ヲ附與スルコトヲ得

前項ノ免許ニツキテハ何等ノ手数料ヲ徵セス且免許ハ其ノ交付ノ日ヨリ次ノ四月三十日ヲ以テ効力ヲ失フモノトス

免許狀ニハ其ノ受領者カ營業ヲナスヘキ市街其ノ他ノ場所名及家屋ノ數ヲ指定シ且之ニ關スル他ノ特殊ノ事項ヲ記載スルモノトス

前項ノ免許狀ハ其ノ指定以外ノ場所ニ於テ營業スルモノニハ效力ヲ生セサルモノトス

第三條 本市ノ家屋ニシテ火災ノ場合ニ於テ避難スヘキ充分ナル設備アルコト及消火用器及同居人ニ對スル非常報知器ノ設備アルコトヲ本市ノ家屋検査官ニ於テ證明スルニアラサレハ前條ノ免許ヲ交付スルコト能ハサルモノトス

前項ノ検査官ハ火災ノ場合ニ於テ生命及財産ヲ保護スルニ必要ナリト認ムルトキハ隨時家屋ノ改造若クハ用器ノ備付ヲ要求スルコトヲ得

第四條 家屋カ充分ナル個數ノ便所及尿器並良好完全ナル換氣装置アルコトヲ衛生課ニ於テ證明スル

ニアラサレハ前條ノ免許狀ヲ交付スルコト能ハサルモノトス

衛生課ハ該家屋及其ノ附屬品ノ各部ニツキ同課ノ満足スル程度ニ於テ掃除及消毒スヘキコトヲ隨時
免許受領者ニ要求スルコトヲ得ルモノトス

第五條 各下宿屋ニハ帳簿ヲ備ヘ宿泊者ノ姓名住所其ノ發着時間ヲ記入シ且何時ニテモ警察官ノ檢閲
ニ應スヘキモノトス

第六條 各下宿營業者ハ建築課、衛生課若クハ警務課ノ吏員ノ要求アルトキハ何時ニテモ該家屋ノ全
部若クハ一部ヲ自由ニ檢閲セシムヘキモノトス

第七條 本規則ニ定ムル所ニヨリ適法ノ免許狀ナクシテ私ニ下宿屋營業ヲナシ若クハ該營業ニ加入シ
若クハ其ノ他何等カノ利害關係ヲ有スルモノナルトキハ百弗以内ノ科料ニ處セララル、モノトス

下宿屋營業者ニシテ本條例ノ規定ニ違背スルトキハ百弗ノ科料ニ處シ且免許狀ハ直ニ取消サル、キ
モノトス

第八條 本條例ハ其ノ裁可ノ日ヨリ效力ヲ有スルモノトス

一八九八年三月下宿業規則

下宿業取締ノ爲メ衛生課ハ左ノ規程ヲ制定ス

第一條 光線及換氣ニ關スル設備ハ衛生課ノ認容スル所ナルヲ要シ宿泊人ノ隨意處置ニ任セサルモノ

トス

第二條 凡テ床板及階段ハ堅牢、平滑ニシテ且塗料ヲ塗ルコトヲ要ス

第三條 寢室ニ於テハ各一宿泊人ニツキ三百立方呎以上ノ空間アルコトヲ要ス

第四條 宿房ハナルハタ開窓ニシテ且廣潤ナルコトヲ要ス

第五條 衛生課ノ特別ノ認可アル場合ノ外單獨若クハ狹隘ナル室ハ之ヲ禁止ス

第六條 床及階段ニハ敷物ヲ用フルコトヲ禁ス

第七條 二個ノ寢床ノ間隔ハ二呎以上アルコトヲ要ス

第八條 凡テ寢臺架ハ單式ニシテ且鐵製ナルコトヲ要ス

第九條 毛布ヲ使用シ綿入床被ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 敷蒲團ニハ防水敷布ヲ以テ蔽フコトヲ要ス

第十一條 何人ト雖モ其ノ晝間衣ノ儘寢所ニ入り睡眠スルコトヲ得ス

第十二條 何人ト雖モ身體汚穢セルモノハ入浴スルニアラサレハ寢所ニ入ルコトヲ得サルモノトス

第十三條 新ニ宿泊セント欲スル者ハ豫メ濯水浴ヲナスニアラサレハ宿泊スルコトヲ得ス

宿泊者ハ引續キ七日以上宿泊セントスル時ハ七日毎ニ濯水浴ヲナスコトヲ要ス

本條ニ於テ新宿泊者ト稱スルハ前夜同所ニ於テ宿泊セサリシ者ヲ謂フ

第十四條 便所(各二十名ノ宿泊者ニツキ一個)洗濯所及濯浴場ハ温湯及冷水ヲ備ヘ且水管貫通シ各階毎ニ設置スルコトヲ要ス

前項ノ便所、洗濯所及浴場ノ床ハ大理石、石板若クハ混凝土タルコトヲ要ス

第十五條 排泄物ニ對スル凡テ持運ヒ得ヘキ受容器ハ之ヲ禁止ス

第十六條 寢室ニ於テハ喫煙ヲ禁ス

第十七條 凡テ階段、避火梯其ノ他火災ノ場合ニ於ケル避難ノ手段ハ該事項ニ關スル條例、規則ニ準據シ且建築委員ノ承認スルモノタルコトヲ要ス

第十八條 煖爐ハ衛生課ヨリ特ニ許可シタル場合ニアラサレハ之ヲ置クコトヲ得ス

第十九條 持運ヒ得ヘキ石油洋燈ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十條 確實ナル番人ヲシテ終夜警戒セシムルコトヲ要ス

ハ、労働者普請組合

一、「ボルチモア」市「ロイアル、オーク」永久普請組合定款

名稱及目的

第一條 本組合ハ「ボルチモア」市「ロイアル、オーク」永久普請組合ト稱シ組合員ノ居室ノ建築其他

ニ要スル經費ニツキ貸費ヲナス爲メ基金ヲ積立ツルモノトス

株 數

第二條 一、本組合ノ株數ヲ五千個トス

二、各株ノ金額ヲ百三十弗トス

會期及會場

第三條 本組合ノ總會並理事會場ヲ「ボルチモア」市トス

毎年十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ於テ理事會ノ選定スル場所ニ於テ本組合ノ株主總會ヲ開キ會長ヨリノ年報ヲ聞キ且其他發生スヘキ事務ヲ處理スヘキモノトス臨時總會ハ組合員十名ヨリノ文書ニヨリ請求ニ基キ會長之ヲ召集ス

隨時細則ニヨリ指定スル所ノ毎週一夕ニ於テ主事ニ對シ毎週ノ拂込ヲナモノトス

組合員資格

第四條 一、本組合ハ本定款ニ關印シ且一株以上ヲ引受ケタル法律上成年者ヲ以テ之ヲ組織ス未成年者ハ其法律上ノ代理人ニヨリテ株ヲ所有スルコトヲ得

二、各組合員ハ本組合會ノ議事ニ於テ自身若クハ代理人ヲシテ之カ票決ヲナシ若クハ其他議事ニ干與スルコトヲ得未成年者及女子ハ其法律上權限ヲ有スル代理人ヲシテノミ票決セシムルコトヲ得

役員

第五條 一、本組合ノ事務ハ十二名ノ理事之ヲ管理シ理事ハ各一名ノ會長、副會長會計長及主事ヲ互選スルモノトス

理事ハ本組合ノ年總會ニ於テ之ヲ選任シ其後任者ノ就職スル迄在職スルモノトス若シ缺員ヲ生シタルトキハ理事會ニ於テ之ヲ補任ス

二、左ノ役員ハ保證金ヲ納ムハキモノトス其金額左ノ如シ

會長 千弗以上

主事 千弗以上

會計長 二千弗以上

前項ノ場合ニ於テ現金ノ代リニ證券ヲ提供セラレタルトキハ之カ適否ニ關シテハ理事會ノ選任スル所ニヨリ組合員三名ヨリ成ル特別委員會ニ於テ審査スハキモノトス

理事會

第六條 理事會ハ本組合定款並細則ニヨリ本組合ニ關スル總テノ事務ヲ管理ス

理事會ハ隨時其組合ニ最モ有利ナリト思惟スル方法ニヨリ本組合ノ基金ヲ放資スルコトヲ要ス

役員更迭

第七條 本組合ノ定期又ハ臨時總會ニ於テ出席株主ノ三分ノ二ノ票決ヲ以テ事由ニヨリ役員ヲ更迭若クハ退職セシムルコトヲ得

株主、贖金、手数料等

第八條 一、株主ハ其本組合ニ於テ有スル各株ニ對シ二十五仙ノ入會手数料ヲ納付シ且爾後贖金トシテ各株百三十弗ノ金額ニ達スル迄毎週二十五仙宛ヲ拂込ムモノトス

二、總テ拂込マレタル金員ハ銀行ニ於テ請取ルハキ資金タルコトヲ要ス

三、怠納セル組合員カ其拂込ヲ再始スルトキハ左ノ順序ニ於テ充當セシメラルハキモノトス

第一、凡テ罰金及擔保トシテ提供セラレタル財産ヲ保護スル爲メニ火災保險、租稅、水道稅等トシテ本組合ヨリナシタル立替金

第二、拂込金額ノ全部拂込ヲ了スル迄古キ拂込金ヨリ順次繰込ムモノトス

罰金額カ未拂株ニ對スル毎週拂込金額ト同一ナルトキハ該株ハ組合ニ之ヲ取上ケ且其株主ハ當該株ニ關シテ株主タル資格ヲ失フモノトス

四、組合員ノ毎週贖金カ其株ニ對スル配當ヲ合シテ一株ニツキ百三十弗ニ達シタルトキハ該株主ハ本組合ノ金庫ニ於テ他用ニ充當セラレサル資金アル場合ニハ直ニ該株金額ヲ引出スハキモノトス且該金額ノ入用アルトキハ直ニ一株ニツキ百三十弗ノ金額ヲ受理スルノ義務アルモノトス但シ引出方

延引スルトキハ其期間ニ對シテハ年六歩ノ割合ヲ以テ利息ヲ附シ配當ヲナスコトナキモノトス
五、株ヲ讓渡スルトキハ讓渡手数料二十五仙ヲ納付スルモノトス株ノ讓渡ハ主事ニ於テ證明スルニ
アラサレハ無効トス主事ハ之ヲ帳簿ニ登錄スルコトヲ要ス

利益分配

第九條 一、本組合ノ利益ハ五月及十一月初ノ迄ニ各半季ニ之ヲ決算シ各次半季間損失ニ對スル準備
金トシテ之ヲ保持スルモノトス該次半季ヲ過キタルトキハ其損失ノ爲メニ減却セサリシ金額ヲ各株
主ニ對シ該利益決算期ニ於ケル各自ノ持分高ニ應シテ之ヲ分配スルモノトス
二、配當ノ割當上ニ於テ自由株及償還セラレタル株主間ニ區別ヲ置カサルモノトス

自由株ノ受戻

第十條 一、各組合員ハ適當ナル擔保ヲ提供スルトキハ其者ノ自由株一株ニツキ百三十弗ノ範圍ニ於
テ貸費ヲ受クルコトヲ得
二、貸費ノ請求ハ文書ヲ以テシ提供スルハキ擔保ヲ記載シ且該擔保トシテ提供セラレタル邸宅ニ實地
踏査ヲナスハキ組合員タル三名ノ委員ノ入費ヲ支辨スル爲メ一弗五十仙ヲ添付スルコトヲ要ス
前項ノ擔保財産ニシテ市街區域外ニアルトキハ踏査上ノ經費ハ理事ニ於テ決定スルモノトス
三、四週間内ニ於テ適當ナル擔保ヲ提供セザルトキハ該金額ハ組合ニ復歸シ且當該組合員ハ利子及

其貸費請求ノ爲メニ生シタル入費ヲ支辨スルハキモノトス

四、組合員ニシテ其株金ヲ受戻シタルモノハ其受戻シタル株ニ對スル儲金及配當力貸費額ト同額ニ
達スル迄其定例ノ儲金ノ外各百三十弗ニ對シ毎週十五仙ノ利子ヲ拂込ムコトヲ要ス

前項ノ拂込金額カ貸費額ト同額ニ達シタルトキハ擔保ハ之ヲ返付スルモノトス
五、貸費ヲ受クル組合員ハ凡テ怠納金ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス

擔保トシテ提供スル財産ハ理事會ノ承認スル一會社ノ火災保險ニ附シ且該保險證書ニハスハテ損害
ヲ生シタル場合ニハ本組合ノ利益ノ範圍ニ於テハ本組合ニ對シテ賠償スルハキコトヲ記載スルコトヲ
要ス

擔保提供者ハ請求ニ隨ヒ何時ニテモ該財産上凡テ負擔ヲ支拂ヒタルコトニ關スル受取證ヲ提示スル
コトヲ要ス若シ之ヲ提示スルコト能ハサルトキハ本組合ハ該負擔ヲ支拂ヒ之カ全部回收セラル、迄
擔保提供者ノ毎週儲金中ヨリ之ヲ差引キ若クハ擔保ヲ押收スルモノトス

七、貸費ヲ受ケタル組合員ニシテ八週間其毎週儲金ヲ怠納スルトキハ本組合ハ擔保品ヲ賣却シテ之
カ支拂ヲ強制スルコトヲ得

八、自由株ノ株主ハ其自由且無擔保株ノ爲メニ拂込ミタル金額ヲ受戻スコトヲ得此場合ニ於テ該受
戻金額ニ對シテハ配當ヲ停止スルモノトス

前項ノ受戻ヲ受ケクル後直ニ同數若クハ前株數以下ノ新株ヲ引受クルトキハ新ニ入會手數料ヲ支拂フコトナクシテ再入會スルコトヲ得

九、受戻株ニヨル貸費ニ對シ其財產若クハ他ノモノヲ擔保ニ供シタルトキハ自己ノ債權ニ屬スル額ト受戻株全金額トノ差額ヲ本組合ニ支拂フトキハ該擔保ヲ返付セラルルモノトス但シ此場合ニ於テハ左ノ受戻手數料ヲ支拂フコトヲ要ス

- 貸費後一年以内ニ擔保受戻ヲナス場合ニハ一株ニツキ 三弗
- 貸費後二年以内ニ擔保受戻ヲナス場合ニハ一株ニツキ 二弗五十仙
- 貸費後三年以内ニ擔保受戻ヲナス場合ニハ一株ニツキ 二弗
- 貸費後四年以内ニ擔保受戻ヲナス場合ニハ一株ニツキ 一弗五十仙
- 貸費後五年以内ニ擔保受戻ヲナス場合ニハ一株ニツキ 一弗
- 五年以後定期日以前ニ受戻ヲナスハキ場合ニハ一株ニツキ 五十仙

罰 金

第十二條 一、組合員ニシテ指定ノ時迄ニ其毎週儲金ノ拂込ヲ怠ルトキハ一回ニツキ一株ニ對シ五仙ノ罰金ヲ課ス

二、組合員ニシテ年總會ニ缺席シタル者ハ五十仙ノ罰金ヲ課ス但シ其者カ疾病ニ罹リ若クハ市内ニ

在ラサリシトキハ此限ニアラス

改 正

第十三條 本定款ハ組合員ノ有スル全株數ノ過半數ノ票決ニヨルニアラサレハ改正變更スルコトヲ得ス

二、「メンソイス」市労働者普請及貸費組合定款

第一條 本組合ヲ「メンソイス」市労働者普請及貸費組合ト稱シ組合員ヲシテ其居宅ヲ所有セシムルコ

トニ助力シテ適當ナル擔保ニ基キ貸費ヲナスハキ基金ヲ積立テ且本定款ニ規定スル他ノ方法ニヨリ投資スルモノトス

株

第二條 一、本組合ノ株ハ一株二百弗トシテ發行シ各發行毎ニ株主數ハ理事會ニ於テ之ヲ決定ス

組合員資格

第三條 一、本組合員ハ合衆國ニ住スル白人ニシテ本組合ノ一株以上ヲ引受ケ且本定款ニ調印シタルモノタルコトヲ要ス

未婚ノ女子及未成年者ハ其之ニ屬スハキ凡テ權利及特權ヲ行使シ得ハキ後見人若クハ其他適法ノ代理人アルトキハ此組合ノ株ヲ所有スルコトヲ得

既婚ノ女子ハ其夫ノ債務及債權ト無關係ニテ此組合ノ株ヲ所有スルコトヲ得

何人ト雖モ一人ニテ本組合株五十株以上ヲ所有スルコトヲ得ス

二、各組合員ハ本組合ノ事務ニ關シ一人一個ノ票決權ヲ有シ且代理人ヲシテ投票スルコトヲ得ス但シ役員ノ選舉ハ一票ノ割合ヲ以テ自身若クハ代理人ニヨリ多數決ヲ以テ之ヲ選任スルモノトス

三、組合員ハ主事ニ通告シテ其持株ヲ讓渡スルコトヲ得且此場合ニ於テハ讓渡セラルハキ各一株ニ對シ十仙ノ讓渡手数料ヲ納付シ買手ハ本定款ニ調印スルコトヲ要ス

四、組合員ニシテ本組合ニ擔保ニ供セサル一個以上ノ株ノ受戻ヲ欲スルトキハ主事ニ對シ書面ヲ以テ三十日以前ニ豫告スルコトヲ要ス

前項三十日ヲ經過スルトキハ受戻請求ヲナセル株主ハ該株ニ對シ實際ニ拂込ミタル金額及理事會ニ於テ適當ト認メタル割合ニコソ利益金ヨリ凡テ罰金手数料其他該株主ニ課徴スハキ金額ヲ差引キテ殘額ヲ拂戻スモノトス但シ如何ナル場合ト雖モ理事會ノ同意ナクシテ本組合金庫ニアル資金ノ半額以上ヲ當該受戻請求株主ニ拂戻スコトヲ得サルモノトス

五、株主死亡シタルトキハ其者ノ法律上ノ代理人ハ本定款ニ調印シ且死亡者ノ負擔スハカリシ債務ヲ辨濟シテ死亡者ニ屬スハカリシ權利及特權ヲ繼承スルコトヲ得若クハ本定款第三條第四號ノ規定ニヨリ死亡者ノ持株ヲ受戻スルコトヲ得

六、罰金、手数料、過料若クハ利子ヲ拂込マサル者ノ株ハ是等ノ金額ヲ拂込ムコトニ付本組合ニ擔保

ニ供シタルモノト看做ス

七、組合員ニシテ其儲金ヲ拂込ムコトヲ怠リタル者ハ毎月一株ニツキ五仙ノ罰金ヲ課徴シ其拂込アル迄毎月之ヲ徴收ス

八、貸費ヲ受ケタル者ニシテ其割賦金若クハ利子ヲ六個月間拂込マサルトキハ理事會ハ一八七五年三月十九日通過シ一八七五年三月二十三日裁可セラレタル立法院ノ條例ノ規定ニ基キ擔保トシテ保持セル信託證書ノ規約ヲ強行スルノ義務アルモノトス

割賦金拂込

第四條 一、各一株ニ對シ毎月一弗ノ割賦金ヲ前拂スハキモノトス

一組ノ株發行後株ノ引受ヲ欲スル者ハ該組ノ株ニツキ既ニ拂込期到レル全割賦金額及理事會ノ要求スル打歩トヲ拂込ムコトヲ要ス

役員

第五條 一、本組合ニ會長、副會長、主事、會計長各一名及七名ノ理事ヲ置ク理事中二名ハ會長、副會長トシ毎年本組合ノ定期總會ニ於テ一般投票ヲ以テ選任セラルハキモノトス且其任期ハ一個年トシ又其後任者ノ就職迄在職スルモノトス

役員ノ義務

第六條 一、會長、若シ會長在ラサルトキハ副會長ハ本組合ノ各會合及理事會ニ於テ議長ノ職務ヲト
リ其秩序ヲ保持シ本組合ノ規定ヲ執行シ其他本定款及爾後制定セラレハキ細則ニ定ムル所ノ諸職務
ヲ執行スルノ義務アルモノトス

二、主事ハ本組合及理事會ノ處置ニ關シ明細ナラシムルノ義務アルモノトス主事ハ組合員ニ關スル
正確ナル記録ヲ支持シ本組合ニ對シ拂込マルハキ凡テノ金員ヲ受領シ毎月一回以上之ヲ會計長ニ引
繼キ且其受取證ヲ受理シ置クモノトス主事ハ其計算ノ正確ニ關シ責ニ任シ且記事ノ要求スル所ニヨ
リ他ノ任務ニ就クモノトス

主事ハ其職務執行上ノ誠實ヲ保證セン爲メ保證人二名及五千弗以上ノ保證金ヲ提供スルコトヲ要ス
且理事會ノ認許スル所ニヨリ其職務ニ對スル報酬ヲ受クルモノトス

三、會計長ハ本組合ニ拂込マレタル凡テノ金員ヲ主事ヨリ受領シ且之ニ受取證ヲ交付スルノ義務アル
ルモノトス會計長ハ理事會ノ命令ニヨル支拂命令書ニシテ會長及主事ノ審檢シタルモノニ對シ支拂
ヲナスハキモノトス

會計長ハ其收支ニ關スル正確ナル計算書ヲ備ヘ其帳簿及計算書ハ何時ニテモ理事會ノ檢査ニ應スルコ
トヲ要ス

會計長ハ請求アルトキハ本組合ノ財政狀態ニ關スル報告ヲナスモノトス

會計長ハ其職務執行上ノ誠實ヲ保證セン爲メ二名以上ノ保證人及一萬弗以上ノ保證金ヲ提供スルコ
トヲ要ス

會計長ハ其後任者就職シタルトキハ二週間以内ニ於テ凡テ金員、帳簿、書類及其他本組合ニ屬スル財
産ヲ一切引渡スハキモノトス

會計長ハ其執務上忠誠ナリシモノニ對シテハ理事會ノ認許スル所ニヨリ報酬ヲ受領スルモノトス

四、理事會ハ本組合ノ全事務ヲ管理シ常ニ其報酬ヲ求ムルノ義務アルモノトス

理事會ハ凡テ契約、保證金、證書、擔保、金員、書類、帳簿其他本組合ニ屬スル各種ノ財産ヲ管理スルコ
トヲ要ス

理事會ハ必要ニヨリ代理人其他凡テ代理者ヲ選任シ之カ報酬ヲ定ムルコトヲ得

理事會ハ次ノ總會迄其ノ缺員ヲ補任スルコトヲ要ス

理事會ハ事務ヲ處理スル爲メ毎月之ヲ開キ且本組合ノ總組合員ニ公開シ隨意傍聴セシムルモノトス
理事會ハ何等報酬ヲ受理スルコトヲ得ス

第七條 一、毎月定例理事會ニ於テ支途定マラサル手許保管金アルトキハ二百弗若クハ以上ノ金額ヲ
貸費ノ爲メ提供スハキモノトス

二、各組合員ハ其所有スル株數ノ額面價額ヲ超過セサル範圍ニ於テ貸費ヲ受クルノ權利アルモノト

- ス但シ何人ト雖モ一口ニテ十五株以上ノ金額ノ貸費ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
- 三、貸費上優先者ノ選擇ハ打歩ノ多少ニ依ル最モ打歩ノ高キ者ニ對シ先ツ貸費シ尙殘餘ノ基金ニツキテモ同一ノ方法ニヨリ貸費スルモノトス
- 四、凡テ貸費ニ對スル利子ハ該貸費ヲナシタル時ヨリ法定利子ニ據リ月割ヲ以テ毎月定例融金ト共ニ之ヲ前拂スハキモノトス
- 凡テ貸費ハ該組合員ヲシテ居宅ヲ建造若クハ其他ノ不動産ヲ買入又ハ之ニ手入レヲナスノ目的以外ニ費スルコトヲ得ス且貸費ハ未タ債務關係アラサル不動産ニ關スル信託證ヲ差入レテ之ヲ受クルモノトス
- 五、組合員ニシテ毎月ノ融金、利子、罰金若クハ過料ヲ怠納セルモノナルトキハ貸費ヲ請求シ若クハ之ヲ受理シ若クハ如何ナル事項ニ關シテモ票決ニ加ハルコトヲ得ス
- 六、貸費ノ認許ヲ受ケタル後五日以内ニ擔保ヲ提供スルコトヲ要ス此場合ニ於テ理事會カ該擔保ヲ承認受理シタルトキハ貸費金ヲ交付シ若クハ貸費受給者ノ利益ノ爲メニ且其指定ニ基キ理事會ニ於テ該資金ヲ投資スルモノトス
- 七、擔保ニシテ其理由ノ何タルヲ問ハス理事ニ於テ不充分、不完全若クハ不満足ナリト認ムルトキハ貸費ハ之ヲナササルモノトス

- 一組合員ニシテ貸費決定ノ後其者カ擔保ヲ提供スルコトヲ得ス若クハ提供スルコトヲ怠リ又ハ提供シタル擔保カ承認ヲ得サリシトキハ當該組合員ニ對シ一個月分ノ利子及其他一切ノ必要費ヲ課シ且該資金ハ次ノ定例理事會ニ於テ他ニ貸費セラルハキモノトス
- 八、貸費ヲ受ケタル組合員ニシテ該資金ヲ本定款ニ認メタル目的以外ニ使用セルコト確實ナルトキハ其者ニ對シ更ニ貸費ヲ繼續スルト否トハ理事ノ任意トス
- 九、融金、利子、罰金、過料及經費ニ關スル請求權ハ當該犯則者ノ持株ニ對シ先取特權ヲ有スルモノトス毎月ノ融金ニシテ怠納六個月ニ及フトキハ其者ノ株ヲ取消シ之ヲ組合ニ歸屬セシムルモノトス但シ該株所有者ハ該株ニ對スル拂込止ミタルトキハ該株ノ受戻ヲナス場合ニ於テ拂戻サルハキ金額ヨリ該株ニツキ組合ノ有スル凡テ請求金額ヲ差引キテ拂戻サルハキモノトス
- 取消若クハ拂戻サレタル株ノ代リニ理事會ノ指定ニ基キ新株ヲ發行スルコトヲ得

剩餘基金

- 第八條 一、何時ニテモ剩餘基金アルトキハ理事會ハ本組合ノ名ニ於テ且本組合ノ資産トシテ不動産ノ購買及家屋ノ建造ニ之ヲ投資スルコトヲ得且之ヲ本組合ノ利益ノ爲メニ任意賣却若クハ讓渡スルコトヲ得ルモノトス但シ理事會總員ノ四分ノ三以上ノ票決ニヨルニアラスンハ資金若クハ資産ハ本條ノ規定ニヨリ之ヲ讓渡スルコトヲ得サルモノトス

二、理事會ニ於テ便宜ト認ムルトキハ基金ハ滿期トナラサル株ノ買戻シニ使用スルコトヲ得

清算

第九條 一、舊組ニ屬スル株金拂込カ其極限若クハ額面金額ニ達シタルトキハ凡テ損益決算セラレタル場合ニハ擔保ニ供セサル株ノ所有者ニ對シテハ一株ニツキ二百弗ヲ支拂フモノトス
貸費ノ爲メニ擔保ニ供セラレタル株ニ關シ預人セラレタル證券ハ之ヲ棄却シ且返戻シ當該株ハ組合ニ歸屬スルモノトス但シ當該組合員ノ所有株若クハ證券ニ對スル各種ノ請求金額ハ該株カ買戻ツレ若クハ證券ノ返付セララル以前ニ於テ全部支拂ハシムルコトヲ要ス

二、前號所定ノ清算後尙餘利金アルトキハ當該組合ノ株所有者タリシ組合員ノ間ニ各自ノ利益ニ應シテ之ヲ配當スルモノトス

改正

第十條 一、本組合ハ其便宜トスル所ニ依リ細則、規則及規程ヲ制定採用スルノ權能ヲ有ス但シ本定款ニ牴觸スルコトヲ得ス
二、本定款ヲ改訂變更セントスルトキハ年總會若クハ臨時總會ニ於テ一個月前ヨリ文書ニヨル預告ヲナシ且「メンフキス」市ニ於テ發行スル二個新聞紙ニ二回以上廣告シ尙出席員ノ四分ノ三以上同意アルコトヲ要ス

定款ニ對スル改正

三、本組合ハ其採用スル所ノ細則ニ基キ各一百弗ノ株ヲ以テ前拂及全額拂株ヲ發行スルコトヲ得但シ該株金額ハ何時ニテモ總計十萬弗ヲ超ユルコトヲ得ス

ト、借家契約

一、「ポルチモニア」

一九〇〇年〇〇月〇〇日〇〇差配人及〇〇ノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス
前記〇〇差配人ハ〇〇所在家屋ヲ〇〇年〇〇月〇〇日以降〇〇年ノ期間毎月〇〇ノ賃借料ヲ以テ之ヲ〇〇ニ資與ス賃借料ハ下記賃借契約カ豫定期限前ニ終了スルニアラサル以上該期限中ハ毎〇〇日ニ〇〇弗宛前拂スヘキモノトス
前記〇〇ハ當然支拂フヘキ前記賃借料ヲ支拂フヘキコトヲ契約ス前記賃貸人ヨリ文書ニヨル承諾ヲ受タルニアラサレハ本契約ヲ讓渡シ若クハ家屋ヲ轉貸スルコトナキモノトス〇〇ハ本契約期間若クハ之ニ繼續スル延長期間該家屋ヲ適當ニ保持シ且修繕ヲナスモノトス家屋ヲ明渡ス場合ニハ其受理シタルトキハ同一ノ状態及條件ニ復スルモノトス但シ通常ノ破損ハ此限ニアラス〇〇ハ前記家屋ニ關スル保險證書ニ違背シ又ハ現在ノ保險料ヲ増加スルコトヲ爲ササルモノトス〇〇ハ凡テ市條例ニ準據スルモ

賃借人：…カ其當然ノ期日ニ家賃ノ支拂ヲ滞リタルトキハ賃借人ハ該家屋内ニ立入り且之ヲ取戻スノ權利ヲ有シ尙其取戻ニツキ何等ノ豫告ヲモ要セサルモノトス
賃借人：…ハ更ニ左ノ件ヲ承認ス

一、賃借人ノ文書ニヨル同意アルニアラサレハ家屋ノ如何ナル部分ニテモ之ヲ轉貸スルコトヲナササルコト

一、家屋ノ如何ナル部分モ之ヲ損傷、破壊移轉、若クハ爲サシムルコトナク且便所、地下室内、床上若クハ家屋ノ周圍ニ下水、廢物若クハ汚物ヲ投入スルコトヲナササルコト

一、犬、鷄其他賃借人ノ意ニ反スルモノヲ飼養セサルコト

一、家屋ノ周圍ヲ整頓シ不都合ナル人物ヲ出入セシメサルコト

一、…ハ家屋ノ現狀ヲ支持シ…ノ間必要ニ應ジテ隨時修繕ヲナシ之カ爲メ賃借人ニ費用ヲ要求シ負擔セシムルコトヲナキコト

右諸條件ノ拙者乃チ…自身ニ於テ違背スルトキハ賃借人ハ何時ニテモ本契約ノ解消ヲ通告シ何等ノ豫告ヲ要スルコトナクシテ家屋ヲ取戻スノ權利ヲ有スルモノトス

以上

ナ、食糧ノ調製並販賣ニ關スル條例規則

一、聯邦食品並藥品條件（一九〇六年六月三十日通過一九〇七年一月一日實施）

（注意）

本條例ノ外各州ハ小數ノ例外ヲ除キテ各特殊ノ食品ニ關スル條例ヲ有ス其多數ハ近來ノ發布ニ係ルモノナリ一九〇六年ノ全國食品及藥品條例ノ通過後約三十州ニ於テ新食品條例ヲ制定セリ

混成、偽造、有毒若クハ有害ナル食品、藥品、藥劑及酒類ノ製造販賣若クハ配布ヲ防止シ且之カ運搬ヲ取締ル等ノ目的ニ關スル條例

亞米利加合衆國ノ上院及代議院ハ茲ニ左ノ條例ヲ制定セリ

第一條 合衆國內各地方ニ於テ本條例ノ意味ニ於ケル混成若クハ偽造ノ食品若クハ藥品ヲ製造シタルトキハ之ヲ違法トシ本條例ニ違背シタル者ハ輕罪ヲ以テ之ヲ處斷シ審判ノ上裁判所ノ判決ニ依リ初犯ニハ五百弗以下ノ罰金若クハ一年間ノ禁錮若クハ此兩者ヲ課シ再審以上ニハ千弗以上ノ罰金若クハ一年間ノ禁錮若クハ此兩者ヲ以テ處斷セラル、モノトス

第二條 本條例ノ意味ニ於ケル混成若クハ偽造セル食品若クハ藥品ヲ合衆國內各州各地方ニ内外國ヨリ持來リ若クハ外國ニ輸送スルコトヲ得ス

本條例ノ意味ニ於ケル混成若クハ偽造品ヲ合衆國內ノ一州一地方ヨリ他ノ州ノ他ノ地方若クハ外國ニ輸送シ若クハ輸送ノ爲メニ交付シタル者又ハ合衆國內ノ一州一地方ニ於テ他ノ州他ノ地方若クハ

外國ヨリ之ヲ收受シ且原荷造ノ儘之ヲ賠償ヲ受ケテ若クハ其他ノ方法ニヨリ他ノ讓渡シ若クハ讓渡
 スル爲メニ提供シタル者及合衆國內一州一地方ニ於テ之ヲ賣捌キ若クハ賣捌ク爲メニ提供シ又ハ外
 國ニ輸出シ若クハ輸出ノ爲メニ提供シタル者ハ輕罪ヲ以テ論シ裁判所ノ審判ニ從ヒ初犯ニ對シテハ
 二百弗以内ノ罰金ヲ課シ再犯以上ニ對シテハ三百弗以内ノ罰金若クハ一年以下ノ禁錮又ハ此兩者ヲ
 以テ處斷スル所トス但シ該物品カ外國ニ對シ輸出ヲナスハキモノニシテ且外國ノ買手ノ注文指定ニ
 據リテ調製若クハ荷造シ且之カ當該外國ノ法律ニ抵觸セサルモノナルトキハ本條例ノ規定ノ意味ニ
 於テ混成若クハ粗製セルモノト看做サス若シ該物品ニシテ事實上内國ノ用途若クハ消費ノ爲メニ賣
 捌キ若クハ賣捌ノ爲メニ提供セラル、モノナルトキハ本條例ノ他ノ規定ノ適用上本條但書ニヨリ該
 物品ヲ除外スルコトナキモノトス

第三條 大藏卿、農務卿及商工務卿ハ本條例ノ規定ノ施行ニ關スル共同ノ細則ヲ制度スルコトヲ要ス
 前項ノ細則ニハ合衆國內ノ各地方ニ於テ製造若クハ發賣セラレ又ハ當該生産地方以外ノ州ニ於テ原
 荷造ノ儘賣捌ノ爲メ提供セラレ又ハ外國ヨリ收受シ若クハ外國ニ對シ輸送セラレ又ハ合衆國內各州
 各地方若クハ該物品カ州際取引若クハ國際取引ノ爲メニ提供セラルハキ内外港ニ於ケル衛生、食品
 若クハ藥品ニ關スル官吏ノ検査ニ附スヘキ食品及藥品ノ見本ヲ徵收及検査スルコトニ關スル規定ヲ
 設クハキモノトス

第四條 食品及藥品ノ見本ノ検査ハ農務省分析局ニ於テ若クハ同局ノ監理ノ下ニ之ヲナシ該物品カ本
 條例ノ意味ニ於テ混成若クハ偽造品ナルカヲ決定スルモノトス

前項検査ノ結果本條例ノ意味ニ於テ混成若クハ偽造品ナルコト明白ナルトキハ農務卿ハ之ヲ該物品
 差出人ニ通告スルモノトス
 前項ノ通告ヲ受ケタル者ハ所定ノ細則ニ基キ審問セラレ其結果本條例ニ違背セルコト明白ナルトキ
 ハ農務卿ハ該物品ニ關スル分析若クハ検査員カ宣誓ニヨリ適當ニ證明シタル分析若クハ検査表寫ヲ
 添ヘ直ニ之ヲ當該地方検事ニ對シ事實ヲ立證スルコトヲ要ス
 裁判所ニ於テ判決アリタルトキハ所定ノ細則ニ依ル方法ヲ以テ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第五條 地方検事ハ農務卿ヨリ本條例ノ違背ニ關スル報告ヲ受ケ若クハ合衆國內各州各地方ノ衛生食
 品若クハ藥品ノ取締官吏ヨリ該違背ニ關スル満足ナル證明ヲ提示セラレタルトキハ相當ノ手續ヲ以
 テ合衆國ノ當該裁判所ニ起訴シ滯怠者ノ處罰ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 本條例ニ於テ藥品ト稱スルハ各種ノ藥劑及内外用トシテ合衆國藥局方ニ於テ承認シタル處方
 並人類若クハ其他動物ノ疾病ヲ治療シ緩和シ若クハ豫防スル爲メニ用ヒラルハキ材料若クハ其ノ混
 合物ヲ謂フ

本條例ニ於テ食品ト稱スルハ其單純ナルト混合若クハ複製ナルトヲ問ハス人類若クハ其他動物ノ食

糧、飲料、菓子若クハ藥味ニ使用セララルヘキ各種ノ物品ヲ謂フ

第七條 本條例ノ適用上ニ於テ左ノ物品ヲ以テ混成物トス

藥品ノ場合

一、藥品カ合衆國藥局方ニ於テ承認シタル名ノ下ニ發賣セララル、場合ニ於テ合衆國藥局方ニ於ケル
検査ノトキ決定シタリシ強度、分量、若クハ純分ノ標準ヨリ異リタルトキ但シ合衆國藥局方ニ於
テ承認セラレタル藥品ニシテ其強度、分量若クハ純分ノ標準カ瓶箱若クハ其他ノ容器ニ明瞭ニ
記載シアルトキハ該標準カ該藥局方ニ於テ決定セラレタル所ト異リタリト雖モ之ヲ以テ本規程
ニヨリ混成物ト看做サス

二、其強度若クハ純分カ發賣ニ際シ表明セル標準ニ足ラサルトキ

菓子ノ場合

「テラアルバ」、重晶石、滑石、「クローム、エルロー」其他礦質物又ハ有毒色素若クハ香料又ハ健康
上危害ヲ及ボスヘキ成分又ハ葡萄酒、麥芽若クハ酒精飲料又ハ混成若クハ麻醉性ノ藥品ヲ含有
スルモノ

食品ノ場合

一、其分量若クハ強度ヲ減小低下若クハ有害ナラシムヘキ材料ヲ混合及詰込ミタルトキ

二、原物ノ一部若クハ全部ヲ他ノ物品ヲ以テ代用シタルトキ

三、原物中ニ含有スヘキ重要成分ノ一部若クハ全部缺ケタルトキ

四、品質ヲ有害ナラシメ若クハ劣等ナラシムヘキ方法ヲ以テ混合、着色、製粉、包装若クハ汚染シタ
ルトキ

五、有毒若クハ有害ナル成分ヲ加味シテ原物ヲ健康ニ害アラシムルニ至リシトキ但シ輸出向食品調
製ニ當リ該物品カ外部的作用ヲ施コスニヨリ保存セラレ且其防腐劑カ藥品ノ力ニ依リ若クハ水
ニ浸漬スルニ依リ若クハ其他ノ方法ニ依リテ必然除去セラレ且該防腐劑除去方法ヲ包装上ニ印
刷セルモノナルトキハ本條例ノ規定ハ該物品カ直ニ消費ニ充テラルヘキ場合ニ於テノミ適用ア
ルモノト解釋スルモノトス

六、其物カ全部若クハ一部不潔腐敗、若クハ腐爛セル動物若クハ植物又ハ食料ニ適セサル動物ヲ以
テ其精製セルト否トヲ問ハス其成分ヲ構成セルトキ又ハ病死シタル動物若クハ其他屠殺以外ニ
因リ死亡シタル動物ヲ以テ製造シタルトキ

第八條 本條例ニ於テ偽造トハ虛偽若クハ欺瞞ヲナセル各種ノ藥品、食料品、若クハ食品ノ成分タルヘ
キ材料又ハ該物品ニ添付シ且之ニ關スル説明、意匠若クハ圖畫ヲ掲クヘキ包装若クハ封紙又ハ其他
ノ材料並其製造地ヲ偽レル藥品若クハ食品ニ之ヲ適用ス

本條例ニ於テハ左ノ物品ヲ以テ偽造トス

藥品ノ場合

- 一、他ノ物品ヲ模造シ若クハ其名稱ヲ以テ發賣スルトキ
- 二、原包裝内ノ内容ノ一部若クハ全部ヲ引出シ且之ニ代ソルニ他物ヲ以テシタルトキ若クハ包裝ニ添付セル封紙ニ於テ酒精「モルヒネ」阿片「コカイン」「ヒロイン」「アルファア」若クハ「ベタ、ユーケーン」「クロロフォルム」「キヤンナビス、インヂカ」「クロラル、ヒドレート」「アセタニリド」若クハ其他之ニ包含セラル、各種成分ノ分量若クハ割合ニ關スル記載ナキトキ

食品ノ場合

- 一、他ノ物品ヲ模造シ若クハ其名稱ヲ以テ發賣スルトキ
- 二、購買者ヲ欺瞞スヘキ封紙若クハ記載ヲ附シ若クハ外國製品ニアラサルニ外國製品ヲ裝ヒ若クハ原包裝内ノ内容ノ一部若クハ全部ヲ引出シ且之ニ代ソルニ他物ヲ以テセルトキ若クハ包裝ニ添付セル封紙ニ於テ「セルヒネ」阿片「コカイン」「ヒロイン」「アルファア」若クハ「ベタ、ユーケーン」「クロロフォルム」「キヤンナビス、インヂカ」「クロラル、ヒドレート」「アセタニリド」若クハ其他之ニ包含セラル、各種成分ノ分量若クハ割合ニ關スル記載ナキトキ

- 三、包裝上ニ其内容ヲ重量ニヨリ表ハスヘキトキニ之ヲ該包裝ノ外部ニ明白ニ且正確ニ記載セサル

トキ

四、包裝若クハ封紙ニ於テ其内容ノ成分若クハ材料ニ關スル説明、模様若クハ意匠ヲ掲クヘキ場合ニ於テ是等ノ記載ノミ虛偽若クハ誤謬アルトキ但シ其成分ニ於テ有毒若クハ有害ナル物質ヲ含マル食品ニツキテハ左ノ場合ハ之ヲ混成若クハ偽造セルモノト看做サス

- (一) 現行法若クハ爾後隨時定ムル所ニヨリ食品ト稱スル物ヲ其特殊ノ名稱ノ下ニ混合若クハ併合スル場合ニ於テ其封紙若クハ記載ニ於テ其物品ノ製造若クハ生産地ヲ記載スルトキハ他物品ヲ模造シ若クハ其名稱ノ下ニ發賣スルモノト看做サス

- (二) 該物品カ併合、模造若クハ混合製ナルコトヲ明白ニ指示スヘキ爲メニ封紙、記號、貼紙ヲ附スヘキ場合ニ於テ夫々「併合」「模造」若クハ「混合」ナル文字ヲ發賣スヘキ包裝ニ明瞭ニ記載セルトキ但シ本項ニ於テ混合ト稱スルハ類似ノ材料ヲ混合スルコトヲ意味シ單ニ色素及香料ノ爲メニノミ用フル無害ナル色素及香料、材料ヲ除外セス且本條例ニ於テハ健康ニ害アラサル成分ヲ包含スル食品製造若クハ販賣者ヲシテ其營業上ノ方式ヲ開示スルコトヲ要求若クハ強制スルモノト解釋スルコトヲ得ス但シ本條例ノ規定ニヨリ混成若クハ偽造ノ名ヲ免ルル爲メニ之ヲ要求スルトキハ此限ニアラス

第九條 取引者ハ其物品ヲ賣渡シタル卸賣人、小賣人、製造人若クハ其他合衆國ニ住スル者ニ於テ該物

品カ本條例ノ意味ニ於テ混成若クハ偽造セラレタルモノニアラサルコトノ保證ヲナストキハ本條例ノ規定ノ下ニ於テ起訴セラルルコトナキモノトス

前項ノ保證書ニハ該取引者ニ該物品ヲ賣渡シタル者ノ姓名住所ヲ掲クルコトヲ要シ本條例ノ規定ノ下ニ取引者ニ對シテ課スルコトアルハキ起訴、罰金其他ノ處罰ヲ賣渡人ニ課スルモノトス

第十條 食品、藥品若クハ酒類ニシテ本條例ノ意味ニ於テ混成若クハ偽造セラレ賣却ノ爲メ國內一地方ヨリ他地方ニ輸送セラレ若クハ輸送後未タ荷積セス賣却セス若クハ原包裝ノ儘存スルトキ又ハ國內各地方ニ於テ賣却若クハ賣却ノ爲メ提供セラレ又ハ賣却ノ爲メ他國ヨリ輸入シ又ハ外國ハ輸出セラレントスル場合ニハ該事實發見地方ノ地方裁判所ニ之ヲ起訴シ物品ハ沒收ノ申渡手續ニヨリ押收セラルルモノトス

前項ノ物品カ混成若クハ偽造若クハ此條例ノ意味ニ於テ有毒有害ト申渡サレタルトキハ當該裁判所ノ指令ニ基キ之ヲ破損若クハ賣却スルコトヲ要ス若シ賣却シタルトキハ裁判上ノ費用及負擔ハ合衆國々庫ニ納入スルコトヲ要ス但シ該物品ハ本條例ノ規定ニ反シ若クハ當該地方ノ立法ニ違ヒテ賣却スルコトヲ得ス但シ裁判費用ヲ支拂ヒ且本條例若クハ各地方ノ法律ニ反シテ該物品ヲ賣却若クハ讓渡セサルハキコトニ關スル良好ニシテ且充分ナル擔保ヲ提供シタルトキハ裁判所ハ該物品ヲ其所有主ニ返附スルコトヲ命令スルコトヲ得

前項ノ手續ハナルヘク海軍裁判所手續ト合致スルコトヲ要ス但シ各當事者ハ此場合ニ於テ事實ノ問題ニ於テ陪審官ニヨル審問ヲ要求スルコトヲ得且凡テ裁判ハ合衆國ノ訴訟ヲ以テシ尙合衆國ノ名ニ於テセラルハキモノトス

第十一條 大藏卿ハ農務卿ニ對シ其請求ニ基キ合衆國ニ輸入セシレ若クハ輸入ノ爲メニ提供セラルル食料品及藥品ノ見本ヲ交付スルモノトス此場合ニ於テハ其所有主若クハ荷受人ハ其旨ノ通告ヲ受ケ農務卿ノ面前ニ出頭シ且證言ヲ提供スルノ權利ヲ有スルモノトス

前項ノ見本カ其試驗ノ結果本條例ノ意味ニ於テ混成若クハ偽造タルコト明カナルカ又ハ合衆國ノ人民ノ健康上危險アルカ又ハ之ヲ製造若クハ輸出セル國ニ於テ通關ヲ禁止セラレ若クハ之カ賣買ヲ禁止若クハ制限セラルル物ナルカ又ハ其或事項ニツキ虛偽ノ商品票ヲ貼付セルモノナルトキハ之ヲ認許セサルモノトス

大藏卿ハ荷造人ニ前項ノ貨物ノ引渡ヲ拒絕シ且之ヲ輸出セシムルコトナク大藏卿ノ定ムル所ノ規程ニ依リ該拒絕ノ日ヨリ三個月以内ニ之ヲ破棄セシムルコトヲ要ス但シ大藏卿ハ試驗中及檢定中ニアル貨物ヲ其送狀ニヨル全價格及之ニ對スル税金額ニ相當スル保證金ヲ納メシメテ之ヲ荷受人ニ交付スルコトヲ得若シ該貨物ヲ國外ニ排除シ若クハ其他ノ目的ノ爲メニ大藏卿ノ要求アル場合ニ於テ其收容ニ應スルコトヲ拒ミタルトキハ該荷受人ハ保證金全額ヲ沒收セラルハキモノトス尙不認許若ク

ハ引渡ヲ拒マレタル貨物ニ關スル倉敷料、運搬料及加工料等ニ對スル全負擔額ハ該貨物ノ所有主若クハ荷受人ニ於テ之ヲ支拂フヘキモノトス若シ之ヲ支拂ハサルトキハ當該所有者若クハ荷受人カ將來ナスヘキ輸入品ニ對シ留置權ヲ設定セラルヘキモノトス

第十二條 本條例ニ於テ「地方」ト稱スルハ合衆國所屬ノ島嶼ヲ含ムモノトス

本條例ニ於テ「人」ト稱スルハ其場合ニ應シ單數タリ複數メルモノトシテ解釋スヘキモノトス且商社、會社、組合及協會ヲ含ムモノトス

本條例ヲ解釋シ且施行スル上ニ於テハ商社、組合、及協會ヲ代理シ若クハ之ニ使僱セラルル役員、代理人若クハ其他ノ者ノナシタル行爲、不行爲若クハ過失ハ其者並ニ當該商社、會社、組合及協會ノナシタル行爲、不行爲若クハ過失ト看做ス

第十三條 本條例ハ一九〇七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

二、「クリブランド」市食料品規程

第一章 家畜其他

第一條 政府檢疫官若クハ市檢疫官ノ認可票若クハ認可證ヲ得タルモノニアラサレハ家畜、羊、若クハ豚ノ肉若クハ其他之ヨリノ生産物ヲ賣捌キ若クハ賣捌ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第二條 衛生局ノ認許シタル屠獸場若クハ政府ノ監督スル屠獸場以外ニ於テ家畜羊若クハ豚ヲ屠殺ス

ルコトヲ得ス

第三條 「クリブランド」市ニ於テ何人ト雖モ獸醫ノ推薦ニ基キ許可ヲ受クルコトナクシテ左ノ業務ニ従事スルトキハ之ヲ違法トス

食料トシテ獸類ヲ屠殺シ之ヲ市場ニ荷送シ又ハ該獸類ヨリ生スル屑、脂肪、骨若クハ斷片若クハ死骸若クハ其他獸類ノ各部ヲ搬出シ又ハ肥料若クハ膠ノ製造ニ従事シ又ハ内臟ヲ取片付ケ若クハ搬出スルコト

市書記ハ衛生長ニ對シ前項ノ業務ニツキ文書ヲ以テ最初ニ許可ヲ申請シ且該衛生長カ推薦シタル者ニ對シテノミ當該業務ニ關スル許可狀ヲ下付スルノ權能ヲ有ス許可狀ニハ市長之ニ署名スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ申請書ニハ其許可ヲ求ムル業務ノ場所及性質ヲ特定スルコトヲ要シ且申請者ハ該許可ニ對シ左ノ標準ニヨリ納付金ヲ負擔スルモノトス

四足獸ニ關スル許可ナルトキハ一年ニツキ十弗

食料トシテ鶏、家鴨、鷺鳥、七面鳥、獵鳥其他家禽ノ屠殺又ハ調理ニ關スル許可ナルトキハ一年ニツ

キ二弗

前項ノ納付金ハ之ヲ衛生基金ニ繰入ルヘキモノトス

第四條 屠殺場若クハ屠牛場ノ所有者若クハ其ノ管理者ハ衛生事務所ニ其業務ノ許可ヲ申請スルトキハ該屠殺場若クハ屠牛場カ衛生局ノ定ムル衛生規程及特ニ左ノ要件ノ各項ニ適合スヘキ旨ノ官督書ヲ提出スルコトヲ要ス

イ、屠殺所ノ床ハ全部混凝土若クハ密ニ接合シタル塗板張ナルコト

其他ノ場所ノ床ハ全部混凝土若クハ密ニ接合シタル原板張ナルコト

凡テ屠殺場ノ床ニハ充分ナル冷水及温湯ヲ用意スルコト

凡テ床ハ直ニ水洗シ且排水スルコトヲ得ル様構造スルコト

ロ、血液ヲ溜置クヘキ桶ハ浸潤セサル材料ヲ以テ構造スルコト

ハ、屑溜槽ハ完全ナルヘク且獸醫長ノ設計ニ從フコト

ニ、冷却室以外ノ室ニハ床面積四平方呎毎ニ一平方呎ノ割合ノ窓ヲ設クルコト

ホ、屠殺前ニ獸畜ヲ繋留シ置クヘキ屋舎ハ覆ヲ施シ補石シ且排水ノ裝置ヲナスコト

ヘ、凡テ冷却室ハ獸醫長ノ承認スル所ニヨリ適當ナル換氣裝置ヲナスコト

ト、凡テ使傭人ノ爲メニ温湯ニヨル手洗場、衛生的使所其他適當ナル身仕度上ノ便宜ヲ設備スルコト

チ、建物ハ當該種類ノ建築ニ關スル法律ノ規定ニ從フヘキコト

食料トシテ鶏、家鴨、鶩鳥、七面鳥、獵鳥其他家禽ノ屠殺又ハ調理ニ關スル許可ヲ衛生事務所ニ申請スル者ハ當該屠殺場又ハ調理所ハ左ノ要件ニ適合スヘキ旨ノ官督書ヲ提出スルコトヲ要ス

イ、面積幅十呎長十二呎以上ヲ有スル混凝土ノ床ヲ備ヘ且適當ナル排水裝置ヲ施シ下水溝ニ接続スルコト

ロ、蓋及適當ナル吐口ヲ備ソル熱湯容器ヲ具備スルコト

ハ、密ニ接合シタル厚板床ノ充分ナル檻ヲ設備スルコト

第五條 腐爛シ汚穢シ酸酵シ酸敗シ腫脹シ臍割シ腐敗シ汚濁シ若クハ其他ノ理由ニ因リ人ノ食料ニ不適當ナル牛、羊、豚、魚、獵物、鶏若クハ其他家禽ノ肉ヲ販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供スル爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供スルコトヲ得ス

第六條 疾病ニ罹リ不健康ニシテ強狀ナラサルカ若クハ其他ノ理由ニ因リ人ノ食料ニ適セサル牛、羊、豚、魚、獵物、鶏若クハ其他家禽ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第七條 分挽後二週間以内ニ於テ屠殺シタル牛、羊、豚、魚、獵物、鶏若クハ其他家禽ノ肉ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供スルコトヲ得ス

第八條 變死若クハ病死シタル牛、羊、豚、魚、獵物若クハ其他家禽ニシテ適當ニ屠殺セラレ放血シ清淨

シ及調理シタルモノニアラサル肉ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第九條 生後四週間ヲ經スシテ屠殺シタル犢ノ肉ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供スルコトヲ得ス

第十條 生後五週間ヲ經スシテ屠殺シタル豕ノ肉ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供スルコトヲ得ス

第十一條 生後八週間ヲ經スシテ屠殺シタル羊ノ肉ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第十二條 牛、羊、豚、魚、獵物、鷄其他家禽ノ肉ハ之ヲ塵埃ヲ避クル爲メニ全部覆ヲナスニアラサレハ街路、路地若クハ其他道路ヲ運搬スルコトヲ得ス

第十三條 水、食料及換氣力健康ト安全トノ保持上不充分ナル場所ニ於テ牛、羊、豚、獵鳥、鷄其他家禽ヲ圍ヒ置クコトヲ得ス

第十四條 牛、羊、豚、魚、獵物、鷄其他家禽ノ肉ヲ販賣セントスル者ハ之ヲ貯藏シ若クハ販賣ノ爲メ提供スルキ場所ヲ清潔ニ且衛生的ニ保持シ且有害ナル臭氣ヲ避クルコトヲ要ス

第十五條 牛、羊、豚、魚、鷄其他家禽ノ死屍若クハ肉片ヲ市場ノ外部若クハ之ニ類スル場所若クハ窓若クハ入口等ニ於テ堆積、懸垂若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第十六條 鉛管製造ニ關スル法律第二卷第十二章第五條ノ規定ニ據リテ構造セサル冷蔵庫若クハ冷却器ニ於テ牛、羊、豚、魚、鷄其他家禽ノ死屍若クハ肉片ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十七條 政府若クハ市ノ檢疫官又ハ市場監理役若クハ其助役カ禁止シタル牛、羊、豚、魚、獵物、鷄其他家禽及其肉ヲ販賣シ若クハ販賣ノ爲メニ提供スルコトヲ得ス

第二章 檢疫官ノ肉検査ニ關スル規則

第一條 凡テ獸畜ノ死屍其一部若クハ肉片ニシテ徽章、印版、物品證票若クハ送達票等ニヨリ衛生局若クハ合衆國政府ノ檢疫官カ適當ニ之ヲ検査シ且通過セシメタルコトヲ表證スルモノニアラサレハ之ヲ販賣ノ爲メ市ニ運ヒ込ミ又ハ販賣ノ爲メ提供シ若クハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 凡テ獸畜ノ死屍、其一部若クハ肉片ハ徽章、印判、物品證票若クハ送達票ニヨリ衛生局若クハ合衆國政府ノ檢疫官カ適當ニ之ヲ検査シ且通過セシメタルコトヲ表證スルモノニアラサレハ之ヲ屠殺場ニ運ヒ込ムコトヲ得ス

第三條 獸畜ノ屠殺ハ日曜以外ノ週日ニ於テ午前六時半ヨリ午後五時半迄ノ間ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ臨時緊急ノ場合ニ於テ獸醫長ノ許可ヲ得テ屠殺スルトキ又ハ危害ヲ加ヘ若クハ其他特別ノ場合ニ於テ定時間外ノ屠殺ヲ必要トスルトキハ此限ニアラス此場合ニ於テハ該獸畜ノ死屍ハ其内臟ト

八百二十一

其ニ検査官若クハ其補助員ノ検査ヲ受ケ且検査官ハ當該屠殺所管理者ノ屠殺獸畜頭數ニ關スル署名セル文書ニ之カ證明ヲナスモノトス

日曜日正午十二時以後ニ於テハ臨時緊急ノ場合ノ外獸醫長ノ許可ナクシテ屠殺ヲナスコトヲ得ス獸醫長ノ許可ハ屠殺ヨリ二十四時間以前ニ之ヲ得置クハキモノトス屠殺所管理者ハ當該検査官若クハ其補助員ニ對シ其日ノ屠殺ヲ終了シタルコト及翌日ノ屠殺ヲ開始スハキ時間ヲ報告スルコトヲ要ス
第四條 凡テ獸畜ヲ繋留場ニ引入レ屠殺所ニテ屠殺セントスルトキハ豫メ衛生局ノ設置スル所ニヨリ之ヲ秤量スルトキニ検査ヲナスモノトス秤量ヲナササル場合ニハ權ノ中ニテ該試験ヲ行フハキモノトス

若シ前項ノ検査ノ結果該獸畜カ左ノ各種ノ疾病若クハ不健全ノ状態ニアルコト明カナルトキハ其其ニ「クリゾランド」不合格「ナル文字及番號ヲ刻メル金屬製ノ札ヲ嵌メ込ミ若クハ其他檢定ヲ表示スルニ必要ナル表證ヲ附スルコトヲ要ス

- イ、豚虎列刺
- ロ、豚ベスト
- ハ、靡若クハ炭疽病
- ニ、恐水病

ホ、悪性感胃

ハ、膿血症及敗血症

ト、畜癩若クハ疥癬(獸畜カ完全ニ癒治セサルトキ)

チ、放射菌病若クハ顎骨病

リ、肺炎、肋膜炎、腸炎、腹膜炎及子宮炎

ヌ、「テキサス」熱病

ル、肺結核

ヲ、出血性敗血症

ワ、氣腫疽

カ、妊娠ノ度進メル獸畜(分娩期接近ノ徵候アルモノ)若クハ最近ニ分娩シタルモノ(十日以内)

ヨ、疾病若クハ傷害ノ爲メ發熱シ若クハ體質ヲ變シテ人ノ食料ニ適セサルニ至リシトキ

タ、獸畜ノ若キニ過キ又ハ成熟セサルカ爲メ其肉カ衛生上不適當ナルモノ

レ、獸畜カ悪シキ打傷、切傷ヲ受ケ痲腫、膿瘡ヲ表ハシ若クハ潰爛シタルトキ

ソ、獸畜カ憔悴又ハ貧血ニ過キテ其肉カ衛生上不適當ナルモノ

不合格ノ獸畜ハ所有者ニ於テ他ノ検査ノ結果疾病ナク且人ノ食料ニ適スト認メラレタル獸畜ヲ收容

セル檻ヨリ直ニ分離シテ之カ適當ノ處置ヲ採ルコトヲ要ス

獸畜ヲ屠殺者ニ引渡ス爲メ検査所ニ曳キ込マル、場合ニハ繋留場勤務ノ検査官ノ署名シタル許可狀ヲ添付スハキモノトス屠殺所ニ到着シタルトキハ該許可狀ヲ死屍検査勤務ノ検査官ニ提供シ且之ニ關シ屠殺者ノ使傭人ハ該獸畜ヲ剥皮スル以前ニ屠殺現場ニアル検査官ニ對シ適當ナル證明ヲナスコトヲ要ス

獸畜ヲ繋留場ニ於テ検査セザルトキハ同所勤務ノ検査官若クハ其補助員ハ同所ニアル檻内ニ於テ其屠殺セントスル獸畜ヲ周到ニ検査スルコトヲ要ス

前項ノ検査ヲ終ル迄ハ之ヲ屠殺場ニ廻付スルコトヲ得ス

分娩期近ケル徵候アル爲メ屠殺不合格トナリタル獸畜ハ分娩後十日以内ニ於テ屠殺スルコトヲ得
妊娠及分娩シタル獸畜ハ許可ヲ受ケテ飼養若クハ搾乳ノ目的ノ爲メ之ヲ轉送スルコトヲ得但シ其疾病ニ感染シ若クハ感染ノ虞アルトキハ此限ニアラス

第五條 検査官若クハ其補助員ハ當該屠殺場ニ於テ各獸畜ヲ其屠殺後周到ニ検査シ且衛生事務所ニ對シ死屍検査ニ關スル報告ヲ爲スモノトス

獸畜ノ頭、尾、大網膜及網膜ニ包マレタル脂肪ハ前項ノ死屍検査終了スル迄ハ其見極ヲ得セシムハキ状態ニ於テ之ヲ保存シ其死屍ノ不合格トセラレタル場合ノ立證ニ備フルモノトス

獸畜ノ死屍カ前項ノ死屍検査ニヨリ疾病ニカ、リ若クハ其他ノ食料ニ不適當ト認めラレタルトキハ死屍ニ對シ不合格票ヲ條線ヲ以テ添付シ且封印スルコトヲ要ス疾患部其他死屍ノ一部ニシテ切離サレタルモノニツキ亦同シ

不合格票ヲ添付シタル死屍若クハ其部分ハ之ヲ槽中ニ詰込ムモノトス

第六條 豫備検査ニヨリ不合格トセラレタル獸畜及豫備検査ニ合格シ屠殺後死屍検査ノ結果左ニ掲クル疾病ニ感染セルコトヲ發見セラレタル獸畜ハ以下ノ規定ニヨリ之ヲ處理スハキモノトス但シ各場合ニ適應スハキ規則ヲ制定シ又ハ病勢ノ嫌惡ス、キ程度及疾病ノ有害ナル程度ヲ正確ニ表示スルコト不可能ナルノ事實ニ基キ所定ノ規則ナキ事項ニ關スル最終ノ決定ハ検査官ノ裁決ニ任スルモノトス

(疾病ノ名稱略ス)

第七條 凡テ屠殺ハ不合格ナル死屍及其部分ヲ検査官若クハ其補助員カ其詰込ヲ監督スル爲メ出張スルニ至ル迄ノ間收容シ置クハキ適當ナル室ヲ具備スルコトヲ要ス

前項ノ室ハ衛生事務所ヨリ給付シタル海老錠ヲ施シ其鍵ハ検査官若クハ其補助員之ヲ保管スルモノトス

(イ) 検査ニ相當ノ時間ヲ要シタル後屠殺所カ適當ナル容積アル收容室ヲ具備セス若クハ不合格トセ

ラレタル日ニ於テ之ノ容器ニ詰込ムコト能ハサリシトキハ該死屍ハ石油ヲ以テ浸潤セシメ其ノ最終ノ處置ヲ採ル迄之ニ横棧ヲ附スルモノトス

第八條 凡テ不合格トナリタル死屍ハ左ノ方法ニヨリ容器ニ詰込ムモノトス

容器ノ下部ノ口ヲ検査官ニ於テ閉塞シタル後不合格トナリタル死屍若クハ其部分ヲ朝ノ間ニ入レ直ニ強力ナル蒸氣ヲ通シテ其日ノ屠殺終了前ニ到底人ノ食料ニ適セサル様肉ヲ破壊スルニ至ラシム又ハ其日ノ屠殺終了後若クハ屠殺中止後不合格死屍ヲ容器ニ移シ其兩端ヲ密閉シテ蒸氣ヲ通シ肉ヲ破壊スルニ至ラシムルコトヲ得

衛生事務所ハ容器ヲ封スル爲メ條線及針ヲ準備スルコトヲ要ス

(イ) 下等ノ屠肉ヲ不合格死屍ト共ニ(豚脂製造容器ヲ除ク)容器ニ詰メ實際上人ノ食料ニ適シ得ハカ

ラサルニ至ラシム若シ屠肉ナキトキハ小刀ヲ以テ死屍ヲ截斷シ石油ヲ浸潤セシメテ容器ニ詰込ムモノトス

(ロ) 不合格ナル材料ヲ詰込ミタル容器ノ封ハ定時之ヲ明ケ換フヘキトキハ検査官ニ於テ之ヲ放棄スルモノトス若シ然ラサルトキハ該封ヲ破棄スルニ適當ナル準備ヲ當該検査官ト共ニ整フヘキモノトス

第九條 不合格ノ死屍ヲ破壊スルノ設備ナキ場所ニ於テハ該死屍ハ當該検査官ノ許可ヲ得テ之ヲ構内

ヨリ移シ検査官ノ指定スル所ニ從ヒ其監督ノ下ニ前條ニ規定スル方法ニヨリ破壊スルモノトス

第十條 死屍ノ一部分カ不合格ニシテ且其部分カ適當ニ冷却スルニアラスンハ死屍ニ損害ナクシテ脱

離シ得サルトキハ不合格票ヲ附シテ之ヲ冷却室ニ搬入スルモノトス

冷却シタル後不合格ノ部分ヲ切離シ容器若クハ他室ニ之ヲ移シ死屍ニ損害ナクシテ脱離セラレタル

不合格ノ部分ハ前數條ノ規定ニヨリ容器ニ詰込ムヘキモノトス

第十一條 凡テ不合格ノ死屍若クハ其一部分ハ検査官ノ面前ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ要シ検査官ハ豫メ備付ケタル用紙ニヨリ處分ニ關スル報告ヲナスモノトス

第十二條 検査官カ不合格トシタル死屍若クハ部分ハ當該検査官ノ指令ニヨリ之ヲ處分シ若クハ食料ニ堪ヘサラシムルモノトス

前項ノ規定ニ從フコトヲ忘リタルトキハ衛生局ハ其者ノ免許狀ヲ剝奪スルコトヲ得

第十三條 不合格ノ死屍若クハ其部分ヨリ票札物品證票若クハ印判ヲ脱離スルコトヲ得ス

第十四條 死屍若クハ其部分ヲ公認屠殺場ヨリ他ニ搬出スルトキハ検査官ハ衛生事務所カ力カ爲ニ發行シタル證票若ハ印判ヲ以テ徵章ヲ附スルコトヲ要ス且之ニ關スル報告ヲ衛生事務所ニ送致スヘキモノトス

(イ) 死屍若クハ其部分ニシテ屠殺場ノ調理室ニ移入シ若クハ鐵詰用ニ供セラル、トキハ物品證票ヲ

附スルコトヲ要セス同一ノ目的ノ爲メニ一屠殺場ヨリ他ノ屠殺場ニ運搬スルトキ亦同シ

(ロ)屠殺場ノ管理者ハ輸送ノ豫定及運搬車ニヨル肉ノ受納ノ豫定ニツキ検査官若クハ其補助員ニ適當ナル通告ヲナスモノトス且公認屠殺所ニ於テハ検査官若クハ其補助員カ了知スルニアラサレハ肉若クハ肉ニヨル製作品ヲ受納スルコトヲ得サルモノトス

(ハ)公認屠殺場ニテ肉ヲ收受スヘキ運搬車ノ封印ハ検査官若クハ其補助員ノ不在ノ間ニ荷卸スルコト必要ナル場合ニハ之ヲ破棄スルコトヲ得但シ破棄シタル封印並該運搬車記號及内容(個數及重量)ニ關スル覺書ヲ検査官若クハ其補助員ニ提示スルコトヲ要ス

第十五條 食料製作品ハ其罐詰、樽詰、小桶詰、監詰、箱詰、帆木綿其他包装ノ如何ヲ問ハス検査済ノ死屍ニヨリ製造シタルモノナルトキハ當該製造所ノ公認番號ヲ記載スル物品證票及其適當ニ検査ヲ經タル旨ノ記事ヲ貼付スルコトヲ要ス

第十六條 印紙、票札、物品證票等ハ屠殺所若クハ製造所ニ於テ散亂セシムルコトヲ得ス且検査官カ是等證票ノ發行ヲ辨明シ且貼用ヲ監督シテ検査セサルモノニ對シ貼用シ得セシメサル爲メニ必要ナリト認メタルトキハ尙他ノ豫防方法ヲ設クルコトヲ得

(イ)損傷若クハ不用ノ印紙、票札、封印若クハハ物品證票ハ検査済製作品ニ貼用シタルコトノ報告中ニ加ヘサルモノトス且之ヲ當該検査官ニ返付シ其返付ノ理由ヲ報告スヘキモノトス

(ロ)肉若クハ食料製品ハ其衛生的價値ヲ減スヘキ成分若クハ普通ノ鹽、砂糖、燃料、醋酢、純粹香料ノ外藥材、化學品、染料(特ニ愛ニ掲ケサル)其他ノ含有物ヲ含ムコトヲ得ス

本規則ヲ嚴正ニ施行スル上ニ於テ必要ナル方法及時期ニ於テ衛生及醫務局員ハ肉及肉製品ヲ検査及試験スヘキモノトス

第十七條 各屠殺所ニ於テ行ヒタル検査報告ハ當該検査官ヨリ毎日衛生事務所ニ之ヲ提出スヘキモノトス但シ衛生局若クハ衛生事務長カ特定シタル用紙ニヨリ且其様式ニヨルコトヲ要ス

第十八條 當該検査官ハ自己担当ノ公認屠殺場ノ名義變更アリタルトキハ直ニ之ヲ衛生事務長ニ通告スルモノトス

第十九條 屠殺者カ其業務ヲ停止シタルトキハ検査官ハ直ニ醫務局ニ通告シ其使傭人ニシテ該停止ニヨリ影響ヲ受クヘキモノヲシテ之ヲ知ラシメ且無給賜暇サルヘキ人員ニツキ其推薦ヲナスモノトス前項ノ停止中ハ該屠殺所ヨリ検査済製品ヲ搬出スルコトヲ監督スルニ實際上必要ナル被傭人ノミカ在職スヘキモノトス

第三章 牛 乳

第一條 衛生事務長ノ許可ナクシテ牛乳ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第二條 獸醫長ノ承認ニ基キテ下附セラレタル許可若クハ免許狀ヲ有セサル牛乳賣捌人搾乳業者若クハ其他ノ者ヨリ得タル牛乳ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第三條 搾乳業者、牛乳賣捌人其他ノ者ニシテ牛乳ノ販賣若クハ取引ヲナスヘキ許可ヲ衛生事務所ニ申請スルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル宣誓書ヲ提出スルコトヲ要ス

本人ノ姓名、住所其所有若クハ管理スル牛乳ノ頭數、各日ノ販賣高(豫想)牛乳卸元ノ姓名、住所及其免許番號本人カ毎日卸元ヨリ買取ルヘキ牛乳高(豫想)卸元ノ各日ノ卸高(豫想)及其所有若クハ管理スル牛乳頭數

第四條 左ニ該當スル牛乳ハ之ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

- イ、八十八「パーセント」以上ノ水分ヲ含有スルモノ
- ロ、牛乳純成分十二「パーセント」以下ナルモノ
- ハ、脂肪分三「パーセント」以下ナルモノ
- ニ、「クリーム」ノ一部若クハ全部ヲ脱離セルモノ
- ホ、比重一〇・二九以下ナルモノ

ハ、硼酸若クハ「サリシル」酸、「フオルムアルデヒド」其他ノ化學成分ヲ含有スルモノ
ト、病原的細菌ヲ含有セルモノ

チ、一立方「センチメーター」ニツキ五〇〇、〇〇〇以上ノ各種細菌ヲ含有スルモノ

リ、傳染病ニ罹レル牛乳ヨリ搾取シタルモノ又ハ病畜ヲ混シタル一群若クハ其係員カ傳染病ニ罹リ若クハ其糞アル一群ノ牛乳ヨリ搾取セルモノ

ヌ、分娩前後十五日以内ノ牛乳ヨリ搾取シタルモノ

ル、屑肉、排物、殘物、濕潤セル酒造精其他不適當ナル食料ヲ以テ飼養セル牛乳ヨリ搾取セルモノ
ヲ、現ニ發熱セルカ若クハ華氏五十五度以上發熱シ居タリシ牛乳ヨリ搾取セルモノ

ワ、本法ノ規定ニ違背スル状態ノ下ニアリ若クハアリタルモノ
前項第一號ヨリ第五號ニ至ルマテノ規定ハ本章第五條ニ規定スル「脱脂乳」トシテ販賣スル牛乳ニ之ヲ適用セス

第五條 「クリーム」ノ一部若クハ全部ヲ脱離シタル牛乳ハ脱脂牛乳トシテノ外之ヲ販賣ノ爲メニ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス脱脂牛乳ノ場合ニ於テ車ニヨリ之ヲ販賣スルトキハ其車ノ兩側ニ高サ一呎以上ノ文字ヲ以テ「脱脂乳」ト書シ若シ車ヨリ販賣スルニアラサルトキハ牛乳ヲ販賣スル各容器ニ於テ其高サノ十分ノ一以上ノ幅ヲ以テ赤色ノ帶ヲ畫キ若クハ鮮明且讀易

キ形ニ「脱脂乳」ノ文字ヲ書スルコトヲ要ス

第六條 牛乳純成分ノ九、十分ノ三、パーセント以下ナル脱脂乳ハ之ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第七條 地下室、穴蔵、冷蔵庫、乳舎、搾乳場其他ノ場所ニシテ其ノ床面積四平方呎ニツキ一平方呎ノ窓戸アルニアラサレハ牛乳ヲ積載貯藏スルコトヲ得ス

前項ノ場所ハ床ヲ混凝土製トシ適宜ノ排水ヲ設備シ且全牛乳ヲ貯藏スルニ足ルハキ廣サノ排吸水性ノ桶ヲ具フルコトヲ要ス且窓戸ハ五月一日ヨリ九月三十日迄蠅其他ノ昆蟲ヲ防クハキ網目ノ堅固ナル簾網ヲ施スコトヲ要ス

第八條 大小便所、下水溜又ハ牛馬小屋若クハ鶏其他家禽小屋若クハ時ヨリ十五呎以内ノ距離ニアル地下室、穴蔵、冷蔵庫、乳舎、搾乳場其他ノ場所ニ牛乳ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第九條 牛乳ノ販賣及配達上配達手車若クハ其他運搬車ヲ用フルモノハ常ニ之ヲ清潔ニ保持シ牛乳ノ汚淨ヲ汚穢シ若クハ減損スルカ如キ物質ヲ近ツクルコトヲ得ス

第十條 牛乳ノ販賣若クハ配達上配達手車若クハ其他運搬車ヲ用フルモノハ之ニ其所有ノ名、車ノ免許番號ヲ該車ノ一方ニ於テ二吋以上ノ高サノ文字ヲ以テ之ヲ記載シ置クハキコトヲ要ス

第十一條 牛乳ノ販賣若クハ配達上配達手車若クハ其他ノ運搬車ヲ用フルモノハ五月一日ヨリ九月三

十日迄ノ間該車ニ帆布綿其他ノ材料ニヨリ太陽ノ光線及熱ヲ防クニ充分ナル覆ヲ施スコトヲ要ス

第十二條 乳舎、搾乳場其他牛乳ヲ貯藏及販賣スル一定ノ場所以外ニ於テ配達手車若クハ運搬車又ハ其他ノ場所ニ牛乳ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十三條 一「ガロン」以下ノ分量ノ牛乳、酪漿、乳漿、酸乳、脱脂乳若クハ「クリーム」ヲ適當ナル栓若クハ閉塞器ヲ以テ封シタル消毒瓶ニヨラスシテ供給、販賣若クハ販賣ノ爲メニ提供シ又ハ配達スルコトヲ得ス但シ牛乳ヲ其汲別クル乳舎若クハ搾乳場ニ於テ販賣スルトキハ此限ニアラス（汲別ケタル牛乳ハ覆ヲ施シタル容器ヲ以テスルニアラサレハ市内ニ運搬スルコトヲ得ス）此場合ニ於テ乳舎、搾乳場其他牛乳ヲ取扱若クハ貯藏スハキ場所ハ大小便所、下水溜、牛馬小屋、鶏其他家禽小屋若クハ時ヨリ十五呎以内ニ存置スルコトヲ得ス且乳舎、搾乳場其他ノ場所ハ牛乳ヲ取扱ヒ若クハ貯藏スルコト以外ノ目的ニ使用スル室タルコトヲ得ス

第十四條 販賣スハキ牛乳ヲ路地、道路ニ於テ又ハ配達車若クハ其他運搬車上ニ於テ又ハ「グリヅラ」トシ市内ノ屋外ニ於テ一個ノ壺、瓶其他容器ヨリ他ノ壺、瓶其他容器ニ移換フルコトヲ得ス但シ乳脂製造所、牛乳貯藏場又ハ牛乳販賣者ノ顧客邸ノ屋内ニ於テハ此限ニアラス

第十五條 傳染病發生シタルトキハ其住居ヨリ牛乳人若クハ貯藏ノ爲メニ使用セラレ若クハ現ニ使用セラレル瓶其他ノ容器ヲ衛生事務所ノ許可ナクシテ搬出スルコトヲ得サルモノトス

第十六條 牛乳切符ハ一回以上之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 衛生事務所ノ許可ナクシテ乳牛ヲ飼養スルコトヲ得ス

第十八條 一「ガロン」以上ノ分量ノ牛乳、酪漿、乳漿、酸乳、脫脂乳「クリーム」和蘭乾酪其他牛乳ニヨル製品ヲ瓶若クハ其他容器ニ堅固ナル鍵、鎖、條線其他ノ仕組ニヨリ確實ニ封スルコトナクシテ之ヲ販賣シ販賣ノ爲メニ提供シ若クハ配達スルコトヲ得ス但シ専ラ是等製品ヲ瓶詰牛乳ヲ運ハサル手車ニテ卸賣若クハ配達ニ從事スル者ハ封セサル瓶若クハ其他容器ヨリ之ヲ配達スルコトヲ得且該車ニハ高さ三吋以上ノ鮮明ナル文字ヲ以テ「卸賣」ナル文字ヲ明瞭ニ書スルコトヲ要ス

第四章 搾乳検査官ニヨル牛乳検査規則

第一條 「クリンランド」ニ於テ販賣ノ爲メ運搬スルキ牛乳ヲ搾取スルトキニ左ノ規定ニヨリ検査並計量ヲ受クルコトヲ要ス

イ、乳 牛

身體及健康—滿十點

(乳牛カ肉付不良ナルトキハ二點ヲ引キ結核病ニアラサルトキハ八點トス)

清淨狀態—滿五點

(清淨五點、佳四點、良三點、並二點、劣一點、惡零點)

ロ、牛 舍

床ノ構造—滿五點

(床カ混凝土若クハ石舖ニシテ修理好良ナルモノハ五點、煉瓦若クハ箱差板ニテ造リ修理好良ナルモノハ四點、普通板張ニシテ修理好良ナルモノハ三點、半部板張ニテ半部混凝土ナルモノハ三點、半部ハ板張混凝土其他ノ材料ヲ用ヒ半部土間ナルモノハ二點、材料ノ如何ヲ問ハス修理不良ナルモノハ一點、床ナキモノハ零點)

清 潔—滿五點

(牛舍ニシテ窓壁及天井等凡テ全部清潔ナルモノハ五點、汚點、蛛網等アル毎ニ相應シテ割引ス) 明 取—滿五點

(一頭ニツキ四平方呎ナルトキハ五點、三平方呎ナルトキハ四點、二平方呎ナルトキハ三點、一平方呎ナルトキハ二點、六平方呎ナルトキハ一點、六平方呎以下ナルトキハ零點)

換 氣—滿四點

(好良ナルモノハ四點トシ其不充分ヲ増ス毎ニ相應シテ割引ス、窓全部ヲ閉塞シ且換氣装置ナキモノ零點)

乳牛ニ對スル空間ノ割合—滿三點

(一頭ニ對スル空間ノ割合五百立方呎ナルトキハ三點、四百立方呎以上ハ二點、三百立方呎ハ一點、三百立方呎以下ハ零點)

糞尿ノ搬出—滿五點

(毎日肥料ヲ田圃ニ搬出スルモノハ二點、牛舎ヨリ三十呎ノ所迄搬出スルモノハ一點、其他ハ零點)

牛舎附屬繫留場

(好良ノ状態ニアリテ排水可ナルモノハ一點其ノ他ハ零點)

ハ、水ノ供給

乳牛ニ對シテ—滿五點

(清流ヲ供給スルモノハ五點、風車井戸其他ニヨリ流水ヲ供給スルモノハ四點、通常清水ヲ供給スルモノハ三點、池水若クハ其他濁水ヲ供給スルモノハ零點)

乳舎ニ對シテ—滿五點

(純良清淨ノ流水ヲ供給スルモノハ五點、純良井水ヲ供給スルモノハ三點其他ハ零點)

ニ、乳 舎

構 造—滿五點

(床ハ混凝土若クハ密着セル構造ニテ排水好良壁及天井堅牢ニシテ屋内光線及換氣裝置善ク且戸口ヨリ他ノ建物ニ接着セサルモノハ五點、納屋若クハ家屋内ノ一室ナルトキハ二點ヲ差引キ尙構造、光線及換氣ノ缺點アル毎ニ之ニ準シテ割引ス、全然乳舎ナキトキハ零點)

設 備—滿五點

(洗滌器ニ温湯ヲ準備セルトキハ一點、専用手桶アルトキハ一點、専用濾器アルトキハ一點、計量器アルトキハ一點、曹達其他器具洗滌用粉アルトキハ一點、以上ノ一ヲ缺クトキハ各一點ヲ割引ス)

内部ノ清潔—滿五點

(窓其他内部カ完全ニ清潔ナルトキハ五點、好良ナルトキハ四點、並三點、可二點、拙一點、惡零點)

器具ノ注意及清潔—滿五點

(器全部完全ニ清潔ニシテ適當ノ棚ニ整理セルモノハ五點、棚ナキトキハ二點ヲ割引ス、不潔ナル器具若クハ不注意ナル洗滌ヲナセルトキハ之ニ準シテ點數ヲ割引ス此場合ニ於テハ乳舎ノ光線及換氣並他ノ建物ニ對スル位置ヲモ考察ス)

ホ、搾乳者及搾乳

從業者ノ健康—滿五點

(從業者ノ健康狀態壯健ナルトキハ五點、從業者疾病ナルカ又ハ家族ニ傳染病發生スルトキハ零點)

搾乳ノ清潔—滿十點

(特ニ調製シタル搾乳衣ヲ着ケ清淨ニシテ乾燥セル手ヲ以テ且乳房及乳頭ヲ搾乳前清淨ナラシムルコトニ留意スルトキハ十點、搾乳衣ノ外他ノ條件ヲ備フルトキハ七點、乳房又ハ乳頭不潔ナルトキハ四點ヲ差引キ、手ノ不潔ナルトキハ三點ヲ差引ク、手ヲ浸シツ、搾乳スルトキハ零點)

一、牛乳ノ取扱

迅速冷却—滿五點

(搾乳後直ニ之ヲ桶ヨリ冷器ニ移ストキハ五點、桶ヨリ瓶ニ移シ直ニ之ヲ冷水ニ入ルルトキハ二點、其他零點)

有效ナル冷却—滿五點

(牛乳搬出前六十度トナルトキハ五點、六十五度トナルトキハ三點、七十度トナルトキハ一點、七十五度以上ノトキハ零點)

第二條 凡テ搾乳場ニツキテハ検査官ニ於テ左ノ書式ニ依リ「カード」ニ記入スハキモノトス

書式

商社ノ所有者若クハ代理人ノ姓名、……州……町……
乳牛ノ頭數……、毎日ノ搾乳量……
販賣若クハ小賣ノ別……
取次人ニ對シ運送スルトキハ其姓名、住所……
許可番號……検査日附……

乳牛

滿點

狀態(ニ)

健康(ハ)

十點

清潔

五點

牛舎

床ノ構造

五點

清潔

五點

明取

五點

換氣

四點

空間割合	三點
肥料ノ搬出(ニ)	三點
清潔、排水及緊留場	三點
水ノ供給	五點
乳牛ニ對スル	五點
乳舎ニ對スル	五點
乳舎	五點
構造	五點
設備	五點
清潔	五點
器具ノ注意及清淨	五點
場家ノ位置、光線、換氣	五點
搾乳業者及搾乳	五點
從業者ノ健康	五點
搾乳ノ清潔	十點
牛乳ノ取扱	五點
迅速冷却	五點

有効冷却	五點
低溫度貯藏	五點
合計	百點

衛生状態ハ特別ニ優良ナルコト

検査官ノ提言

搾乳セル牛乳若クハ「クリーム」カ右標準ニヨリ四十五點以下ナルトキハ一九〇八年中「クリブランド」ニ於テ販賣スルコトヲ得ス五十點以下ナルトキハ一九〇九年中「クリブランド」ニ於テ販賣スルコトヲ得ス

第五章 野菜、果實、麪包、菓子、砂糖漬其他

第一條 腐敗若クハ損傷アル野菜若クハ果實ヲ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第二條 左ニ該當スル麵包、菓子、饅頭菓子、砂糖漬、砂糖漬其他ノ食品ヲ製造又ハ販賣ノ爲メ市内ニ運ヒ又ハ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

イ、其品質、効力、純粹又ハ滋養ノ度ヲ低減若クハ減損セシムヘキ物質ヲ含メルモノ

ロ、其標榜セラルル所ヨリモ廉價若クハ劣等ナル物質ヲ含メルモノ

ハ、他ノ物品ヲ模造シ又ハ他物ノ名ヲ以テ販賣スルモノ

ニ、重要若クハ必要ナル成分ヲ缺キ又ハ除キタルモノ

ホ、彩色、外塗、研磨、粉塗其他實價以上ニ裝フハキ方法ヲ用ヒタルモノ

第三條 屋外、窓、戸口、歩道、街路、路地若クハ大道ニ於テハ塵埃ヲ避クハキ被覆ヲナスニアラサレハ麩包類、菓子、饅頭菓子、砂糖菓子、砂糖漬若クハ乾果ヲ展列シ販賣若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第四條 陶器壺若クハ非吸收性ノ材料ニテ製セル容器ヲ以テスルニアラサレハ五「ガロン」以下ノ分量ノ牡蠣ヲ販賣シ販賣ノ爲メ提供シ若クハ配達スルコトヲ得ス

第五條 完全ニ塵埃ヲ避クハキ被覆ヲ施スニアラサレハ牛酪若クハ乾酪ヲ販賣シ若クハ販賣ノ爲メ提供スルコトヲ得ス

第六章 菓子焼所及菓子製造所

第一條 販賣ノ爲メ又ハ料理屋、麵包屋若クハ旅館用トシテ麵包、「ビスケット」、「クラッカー」、「卷麵包」、菓子、「マカロン」、「パイ」其他麥粉及豆粉ヲ主成分トスル食料品ヲ製造シ混和シ、調合シ、又焼クニ使用スル場所ヲ菓子焼所ト稱ス砂糖菓子ヲ調理若クハ製造スル場所、室若クハ建物ニツキテモ前項ノ菓子焼所ニ關スルト同一ノ規定ヲ適用ス

第二條 菓子焼所トシテ使用セララル、場所ハ完全ニ掃除セラレ得ヘキ接着セル排水性ノ材料ヲ以テ床

ヲ張ルコトヲ要ス

第三條 菓子焼人、若クハ其他菓子焼所ヲ管理スル者ハ床、周壁、天井、木造部備付品、器具、機械及ヒ用器ヲ完全ニ清潔ニ且衛生的状態ニ保持スルコトヲ要ス

各菓子焼所ハ常ニ自由ニ空氣ノ轉換ヲ招致スヘキ充分ナル換氣裝置アルコトヲ要ス

第四條 菓子焼所ノ窓戸ハ五月一日ヨリ九月三十日迄蠅及其他昆蟲ヲ防クニ充分ナル簾網ヲ設備スルコトヲ要ス

第五條 菓子焼場ノ周壁及ヒ天井ハ金屬、木材若クハ瓦ヲ以テ塗込ミ若クハ覆フコトヲ要ス塗込ミタル壁及天井ハ石灰ニテ洗滌シ若クハ油繪ヲ畫クモノトス且木造部ハ好良ニ油ヲ塗り畫キ又清潔ニ洗滌スルモノトス

第六條 菓子焼所ニハ適當ナル手洗場及便所等其他充分ノ水管ノ設備アルコトヲ要ス

便所ハ菓子焼所ヨリ出入シ若クハ直通スルコトヲ得ス手洗場ニハ常ニ清潔ナル手拭ヲ用意シ置クコトヲ要ス

第七條 菓子焼所ニ宿泊スルコトヲ得ス菓子焼所ニ使備セララル者ノ寢室ハ麥粉、豆粉其他食料品ヲ取扱ヒ若クハ貯藏スル場所ヨリ隔離シテ存置スルコトヲ要ス

第八條 菓子焼所又ハ之ト連續スル麥粉若クハ豆粉貯藏場ニ家畜ヲ置クコトヲ得ス

第九條 菓子焼所持主若クハ之ヲ管理スルモノハ自己及其使備人ヲ其製造、取扱、若クハ販賣ニ従事スル間清潔ノ状態ヲ保持シ適當ナル仕事服ヲ着用セシムルコトヲ要ス且菓子焼所及麥粉及豆粉ヲ貯藏スル場所ヨリ離レテ仕度室ヲ設クルコトヲ要ス

第十條 菓子焼所ノ管理者ハ排水性ノ咳痰容器ヲ備付ケ二十四時間ニ一度以上掃除スハキモノトシ從業者及其他ノ者ハ床上、周壁其他菓子焼所ノ何レノ場所ニモ唾スルコトヲ得ス

第十一條 喫煙、吸煙草若クハ嚼煙草ハ菓子焼所ニ於テ之ヲ禁止ス

各菓子焼所ニ於テハ喫煙スルコト床若クハ壁ニ唾スルコトヲ禁スル旨ノ告示ヲ貼付スルコトヲ要ス

第十二條 肺結核、花柳病其他傳染病者ハ菓子焼所ニ就業スルコトヲ得ス菓子焼所ヲ管理スル者ハ前項ニ掲クル人々ノ使備ヲ要求シ認セサルモノトス

第十三條 菓子焼所ニシテ清潔ナル状態ニ保持セラレズ鼠及害蟲並ニ傳染性ノ疾患ヲ驅除シ得ザルトキハ公衆危害ト宣言シ衛生事務長ハ之ヲ廢止セシムルノ義務アルモノトス

三、市俄古市牛乳取扱及販賣ニ關スル條例

甲、乳 舍

免許狀

第一條 免許狀ノ申請 乳舍免許狀ハ文書ヲ以テ之ヲ衛生主事ニ申請スハキモノトス

前項ノ申請書ニハ申請カ一人ナルトキハ其姓名住所、會社ナルトキハ其重役ノ姓名住所並ニ免許ヲ得ントスル場所ノ位置ヲ記載スルモノトス且牛乳ハ店賣スルカ若クハ配達車ヲ用フルカ牛乳及乳脂ニ全然瓶詰ニテ販賣スルカ又ハ其儘並瓶詰ノ兩種販賣スルカ及ヒ乳牛ヲ飼養スルトキハ其頭數ヲ記載スルコトヲ要ス

第二條 前記録ノ検査及探究 前條ノ申請アリタルトキ牛乳係ノ記録ニ於テ其營業セララル、乳舍若クハ其一部カ非衛生的ノ状態ニアルコト明カナルトキハ衛生主事ハ一九〇八年五月一日以後ニ於テ之ニ免許ヲ與フルコトナキモノトス

若シ申請書ニ關スル記録カ役所ニ存セサルカ若クハ新ニ營業ヲ開始スルモノナルトキハ其場所ノ衛生状態ヲ決定スル爲メ該申請ノ日ヨリ五日以内ニ同所ニツキ検査ヲ行フハキモノトス
申請者カ其非衛生的ノ状態ノ爲メ若クハ屢々牛乳及乳脂ノ劣等品ヲ販賣スル爲メ免許ヲ拒否セラレタルトキハ衛生主事ニ對シ辯解ノ爲メ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ主事ハ將來衛生局ノ規則ヲ遵守スハキコト認容スルトキハ該免許狀ニ對スル申請ヲ認可スルコトヲ得

第三條 免許狀ノ取消 免許狀下附後其者カ衛生局ノ衛生規則ヲ遵守セヌ又ハ屢々衛生局ノ條例規則ニ定メタル品質以下ノモノヲ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルトキハ食料品検査官長ハ衛生

主事ニ對シ豫告ヲ以テ又ハ豫告ナクシテ其免許狀ヲ取消スヘキコトヲ稟申スルモノトス
 前項ノ場合ニ於テ衛生主事ハ必要ト認ムルトキハ違犯者ニ辯解ノ機會ヲ與フルコトヲ得
 第四條 取消シタル免許狀ノ再下附 衛生局ノ規則ヲ遵守スルニ至リシトキハ衛生主事ハ免許狀ノ再下附ヲ認容スルコトヲ得

第五條 免許狀揭示 牛乳販賣者ハ當該場屋内見易キ場所ニ其免許狀ヲ貼付シ置クコトヲ要ス
 乳 舍

第六條 定義 乳舍ト稱スルハ牛乳ヲ搾乳所ヨリ受入ルハキ場所家屋若クハ室又ハ瓶、壺其他配達ノ準備ヲナス卸賣取引所ヲ謂フ

乳舍ハ他ノ目的ノ爲メニ之ヲ使用シ又ハ他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 位置 乳舍ハ居室、厨、便所、洗濯所、畜舎其他動物ヲ飼養若クハ屠殺スル場所ニ直通スル室ニ之ヲ設ケ若クハ繼續スルコトヲ得ス

乳舍ハ牛馬小屋ニ連續スル場所ニ於テ設クルコトヲ得ス必ス空間又ハ臭氣ヲ防止スヘキ隔壁アルコトヲ要ス

一九〇八年五月一日以後牛乳販賣所ハ牛馬ヲ飼養セルト同一ノ建物内ニ設クルコトヲ得ス

乳舍ノ周圍殊ニ窓戸ヨリ十呎以内ノ場所ニ於テハ廢物、屑物、糞尿其他腐爛、腐朽、傳染及臭氣ヲ發ス

ハキ物質ヲ存セシムルコトヲ得ス

第八條 構造 床ハ平滑ニシテ裂罅及瑕玼無ク且漏水セサルコトヲ要ス若シ街路面以下ニアルトキハ「セメント」「アスファルト」若クハ「セメント」ニテ嵌込ミタル床石等排水性材料ヲ以テ構造スルコトヲ要ス且排水装置ヲ施シ排水管ニハ防臭瓣ヲ附シ換氣スルコトヲ要ス

壁及天井ハ平滑密合シテ不必要ナル形様凹凸等ナク適當ニ彩色シ若クハ白灰塗ナルコトヲ要ス

窓 床面積ノ十五「パーセント」ニ相當スヘキ玻璃面アルコトヲ要ス且自由ニ光線ヲ導キ遮蔽物ナキ位置ニ設クルコトヲ要ス

簾網 五月一日ヨリ十一月一日迄凡テ窓ニハ蠅及塵避ノ簾網ヲ施シ凡テ戸口ニハ自動閉鎖簾網ヲ施スコトヲ要ス

換氣 凡テ乳舍ハ窓、風窓、氣筒其他必要ニ應シテ機械的裝置ニヨリ常ニ新鮮ナル空氣ヲ轉換セシムル機設備スルコトヲ要ス

第九條 洗濯室 牛乳ノ瓶詰其他ノ準備ヲナス場合ニハ壺、瓶及其他器具ヲ受入レ藏置シ且掃除スル爲メニ洗濯室ト稱スル一室ヲ設クルモノトス

洗濯室ハ牛乳ヲ貯藏シ瓶詰スヘキ牛乳室ト稱スル乳舍内ノ他室ト完全ナル隔壁及戸口ヲ以テ隔離セラルルコトヲ要ス

洗滌室ハ不潔ナル器具ヲ牛乳ヲ取扱フハキ室ヲ通リテ持運ヒ又ハ該室内ニテ受取ルコトヲ要セシメサル位置ニ設クルコトヲ要ス

洗滌室ノ床ハ其排水カ牛乳室ニ流入セサル様設備スルコトヲ要ス
汚穢セル瓶及其他器具ハ牛乳室ニ持込ミ若クハ藏置スルコトヲ得ス

第十條 設備 桶ハ完全ニ排水性ノ材料ヲ以テ構造シ且内面平滑ナルコトヲ要ス且塵埃ヲ防クハキ覆ヲ施シ間接ニ下水溝ニ排水スヘキ設備アルコトヲ要ス桶ニ藏スル水ハ新鮮ニシテ且沈澱物及臭氣ナキコトヲ要ス桶ハ常ニ清潔ニ保持シ塵埃、粘土沈澱物又ハ牛乳精ノ附着セサルコトヲ要ス
水ノ温度ハ華氏五十度以上タルコトヲ得ス

冷蔵庫及水箱 牛乳ヲ貯藏スヘキ冷蔵庫及水箱ノ隔壁ノ内面ハ平滑ナルコトヲ要シ成ルハク金屬若クハ陶器製ナルコトヲ要ス底面ハ間接ニ排水溝ニ通シ牛乳仕切ハ清潔ニシテ且臭氣ナク尚牛乳、乳脂及牛酪ノ外水箱中ニ藏置セサルコトヲ要ス

瓶詰器 瓶詰器ハ容易ニ取外シ且掃除シ得ヘキ構造ナルコトヲ要シ殊ニ發條及圓錐叩子ニツキ然ルコトヲ要ス

且毎日完全ニ掃除シ使用中ニアラサルトキハ清潔ナル布ヲ以テ覆フコトヲ要ス
干棚 干棚ハ瓶ヲ倒ニ展列シテ適當ニ排水乾燥セシムル様構造スルコトヲ要ス瓶ヲ排水乾燥セシム

ル爲メ瓶箱中ニ倒置スルコトヲ得ス

殺菌器及分離器 殺菌器及分離器ハ管其他全部容易ニ掃除シ且消毒スルコトヲ得ル様構造スルコトヲ要ス且常ニ内外部ヲ最モ清潔ニ保持スルコトヲ要ス

第十一條 器具 凡テ運搬器、瓶、柄杓、網杓子、計量器、濾器、攪拌器、其他ノ器具ハ牛乳カ固着若クハ浸潤シテ單筒ナル洗滌ヲ以テハ除去スルコトヲ得サルカ如キコトナキ様間隙ナク構造スルコトヲ要ス且牛乳及乳脂ニ觸ルヘキ面ハ平滑ニシテ錆蝕ナキコトヲ要ス

各器具ハ常ニ其内外部ヲ最モ清潔ニ保持スルコトヲ要ス凡テ器具ハ修理ヲ好良ニシテ且粗面ナカラシムルコトヲ要ス且使用中ニアラサルトキハ乾燥倒置シ且成ルヘク特ニ設ケタル棚若クハ鈎ニ存置スルコトヲ要ス

瓶用ノ栓ハ清潔、乾燥及被覆ヲ施スコトヲ要シ塵埃ヲ防クコトヲ要ス

第十二條 保存及注意 床ハ清潔ニシテ且腐キ置クコトヲ要ス
乾燥ノ儘掃除スルコトヲ得ス

壁、天井、棚、窓及其他ノ表面ハ清潔ニシテ且濕布ヲ以テ洗滌シ若クハ拭取リ塵埃ヲ防クコトヲ要ス
箱、古道具、豫備品、毛布、馬具、洋燈、繪具、油壺其他牛乳取扱業務上ニ使用セラレサル不用品ハ之ヲ乳舎ニ置クコトヲ得ス且犬、猫ヲ入レシムルコトヲ得ス

小兒ハ乳舎ニ集合遊戯スルコトヲ得ス

第十三條 従業者 乳舎ヲ管理スル者ハ自身及其使備人ヲシテ其牛乳ヲ瓶詰、注込、計量及抄上等ノナス間清潔ノ身仕度ヲナシ若クハナサシメ又ハ清潔ナル衣服ヲ着シ若クハ着セシムルコトヲ要ス
乳舎ニ於テハ喫煙、喫煙草、嚼煙草ヲナスコトヲ得ス且喫煙及床上ニ於テ略痰スルコトヲ禁スル旨明瞭ニ揭示シ置クコトヲ要ス

第十四條 傳染病 肺結核、花柳病若クハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ハ乳舎ニ於テ勞働シ若クハ牛乳ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ス

蜜扶斯、猖紅熱、實扶的里亞、痘瘡、麻疹、若クハ鶏痘カ牛乳取扱人ノ家若クハ家族中ニ發生シタルトキハ該取扱人ハ直ニ其旨食料品検査所ニ申告スルノ義務アルモノトス該検査所ハ此場合ニ於テ傳染病事務局ト協同シテ該疾病ノ蔓延ヲ防止スル爲メ必要ノ規定ヲ施行スルモノトス
前項ノ疾病ニ罹リタル者若クハ其平癒ニ近キタル者ハ牛乳若クハ乳脂ノ取扱ニ從事シ又ハ乳舎ニ出入スルコトヲ得ス牛乳ノ取扱ヲナセル者ノ家若クハ家族内ニ蜜扶斯、猖紅熱、實扶的里亞若クハ痘瘡發生シタルトキハ其者ハ直ニ乳舎及運搬車ニ關スル業務ヲ停止スルコトヲ要ス
蜜扶斯、猖紅熱、實扶的里亞若クハ痘瘡ニ罹リタル者若クハ其平癒ニ近キタル者又ハ該疾病ノ發生シタル家若クハ室ニ住居シタル者カ就業シタル乳舎及運搬車ハ其中ニ存スル牛乳及乳脂ト共ニ病毒

ニ感染シタルモノト看做ス但シ其既ニ適當ニ密封セラレタル瓶ニシテ其密封後一回モ開キテコトナキモノハ此限リニアラス

傳染病ニ罹リテ平癒ニ近キタル者又ハ傳染病發生ノ家若クハ邸宅内ニ住居セル者ハ傳染病事務局カ相當ノ交通遮斷ヲ施行シ且必要ノ消毒ヲ行ハル迄ハ牛乳ノ取扱ヲ再始スルコトヲ得ス

交通遮斷ノ家若クハ場所ニ住居スル者ハ乳舎ニ出入スルコトヲ得ス

第十五條 取扱 凡テ牛乳ハ華氏五十度以上ノ溫度ニ於テ貯藏スルコトヲ得ス

牛乳ノ壺若クハ瓶ハ不淨水若クハ不衛生の水水ニ浸スコトヲ得ス

不淨水特ニ冷蔵専用ニ販賣セラル、水ハ牛乳及牛乳容器ニ觸レシメ又ハ牛乳桶ノ水中ニ使用スルコトヲ得ス

酸敗セル牛乳ハ之ヲ牛乳元桶中ニ入レ置クコトヲ得ス

牛乳、乳脂若クハ牛酪ノ外牛乳桶水函及冷蔵庫内ニ入ル、コトヲ得ス

返戻シ來リタル空瓶及其他ノ器具ハ之ヲ牛乳室ニ運ヒ込ム前ニ完全ニ掃除シ且消毒スルコトヲ要ス

市内搾乳

左ノ規定ニ準據スルニアラサレハ市内ニ於テ搾乳ノ爲メ牛乳ヲ飼養スルコトヲ得ス

第三十六條 乳牛飼養許可 乳牛ヲ飼養セントスルトキハ之ヲ飼養スヘキ牛舎及ヒ之ニ密接關係アル

事項ニツキ衛生局ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

許可ノ申請ニハ左ノ事項ヲ明示スヘキモノトス

イ、乳牛頭數

ロ、空間ノ立方積

ハ、糞尿取片附ノ便宜

ニ、換 氣

ホ、住宅ヨリノ距離

ハ、蠅驅逐ノ便宜

第三十七條 位置 牛舎ハ其住宅トノ距離最近キ所ニ於テ直線ニテ三十呎以内タルコトヲ得ス

第三十八條 構造 牛舎カ充分ナル換氣裝置アリ一頭ニツキ一時間三千立方呎ノ新鮮ナル空氣ヲ供給シ又舎内清潔ニシテ且常ニ清潔ニ保持スルコトヲ得ルニアラサレハ許可ヲ與ハサルモノトス

糞尿ハ他ノ妨害トナラサル様之カ處置ニ注意スルコトヲ要ス

牛舎ハ蠅カ牛及糞尿ニ集來セサル様構造スルコトヲ要ス

第三十九條 許可ノ取消 構内清潔ナラス糞尿堆積シ蠅群集シテ該場所カ他ノ妨害タルニ至リタルトキハ許可ヲ取消スモノトス

第四十條 乳牛ノ非結核性要件 乳牛ハ一年一回ツベルクリンヲ以テ檢診スルコトヲ要ス其結果ハ常

ニ衛生局ノ檢査ニ對シ明示スルコトヲ要ス

結核病ニ罹リ若クハ明白ニ其徵候アル乳牛ハ該牛舎ニ置クコトヲ得ス但シ特ニ許可セラレタルモノハ此限ニアラス

前項ノ乳牛ヨリ搾取シタル牛乳ハ一時ノ四分ノ一以内ノ深サニ於テ三十秒以上華氏百七十五度以上ノ熱ヲ以テ消毒スルニアラサレハ人ノ飲料ニ供スルコトヲ得ス

第四十一條 牛乳貯藏及注意 市内ニ於ケル乳牛ヨリ搾取シタル牛乳ハ乳牛若クハ其他動物ト同一室又ハ空間相通スヘキ室ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第四十二條 純成分ノ標準 牛乳ハ市外ニ於テ搾取セル牛乳ニ關スル諸規定ト全然一致スルモノナルコトヲ要ス

第四十三條 保持 牛舎ハ毎日掃除スヘキモノトス糞尿ハ五月一日ヨリ十月一日迄ハ毎日其他ハ一週間一度之ヲ撤去スルコトヲ要ス但シ牛舎カ住宅ヨリ二百呎以内ノ距離ニアル場合ニ限ル

牛舎カ最近ノ住宅迄ノ距離二百呎以上ナルトキモ一週間一回ヨリ少ク之ヲ撤去スルコトヲ得ス

第四十四條 乳牛ノ繫留 乳牛ハ住宅、教會、學校、倉庫若クハ會堂等ヨリ三十呎以内ノ繫留場、街路若クハ共有地ニ繫留スルコトヲ得ス持主カ乳牛ヲ街路若クハ共有地ニ繫留スルトキハ該繫留地ハ他ノ

妨害トナラサルハキ地點ノルコトヲ要ス

第四十五條 妨害繼續ノ禁止 本章ノ規定ハ凡テ妨害ノ繼續ヲ許セルモノト解釋スルコトヲ得ス

第四十七條 牛乳ノ衛生的標準 販賣シ若クハ販賣ノ爲メ提供スル又ハ其目的ヲ以テ貯藏シ若クハ市

ニ運送スル牛乳ハ塵埃、沈澱物、其他混物セサルコトヲ要ス

克ク攪拌シタル牛乳ヲ濾過スル場合ニ四吋平方ノ白麻布ニ於テ肉眼ニテ認め得ヘキ沈澱物ノ存セツルコトヲ要ス

牛乳カ市ニ到着シタル場合ニ於テ一立方「センチメートル」中ニ五月一日ヨリ九月三十日迄ハ百萬「バクテリア」十一月一日ヨリ四月三十日迄ニ五十萬「バクテリア」以上ヲ包含セサルコトヲ要ス

消費者ニ配達スル牛乳ニハ「バクテリア」數ノ過多ナルモノナルコトヲ得ス三百萬「バクテリア」以上ヲ包含スル牛乳ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス此種ノ牛乳ヲ取引シ又ハ販賣スル者ハ連日ニ且リ細菌學者ノ三回ノ試験ニヨリ三百萬以上ノ「バクテリア」ヲ包含スルコト明カナルトキハ牛乳ノ搾取及取引ニ關シ適當ノ改良ヲ加フルマテハ該牛乳ヲ販賣スルコトヲ得ス結核、窒扶斯、實扶的里亞、其他傳染性「バクテリア」ヲ包含スル牛乳ヲ販賣スルコトヲ得ス

腐敗及瓦斯ヲ發生スヘキ微生物ヲ過多ニ包含スル牛乳ヲ販賣スルコトヲ得ス

牛乳配達及運搬車

第二十三條 密封容器及被覆運搬車ニヨル運搬 牛乳ハ開放又ハ封不充分ナル瓶其他容器ニヨリ運搬

スルコトヲ得ス充分ナル覆ヲ以テ塵埃及光線ヨリ避ケシムルコトヲ要ス、覆ハ清潔ニシテ臭氣ナク且塵埃附着セサルモノナルコトヲ要ス

消費者ニ對スル牛乳配達車ハ洗濯シ得ヘキ且常ニ清潔ナル覆ヲ施スコトヲ要ス車ノ内部ハ清潔ニシ牛乳槽若クハ臭氣ナキコトヲ要ス

禦者席ハ牛乳及乳脂ヲ容ルヘキ部分ト隔離スルコトヲ要ス牛乳及乳脂ヲ容ルヘキ部分ハ常ニ密閉シ其取出ス爲メ必要ナル場合ノ外之ヲ開クコトヲ得ス

第二十四條 街路ニ於テ牛乳ヲ準備又ハ瓶詰スルコトノ禁止

牛乳及乳脂ハ街路若クハ車上ニ於テ之ヲ準備又ハ瓶詰スルコトヲ得ス牛乳及乳脂ヲ特ニ製造シタル瓶ニ移シ入ルヘキトキハ乳舎ニ於テ之ヲナスモノトス街路ニ於テ之ヲナスコトヲ得ス

牛乳ヲ量賣スヘキトキハ出口若クハ香口ヲ使用シテ覆ヲ施シタル注入瓶ニヨリ運搬スルコトヲ得ス牛乳ハ貯藏處ヨリ消費者ニ吸ミ分クルコトヲ得ス

第二十五條 牛乳溫度 牛車ニヨリ消費者ニ配達スヘキ牛乳ハ華氏七十度以上ノ溫度タルコトヲ得ス

第二十六條 器具 器具ニ關シテハ乳舎ニ關スル規定ヲ準用ス(第十條)

第二十七條 從業者及傳染病 從業者及傳染病ニ關シテハ乳舎ニ關スル規定ヲ準用ス(第十三條及第

乙、牛乳店

免許狀

- 第一條 免許狀申請書 如前掲
- 第二條 豫備條件ノ檢閲及試験 如前掲
- 第三條 免許狀ノ取消 如前掲
- 第四條 取消シタル免許狀ノ再發行 如前掲
- 第五條 免許狀ノ公示 如前掲

店 舖

- 第二十八條 定義 本章ニ於テ店舖ト稱スルハ牛乳ヲ他ノ食品品乃チ乾物、肉、麵粉類、珍味品及砂糖漬等ト共ニ販賣スル場所及室ヲ謂フ
- 第二十九條 場所 店舖ハ居室、厨、洗濯所、便所、寢室及其他牛馬、鶏其他ノ動物ヲ飼養又ハ屠殺スヘキ室ト完全ナル戸又ハ仕切ヲ以テ隔離スルコトヲ要ス
- 第三十條 構造 牛乳販賣店舖ハ適宜ノ明取及換氣装置アルコトヲ要ス且五月一日ヨリ十一月一日迄ハ窓ニ蠅ヲ防クヘキ簾網ヲ施シ戸口ニハ自動閉鎖ノ簾網ヲ設備スルコトヲ要ス

第三十一條 装置 牛乳桶ハ乳舎ニ於ケルト同一ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス(第十條參照)牛乳桶ノ

蓋ハ蓋ソ上ケタルトキ塵埃ノ落下セサル様構造スルコトヲ要ス

水函及冷蔵庫 牛乳及乳脂ヲ貯藏スヘキ室ハ水及臭氣ヲ避クルコトヲ得ヘキ隔壁ヲ以テ他ノ室ヨリ隔離シ且非浸潤性ノ隔壁ヲ以テ水室ト隔離スルコトヲ要ス

前項ノ貯藏室ノ内部ハ平滑ナルコトヲ要シ且成ルヘク金屬又ハ陶器ヲ嵌込ムコトヲ要ス床ニツキテモ亦同シ且自由ニ排水スヘキ設備アルコトヲ要シ下水溝ト間接ニ接続スル水管ハ防臭瓣ヲ施シ且換氣スルコトヲ要ス

水函ハ常ニ清潔ナルコトヲ要シ且臭氣ナキコトヲ要ス

牛乳及乳脂ハ牛酪以外ノ食品品ト共ニ水函中ニ藏スルコトヲ得ス牛乳ハ乾酪製造ノ目的ニ使用スル水函中ニ藏スルコトヲ得ス水函中ニ藏スル牛乳及乳脂ハ販賣ニ供セラルモノト見做シ市條例ノ要求スル標準ニ合致スルモノタルコトヲ要ス

不潔ナル器、瓶、壺等ハ水函中ニ藏スルコトヲ得ス且水函ノ蓋及覆ハ塵埃ヲ避ケ且之ヲ開キタルトキ外部ノ塵埃カ牛乳ニ落下セサル様構造スルコトヲ要ス

第三十二條 器具 器具ハ牛舎ニ於ケルト同一ノ方法ニヨリ之ヲ保持スヘキモノトス(第十一條參照)

第三十三條 保持及注意 場内全部ヲ衛生的の状態ニ保持シ且不必要ナル物品、屑及廢物ヲ置カサルコトヲ要ス

空氣ハ純良ニシテ有害ナル臭氣ヲ留メサルコトヲ要ス

牛乳桶及氷函ノ附近五呎以内ノ距離ニ於テ酸酵若クハ腐爛スヘキ物品又ハ乾酪、漬物、砂糖、野菜、生魚、鹽魚、燻魚石鹼、香油等ノ臭氣アル物品ト共ニ貯藏スルコトヲ得ス石油及石油罐ハ牛乳箱ヨリ十五呎離レテ之ヲ置クハキモノトス

第三十四條 傳染病 乳舎ニ關スル規定ニ同シ(第十四條參照)

第三十五條 取扱 凡テ牛乳ハ華氏五十度以下ノ溫度ニ於テ貯藏スルコトヲ要ス

牛乳壺若クハ瓶ハ不淨水若クハ不淨水水若クハ非衛生的水水ニ全部浸スコトヲ得ス

酸敗セル牛乳ハ之ヲ牛乳元桶中ニ入レ置クコトヲ得ス

空壺及空瓶ハ之ヲ卸元ニ返却スル前之ヲ掃除洗滌スヘキモノトス

牛乳量賣ヲナス場合ニ於テハ其都度之ヲ攪拌シ無意識ニ上皮ヲ抄取リテ脫脂スルノ結果ヲ防クコトヲ要ス

第五十七條 牛乳ニ對スル衛生的標準 如前掲

店舖ニ於ケル量賣ノ禁止ニ關スル條例

(一九〇八年六月二十二日市參事會通過)

第一條 私人、組合若クハ會社ハ牛乳若クハ乳脂以外ノ商品ヲ販賣スル店舖其他ノ場所ニ於テ牛乳若クハ乳脂ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メ提供シ展列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス但シ牛乳若クハ乳脂ヲ市俄古衛生事務長ノ承認スル密閉シタル瓶若クハ其他同様ノ種類ノ容器ニ入レテ貯藏シ販賣ノ爲メニ提供シ展列シ又ハ販賣スルトキハ此限ニアラス

第二條 前條ノ規定ニ違背シタルトキハ各犯行ニ對シ五弗以上百弗ノ科料ニ處ス

第三條 本條例ハ通過後公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

丙、牛乳結核病檢診ニ關スル條例 (市俄古市參事會制定)

牛 乳

第一條 牛乳、乳脂、酪漿若クハ「アイスクリーム」ハ該牛乳、乳脂又ハ其酪漿及「アイスクリーム」ニ含有スル牛乳ヲ搾取セル乳牛カ一年內ニ於テ満足ナル「ツベルクリン」檢診ヲ施シタルモノニアラサレハ一九〇九年一月一日以後市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メ提供シ展列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス

適當ニ檢診セラレタル乳牛ニハ「ツベルクリン」檢診済トノ記號及番號ヲ附シ且豫メ衛生事務長ノ供給シタル用紙ニヨリ番號、乳牛ニ關スル摘要、該檢診ノ日時及其持主ヲ記載セル證明書ヲ市俄古市

衛生局牛乳検査部ニ提出スハキモノトス證明書ニハ検査者之ニ署名スルコトヲ要ス

一九〇九年一月一日以降五箇年間即チ一九一四年一月一日迄ハ「ツベルクリン」検査ヲ行ハス若クハ結核菌ノ虞ナキニアラサル乳牛ヨリ搾取シタル牛乳若クハ乳脂又ハ之ニヨリ製シタル酪漿及「アイスクリーム」ト雖トモ該牛乳若クハ乳脂ヲ市俄古市衛生局ノ規定スル所ニ從ヒ殺菌シタルトキハ市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第二條 市俄古市内ニ於テ販賣ノ爲メ提供シ展列シ若クハ貯藏スル牛乳、乳脂、酪漿若クハ「アイスクリーム」ニシテ第一條ノ規定ニ違背シタルコト市内ニ於テ發見セラレ、トキハ牛乳及食料品検査官又ハ其他相當ノ權限ヲ有スル市俄古市衛生局代表者若クハ局員ニ於テ之ヲ差押ハ沒收シ且之ヲ破棄スハキモノトス

第三條 本條例ハ一九〇九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

牛 酪

第一條 牛酪ハ之ヲ製シタル牛乳若クハ乳脂ヲ搾取シタル乳牛カ一年内ニ於テ満足ナル「ツベルクリン」検査ヲ施シタルモノニアラサレハ一九〇九年一月一日以後市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メ提供シ若クハ貯藏スルコトヲ得但シ一九〇九年一月一日以降五箇年間乃チ一九一四年一月一日マテハ「ツベルクリン」検査ヲ行ハス又ハ結核菌ノ虞ナキニアラサル乳牛ヨリ搾取シタル牛乳

ヲ以テ製シタル牛酪ト雖トモ市俄古市衛生局ノ規定スル所ニ從ヒ殺菌シタルトキハ市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第二條 「ツベルクリン」検査ニヨリ立證ニ依リ結核菌ヲ有セサル乳牛ヨリ搾取シタル牛乳(若クハ乳脂)ヲ以テ製造「又ハ」市俄古市衛生局ノ規定スル所ニ依リ殺菌シタル牛乳(若クハ乳脂)ヲ以テ製造「ナル文字ヲ八分ノ一吋以上ノ活字ニヨリ鮮明ナル字體ヲ以テ包装ニ印刷スルコトナクシテ牛酪ヲ市俄古市内ニ販賣スルトキハ之ヲ違法トス

第三條 市俄古市内ニ於テ販賣ノ爲メ提供シ展列シ若クハ貯藏スル牛酪ニシテ本條例ノ規定ニ違背シタルコト市内ニ於テ發見セラレタルトキハ牛乳及食料品検査官若クハ其他相當ノ權限ヲ有スル市俄古市衛生局ノ代表者若クハ局員ニ於テ之ヲ差押ハ沒收シ且之ヲ破棄スハキモノトス

第四條 本條例ハ一九〇九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

乾 酪

第一條 家食用乾酪ハ之ヲ製シタル牛乳若クハ乳脂ヲ搾取シタル乳牛カ一年内ニ於テ満足ナル「ツベルクリン」検査ヲ施シタルモノニアラサレハ一九〇九年一月一日以後市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メ提供シ若クハ貯藏スルコトヲ得但シ一九〇九年一月一日以降五箇年間乃チ一九一四年一月一日迄ハ「ツベルクリン」検査ヲ行ハス又ハ結核菌ノ虞ナキニアラサル乳牛ヨリ搾取シタル

牛乳ヲ以テ製シタル乾酪ト雖トモ市俄古市衛生局ノ規定スル所ニ依リ殺菌シタルトキハ市俄古市内ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第二條 「ツベルクリン」檢診ニヨル立證ニ依リ結核菌ヲ有セサル牛乳ヨリ搾取シタル牛乳(若クハ乳脂)ヲ以テ製造又ハ「市俄古市衛生局ノ規定スル所ニ依リ殺菌シタル牛乳(若クハ乳脂)ヲ以テ製造」ナル文字ノ八分ノ一吋以上ノ活字ニヨリ鮮明ナル字體ヲ以テ包裝ニ印刷スルコトナクシテ乾酪ヲ市俄古市内ニ販賣スルトキハ之ヲ違法トス

第三條 市俄古市内ニ於テ販賣ノ爲メ提供シ展列シ若クハ貯藏スル乾酪ニシテ本條例ノ規定ニ違背シタルコト市内ニ於テ發見セラレタルトキハ牛乳及食料品検査官若クハ其他相當ノ權限ヲ有スル市俄古市衛生局代表者若クハ局員ニ於テ之ヲ差押ハ沒收シ且之ヲ破棄スヘキモノトス

第四條 本條例ハ一九〇九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

四、市俄古麵粉燒ニ關スル條例

第一條 販賣又ハ料理店、麵粉屋若クハ旅館ノ爲メニ麵粉「ビスケット」、「ブレッツセル」、「クラツカー」甘麵粉、卷麵粉、「マカロン」、「菓子」、「パイ」其他麥粉若クハ豆粉ヲ生成分トスル食料品ヲ混和調合シ若クハ燒クヘキ製法ニ使用セララルヘキ場所ハ凡テ本條例ニ於テ麵粉燒所ト稱ス

第二條 私人、組合若クハ會社ハ豫メ市ヨリ免許狀ヲ受クルニアラサレハ麵粉燒所ヲ設立維持若クハ

經營スルコトヲ得ス但シ普通厨房設備ニヨリ行ハル、各居宅ノ厨房ニ於ケル私用上麵粉燒ニツキテハ免許狀ヲ要セサルモノトス

前項ノ麵粉燒所ヲ設立維持若クハ經營スル私人若クハ會社ハ毎年五月一日ニ於テ其維持スル各種麵粉燒所ニ對スル一箇年間ノ免許手数料トシテ金五弗ヲ納付スヘキモノトス

免許狀ハ翌年五月一日ニ至ル期間ニ對シテ下附スルモノトス

免許狀申請者カ其免許手数料ヲ忘納シタルコトナク且申請書ニ定メタル日附以前ニ免許狀ナクシテ麵粉燒所ヲ維持シタルコトナキ旨證據ヲ提供シ衛生事務長及市徵稅官ニ於テ之ヲ承認シタルトキハ一年五弗ノ割合ヲ以テ免許手数料ヲ納付シテ當該年度ノ殘半部ニ對シ免許狀ヲ下附スルコトヲ得

第三條 本條例ニ定ムル所ノ麵粉燒所ヲ設立維持若クハ經營セントスルモノハ衛生事務長ニ對シ文書ヲ以テ免許狀ノ申請ヲナスコトヲ要ス

前項ノ申請書ニハ申請者私人ナルトキハ其姓名及住所又會社ナルトキハ其重役ノ姓名及住所ヲ記載シ且免許ヲ得ントスル場所ヲ附記スルコトヲ要ス尙該麵粉燒所ニ使用スヘキ人員ノ數、室房ノ數其他衛生事務長カ該申請書ニ記載スルコトヲ要求スル該麵粉燒所ニ關スル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四條 衛生事務長ハ前條ノ規定ニヨル申請書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ於テ當該麵粉燒所ノ位置、構造、明取、空所及其他衛生的設備カ一般ノ衛生若クハ該所ニ使備セラル、者ノ健康ニ危害ナカ

ラシムルニ足ルヤ否ヤヲ確ムル爲メ該申請書ニ記載セル場所ニツキ検査シ若クハ検査セシムルノ義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ若シ事務長カ本條例ノ規定ニ從ヒ該麵粉焼所ヲ設立維持スルニ適當ナリト認メタルトキハ該申請書ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ市長ニ廻付スルモノトス

市長ハ申請者ニ相當ノ免許手数料ヲ市徴稅官ニ納付セシメタル上之ニ免許狀ヲ下附シ又ハ下付セシムルモノトス

免許狀ハ申請者ニ對シ當該免許ノ期間該申請書ニ記載シタル場所ニ於テ麵粉焼所ヲ設立、維持若クハ經營スルノ權利ヲ附與スルモノトス

衛生事務長カ申請ヲ承認スルニアラサレハ之ニ對シ麵粉焼所設立免許狀ヲ下附スルコトヲ得サルモノトス

第五條 免許狀ヲ下附シタル後衛生事務長カ一般衛生若クハ該麵粉焼所ニ於テ使備セラルル者ノ健康カ該麵粉焼所ノ存置ニヨリ危害ヲ蒙レリトノ事實ヲ市長ニ證言スルトキハ市長ハ該免許狀ヲ取消スルノ義務アルモノトス

第六條 本條例ノ規定ニ依リ下附セラレタル免許狀ニ當該麵粉焼所内見易キ場所ニ之ヲ揭示シ置クトトヲ要ス

第七條 麵粉焼所ニ使用セラル、場所ハ凡テ其床、壁、天井、板張裝置、家具、器具、機械及用器等ニ關シ清潔ニ且衛生的ニ之ヲ支持スルコトヲ要ス麵粉焼ノ目的ニ使用スル室ハ常ニ新鮮ナル空氣ヲ流通セシムル爲メニ窓、風窓、若クハ氣筒其他必要ナルトキハ機械的設備ニヨリ充分ナル換氣裝置ヲ施スコトヲ要ス

各麵粉焼所ノ窓戸ハ夏季ノ間ハ自動閉鎖ノ籠網ヲ施スコトヲ要ス壁及天井ハ之ヲ漆喰トシ又ハ金屬若クハ木材ヲ以テ被覆ヲナシ又ハ瓦ヲ嵌込ムハキモノトス漆喰ヲ施シタル壁及天井ハ石灰塗リトナシ若クハ白壁トシ又ハ油繪ヲ以テ色彩スルコトヲ要ス室内ニ於ケル凡テ内部ノ木張ノ部分ハ油ヲ塗リ若クハ油繪ヲ畫キ且清潔ニ洗滌スルコトヲ要ス各麵粉焼所ニ於テハ流シ及便所其他充分ナル水管及排水裝置ヲ施スコトヲ要ス但シ便所ハ麵粉焼所ヨリ出入シ若クハ直通スルコトヲ得ス

第八條 麵粉焼所ニ於テハ寢ニ就クコトヲ得ス該所ニ使備セラル、者ノ寢室ハ麥粉若クハ豆粉又ハ食料品ヲ取扱若クハ貯藏スルキ室ヨリ隔離スルコトヲ要ス

寢室ニシテ麵粉焼所ト同一ノ床ニアル場合ニハ衛生事務長ハ該室ヲ乾燥シ且衛生的ニ支持スルキコトヲ要求スルコトヲ得

猫ノ外家畜ハ麵粉焼所又ハ該所ニ關聯シテ麥粉若クハ豆粉ヲ貯藏セル場所ニ入ラシムルコトヲ得ス且猫ノ出入ニヨリ生ズル妨害ヲ避クル爲メ適當ナル設備ヲナスコトヲ要ス

麵粉燒所ノ持主又ハ管理者ハ自身及使備人ヲシテ其製品ノ製造取扱又ハ販賣ニ従事スルノ間清潔ヲ保持セシメ適當ナル衣服ヲ着セシムルコトヲ要ス

麵粉燒所ノ管理者ハ非浸潤性材料ヲ以テ造レル唾壺ヲ備ヘ且之ヲ清潔ニ支持スルコトヲ要ス且使備人其他何人ト雖トモ麵粉燒所又ハ製品貯藏所ノ床若クハ壁ニ啞痰スルコトヲ得ス

麵粉燒所ニ於テハ喫煙、線煙草又ハ嚼煙草ヲナスコトヲ禁ス

喫煙及床上ニ啞痰スルコトヲ禁スル旨各所ニ明瞭ニ揭示シ置クコトヲ要ス

肺結核、癩癧、花柳病若クハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ハ麵粉燒所ニ於テ勞働スルコトヲ得ス

麵粉燒所ノ持主若クハ管理者ハ前項ニ掲クル者ヲ麵粉燒所ニ使備スルコトヲ請求シ承認シ若クハ引受クルコトヲ得サルモノトス

第九條 私人 組合若クハ會社ハ其自家用ノ爲メ若クハ食料品製造用ノ爲メ麥粉若クハ豆粉ヲ乾燥シ且換氣良好ナル室以外ニ貯藏スルコトヲ得ス

各麵粉燒所及材料並ニ製品ノ貯藏室ハ棚、戸棚、盆、鉢、箱、函其他之ヲ取扱ヒ及貯藏スルハキ裝置ハ容易ニ移動シ完全ニ掃除スルコトヲ得ル様設備スルコトヲ要ス且該材料及製品ハ街路以下ニ床ヲ有スル室ニ於テ該室ノ床上一呎以内ノ距離ニ於テ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十條 麵粉燒所ニシテ清潔ナラス且鼠、蟻、毒蟲其他有毒若クハ有害物ヲ驅除スルコト能ハサルモ

ノハ公衆ニ危害ナリト宣告シ衛生事務長ハ之ヲ廢止セシムル義務アルモノトス

第十一條 本條例ノ施行後ニアリテハ床、天井ニ至ル内法高サ八呎六吋以内ナル室、地下室若クハ穴藏又ハ排水不完全ニシテ乾燥不充分ナル地下室若クハ穴藏又ハ直接街路、歩道若クハ路地上ニ開ケル窓ヲ用フルコトナクシテ充分ナル明取及換氣ヲナスヘキ様外氣ト直通セサル場所又ハ建物ニ近接セル街路、歩道若クハ路地面以下五呎以上ノ所ニ床ヲ有スル室若クハ場所ニ於テ麵粉燒所ヲ設クルコトヲ得ス

麵粉燒所ニ於テ床カ街路面以下ニアルトキハ排水性材料「セメント」若クハ「アスファルト」又ハ「セメント」ヲ以テ嵌込ミタル床瓦ヲ以テ建造シ尙任意密着セル堅木ヲ以テ張ルコトヲ得

第十二條 (一九〇八年六月二十二日ノ修正ニヨリ廢止)

第十三條 衛生事務長及衛生局ノ検査官并ニ局員ハ隨時其必要ト認ムル所ニ依リ麵粉燒所ニ入り檢閲シ且狀況ニ關シ記録ヲ作ルノ權限アルモノトス

前項ノ檢閲ニヨリ本條例ノ缺陷ヲ發見シタルトキハ衛生事務長ハ本條例ニ關スル該缺陷ヲ補填スル爲メ必要ト認ムル改訂變更及修正ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四條 本條例ノ規定ニ違背スルモノハ各犯行ニ對シ十弗以上百弗以下ノ科料ニ處スルモノトス
麵粉燒所カ本條例ノ規定ニ違背シテ保存、支持、繼續若クハ經營セラルトキハ各自ヲ以テ各別個獨

立ノ犯行ト看做ス

第十五條 一九〇五年市俄古改正條例第十三章第八十七條及第八十八條ノ規定ハ之ヲ廢止ス
第十六條 本條例ハ特ニ規定シタルモノヲ除ク外其決議ヲ經テ裁可公布セラレタル日ヨリ之ヲ施行ス

五、紐育衛生局検査官ノ採用セル牛乳採點表

一九〇七年十二月三十一日ヲ以テ終ル一年度ノ衛生局年報ニ曰ク

「採點表制度實施ノ效果ハ多數ノ大牛乳會社カ其眷顧者ニ通告シテ將來定約價格ハ採乳得點六十點以上ノモノニミ適用シ六十點以下ノモノニハ價格ヲ引下ケ五十點以下ノモノハ全然受納セラル、コトナカルヘキ旨ヲ傳ハタルノ事實ニ徴シテ恐ラク明瞭ナル所ナラン尙或事例ヲ見ルニ七十點以上ヲ得タル牛乳ニハ幾分ノ割増ヲ支拂ハル所モアリ」ト

(一) 採乳検査採點表

滿點百「パーセント」
得點「パーセント」

整理番號

紐育市衛生局

採乳検査

検査種目

一、検査番號

検査施行年月日時

二、採乳人姓名、住所

三、郡區、州縣

四、持主姓名、應接者姓名

五、牛乳配達所、元配達所

六、乳脂製造所、支店、紐育ヨリノ距離

七、乳脂製造所管理者姓名、住所

八、乳脂製造所ヨリ採乳所迄ノ距離

九、乳牛ノ數、採乳回數、採乳量

十、採乳又ハ牛乳取扱人ハ傳染病ノ疑ナキヤ否ヤ

十一、前回ノ検査日及其結果

十二、給水ノ分析、日附及其結果

十三、牛舎ノ容積高、幅、天井ノ高

十四、衛生局ノ採乳規則貼出ノ如何

牛 舎

滿點得點

- 十五、牛舎：…高地ニ建造シ百呎以内ニ溜水、豚舎、便所ノ存セサルモノ
- 十六、床：…混凝土若クハ非吸收性材料ヲ以テ構造セルモノ
- 十七、床：…適當ノ勾配ヲ附シ且漏水セサルモノ
- 十八、低段：…混凝土、石若クハ其他非吸收性材料ニテ構造セルモノ
- 十九、低段：…漏水セサルモノ
- 二十、秣槽及其置場：…適當ニ明ク且清潔ナルモノ
- 二十一、天井ノ構造：…材料ハ：…シテ漏水及塵埃ヲ避ケ得ルモノ
- 二十二、天井：…藁、塵、蛛網等ノ垂懸セサルモノ
- 二十三、室數：…全平方呎：…空間六百立方呎ニツキ二平方呎ノ窓アルモノ
- 二十四、窓玻璃：…掃除シ清潔ナルモノ
- 二十五、換氣裝置：…完全三點、良一點、不完全零點
- 二十六、空間：…乳牛一頭ニツキ
 (六百立方呎以上三點、五百立方呎以上二點、四百立方呎以上一點、四百立方呎以下零點)
 然ラサルモノ零點
- 二十七、牛舎ノ内部適宜ニ彩色シ若クハ白色ニ塗リタルモノ良三點、並一點、
- 二十八、壁及棚：…塵埃、糞尿、蛛網等附着セサルモノ
- 二十九、床及構内：…塵埃、動植物性ノ屑及廢物ナキモノ
- 三十、乳牛寢床：…清潔ナルモノ
- 三十一、乳牛以外ノ畜類：…乳牛舎ヨリ隔離セルモノ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一

- 三十二、牛舎ヨリ秣室及ヒ穀物置場ニ直通スルモノ
- 三十三、敷藁：…清潔、乾燥、及吸收性アルモノ
- 三十四、隔離所：…病牛ノ爲メ設備スルモノ
- 三十五、隔離室：…分娩ノ爲メ設備スルモノ
- 三十六、糞尿：…毎日牛舎ヨリ二百呎以上ノ距離迄搬出スルモノ
- 三十七、糞尿堆積：…乳牛ノ近接シ得サル場所ニ置クモノ
- 三十八、流動物：…吸收セシメテ毎日搬出シ且牛舎ノ下及周圍ノ土地ニ充溢及浸透セシメサルモノ

乳牛繫留場

- 三十九、乳牛繫留場：…適宜ノ勾配ヲツケ且排水設備アルモノ
- 四十、乳牛繫留場：…清潔ニシテ且糞尿ヲ掃除セルモノ
- 四十一、乳牛：…獸醫ノ検査施行年月日、其報告
- 四十二、乳牛：…結核ノ虞アリ且結核症ニ罹レルモノヲ搬去セルモノ
- 四十三、乳牛：…検査ノ時肉付好良ニシテ體質佳良ナルモノ
- 四十四、乳牛：…糞尿及土ノ附着セサルモノ
- 四十五、毛髮：…腹、脇、乳房及尾ノ毛ヲ常ニ短ク刈取レルモノ
- 四十六、乳房及乳頭：…搾乳前完全ニ清浄ナラシムルモノ
- 四十七、飼料：…品質好良ニシテ穀物及糠稈ハ塵埃ノ附着セサルモノ
- 四十八、酒造糟又ハ醱酵若クハ腐敗物ヲ食セシメサルモノ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一

四十九、乳牛ニ對スル給水：清淨ニシテ且潤澤ナルモノ

搾乳者及搾乳

五十、從業者：身體強壯ナルモノ

五十一、搾乳者ノ衣服：清潔ナルモノ

五十二、搾乳者ノ手：搾乳前洗滌シ清潔ナラシムルモノ

五十三、搾乳：乾燥セル手ヲ以テナスモノ

五十四、出始メ若クハ最初少量ノ乳ハ廢棄スルモノ

五十五、牛乳濾過：清涼ナル場所ニ於テスルモノ

五十六、牛乳冷却：搾取後二時間以内ニ華氏五十度以下ニ冷却シ之ヲ乳

脂製造所ニ配達スル迄常ニ華氏五十度以下ニ置クモノ

五十七、分娩前十五日以内分娩後五日以内ノ乳牛ヨリ搾取セル牛乳ヲ廢棄

器具

五十八、牛乳桶：各繼目ヲ白緞ニテ接ケルモノ

五十九、牛乳桶：小形ノ口ヲ付ケ頂上ハ直徑八吋以内明ケルモノ

六十、牛乳用器：使用後直ニ冷水ヲ以テ漱キ後温湯及洗料ヲ以テ洗滌ス

搾乳場

六十一、棚：牛乳桶ヲ流水又ハ太陽ニ曬ス爲メニ設備セルモノ

六十二、搾乳臺：清潔ナルモノ

六十三、搾乳場：百呎以内ノ距離ニ於テ豚舎、糞尿溜場若クハ便所ナキモノ

六十四、搾乳場：他ノ業務所ト直通スルモノ

六十五、搾乳場：適當ナル明取及換氣裝置アルコト

六十六、床：適宜ノ勾配ヲ付シ且漏水セサルコト

六十七、搾乳場：塵埃、廢物其他牛乳ノ取扱及貯藏ニ必要ナキモノヲ存

置セサルモノ

六十八、搾乳場：清淨ナル流水若クハ貯水ヲ供給スルモノ

六十九、水：牛乳冷却用ニ供セラルルモノ

給水

七十、器具ニ對スル給水：位置：深サ：且明カニ純粹清淨ナルモノ

ヨリ供給スルモノ

七十一、供水又ハ地面排水ニ關スル設備アルモノ

七十二、便所若クハ下水溜：給水所ヨリ百呎以内ニ存セサルモノ

七十三、牛舎、納屋庭、糞尿溜場又ハ其他ノ汚穢ノ場所：給水所ヨリ二百

呎以内ニ存セサルモノ

一〇〇 一 二 三 五

食料品検査官

(二) 乳脂製造採點表

滿點百「パーセント」

紐育市衛生局

乳脂製造報告

検査種目

整理番號.....検査番號、検査施行年月日時

位置.....所在番地

縣.....州

製造所名.....支店.....紐育ヨリ.....哩

持主.....姓名、住所

營業者.....姓名、住所

管理者.....免許ノ有無、補助員數

牛乳取扱人.....傳染病患者ノ有無、眷顧者數

現在平均牛酪製造額.....毎日牛乳受入額

牛乳貨車毎日發着時間

殺菌法.....機械使用ノ有無

乳脂牛抄製造ノ如何.....製造所ニ住宅ノ有無

牛酪、乾酪、煉乳、酪素若クハ乳糖製造ノ有無

衛生局規則貼出ノ有無

顧客ハノ送達

姓名.....牛乳.....瓶.....記號

住所.....乳脂.....箱.....記號

姓名.....牛乳.....瓶.....記號

住所.....乳脂.....箱.....記號

一、乳脂製造所周圍ノ構内清潔ナルモノ

二、牛乳受取場.....牛乳置場ヨリ隔離セルモノ

三、秤量桶及貯藏槽.....使用中被覆ヲ施セルモノ

四、牛乳取扱室.....牛乳ノ取扱ノミニ専用スルモノ

五、瓶洗滌室.....隔離ノ如何

六、溜罐室.....隔離ノ如何

七、窓.....明取ノ充分ナルモノ

八、臭氣及蒸氣.....屋外ニ排出スルモノ

九、壁及天井.....外被アリ塵埃ヲ防クニ足ルモノ

滿點得點

二二 四 一一 一一 三 二

- 十、其淡色ニシテ彩色セルモノ
- 十一、棚：清潔ニシテ埃塵ヲ避クルモノ
- 十二、床：廢物、塵、若クハ水溜ヲ存セサルモノ
- 十三、其混凝土、石若クハ其他非吸收性材料ニテ構造セルモノ
- 十四、其漏水セサルモノ
- 十五、一箇所又ハ數箇所ヨリ排水セラル、様勾配ノ付ケルモノ
- 十六、床上停塵器ハ直接六吋以上ナルモノ
- 十七、乳脂製造場下ノ土地：乾燥セルモノ
- 十八、其廢物又ハ屑物ヲ存セサルモノ
- 十九、其排水管ハ陶器又ハ鐵ナルモノ
- 二十、其漏水セサルモノ
- 二十一、其床面ヨリ排出點迄連續セルモノ
- 二十二、其氷凍ノ豫防設備アルモノ
- 二十三、排水設備：満足ニ排水スルモノ
- 二十四、牛乳唧筒及牛乳管：直ニ取外シ出來ルモノ
- 二十五、其毎日完全ニ掃除スルモノ
- 二十六、蒸氣管及水管：彩色シ且清潔ナルモノ
- 二十七、牛乳桶：修理好良ナルモノ
- 二十八、鉢力器：白鐵接ニセルモノ
- 二十九、其毎日完全ニ掃除セラルモノ

一〇〇 二 一 二 二 二 一 三 一 二 二 五 二 二 一

- 三十、牛乳瓶：温湯及洗料ヲ以テ洗滌スルモノ
- 三十一、其清水ヲ以テ漱ゲルモノ
- 三十二、其二分間以上蒸氣ヲ通セルモノ
- 三十三、牛乳溜ニアル牛乳ヲ塵埃ヨリ避ケシムル設備アルモノ
- 三十四、其調合シ又ハ空氣ニ露ス間塵埃ヲ防クモノ
- 三十五、其華氏六十度以下ノ温度ヲ以テ受入レルモノ
- 三十六、構内ニテ保存又ハ取扱フ間温度ヲ華氏五十度以下ニ保持スルモノ
- 三十七、冷却器：漏水ナキモノ
- 三十八、其非吸收性材料ヲ以テ構造セルモノ
- 三十九、其毎日清水ヲ注入シ又ハ清潔ナル水ヲ以テ充タスモノ
- 四十、給水：乳脂製造所ノ需要ニ充分ナルモノ
- 四十一、給水：明カニ不淨物其他ノ混入セサルモノ
- 四十二、貯水桶：常ニ清潔ナルモノ
- 四十三、其被覆アリ且塵埃ヲ防キタルモノ
- 四十四、從業者：身仕度清潔ナルモノ
- 四十五、其着セル外衣清潔ナルモノ
- 四十六、大小便所、下水溜ハ適當ノ位置ニアルモノ
- 四十七、其掃除行届キタルモノ
- 四十八、略痰若クハ喫煙：場内ニテ禁セルモノ

一〇〇 二 一 二 二 二 一 三 一 二 二 五 二 二 一

(三) 牛乳店採點表

住所：..... 認許年月日：.....
 姓名：..... 營業名：.....

一、周圍一體：清潔十點、並五點、不潔零點	一〇
二、換氣：良二點、並一點、不良零點	二
三、明取：良二點、並一點、不良零點	二
四、壁及天井：清潔二點、不潔零點	二
五、床：清潔二點、並一點、不潔零點	二
六、從業者：明カニ傳染病ノ疑ナキモノ	八
七、其身仕度：清潔ナルモノ	四
八、着衣：清潔ナルモノ	三
九、白衣着用：清潔ナルモノ	二
十、店：専ラ牛乳ノミヲ販賣スルモノ十五點、牛乳酪乳、及包裝品ヲ販賣スルモノ十點、牛乳及麵粉類ヲ販賣スルモノ八點、牛乳、及料理若クハ日常乾物ヲ販賣スルモノ六點	四五
滿點	一〇〇
検査日附	

賣スルモノ六點	一五
十一、牛乳：受入後販賣スル迄清潔ニ保持スルモノ	四
十二、牛乳：華氏五十度ヲ越エサル溫度ヲ保持スルモノ五點、其他零點	五
十三、牛乳：販賣中牛乳専用冷蔵庫ニシテ清潔且排水裝置アルモノニ貯藏スルモノ十五點	一五
其他ノ食料品ヲ冷蔵庫ニ貯藏スルモノ八點、牛乳ヲ清潔ニシテ且良好ニ氷ヲ以テ覆フタル桶中ニ貯藏スルモノ十點	一五
十四、器具：清潔五點、不潔零點	五
十五、器具：使用前殺菌スルモノ	二
十六、繼目：白蠟接ニスルモノ	一
十七、牛乳溫度：華氏四十五度以下十五點、自四十五度至五十度十點、自五十度至五十五度三點、五十五度以上零點	一五
十八、驗乳器：驗乳ノタメ使用スルモノ	一
十九、寒暖計：驗乳ノ爲メ使用スルモノ	〇
滿點	一〇〇
備考	
牛乳販賣人	
検査官	

リ、紐育ニ於ケル結核病防歴策

紐育ニ於テ行ハルル左ノ諸方策ハ全國結核病研究並防止協會主管ノ下ニツク、ヒー、ジャコブス氏(一九〇八年紐育)ノ編纂シタル『合衆國ニ於ケル結核病對抗戰』ト題スル書中ニ掲ケタルモノナリ、(頁三八八―三八九)

一八九八年改正衛生規則ニハ公衆ニ於テ安リニ略痰スルコトヲ全然禁止スルノ規定アリ然レトモ此法律ハ大體上願フル不充ナル實施ヲ見タリ衛生局ハ最初七年間ノ研究實驗ノ結果一八九四年二月十三日ヲ以テ諸種ノ決議ヲナシ以テ該病防歴ノ目的ヲ達センコトヲ企圖シタリ其決議ノ一トシテ或種ノ結核病ニ關スル報告ヲ徵スルコトトセリ其結果ニ依ルニ一八九四年ニハ報告數四、一六六ニシテ一八九五年ニハ五、八一八、一八九六年ニハ八、三四四ニ至レリ是ニ於テカ同局ハ異論ニ遭遇スルコトナク又各個人ニ不當ノ困事ヲ負擔セシムルコトナク其教育事業ヲ發展セシメテ多數人ヲシテ該病菌ニ感染セシムルコトヲ防止センコトヲ期スルニ至レリ一九〇七年以來同局ハ年々二二、〇〇〇以上ノ報告ヲ受理シツ、アリ
一八九七年一月十九日前記ノ決議ノ下ニ其事業ヲ確立發展セシムル爲メ衛生局ハ衛生規則ノ改正ヲ可決セリ

第五十三條 肺結核ハ之ヲ傳染病トシ公衆ノ衛生ニ危害アルモノトス

當市内ニ於ケル醫師ニシテ前項ノ患者ヲ最初ニ診察シ又ハ發見シタル者ハ其時ヨリ一週間以内ニ文書ヲ以テ該患者ノ姓名、年齢、男女ノ別、職業及住所ヲ衛生局ニ報告スルノ義務アルモノトス
當市内ニ於ケル公私病院及施藥所ノ事務長、管理人、院長、所長若クハ醫員ハ其取扱又ハ發見シタル肺結核病患者ノ姓名、年齢、男女ノ別、職業及住所ヲ一週間以内ニ文書ヲ以テ衛生局ニ報告シ若クハ報告セシムルノ義務アルモノトス
各肺結核患者及公私病院及施藥所ノ役員ハ肺結核蔓延ノ防歴ニ關スル衛生局ノ凡テ衛生規則ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

(現行衛生規則第三十三條及第三十八條ニハ各種ノ結核病ヲ以テ傳染病トシテ規定セリ)

其目的トスル所ハ肺結核ノ蔓延ヲ防止シ其既ニ該病ニ罹レル者ヲ救治セントスルアリ衛生局ノ見積リニヨレハ現存セル該疾患ノ凡ソ八十五「パーセント」ハ報告セラルトセリ以上ノ如ク記録制度ハ人口ノ増加多大ナルニ拘ラス結核病ニヨリテ死亡スルモノ、率次第ニ減少スルニ至レリト謂フ
紐育衛生局ノ活動ハ實ニ左ノ五項ニ之ヲ要略スルコトヲ得ハシ
一、紐育市内ニ發生スル凡テ肺結核ニ關シテハ衛生局ニ於テ之ヲ記録ス

- 二、肺結核ニ罹レル各患者ハ其蔓延ヲ防止スヘキ方法ニ關スル指令ヲ受クヘシ
 - 三、肺結核ニ罹レル患者ノ居住シタルハ邸宅ハ其者ノ死亡又ハ移轉シタルトキ「フオルムアルデヒド」ヲ以テ消毒シ若クハ改築ヲ命スルモノトス
 - 四、助力若クハ庇護ヲ希望若クハ要求スルトキハ出來ル丈ケ慈善的助力若クハ病院ニヨル庇護ヲ與フルモノトス
 - 五、一般公衆ニハ該疾病ノ性質、其蔓延ニ對シ探ルヘキ注意、病院及療養所ニ於テ取扱フヲ適當トスルコト等ニ關スル智識ヲ有セシムルコト
- 衛生局ハ三個ノ特種的結核病臨床講義、症狀進メル者ニ對スル一個ノ病院及初期ノ患者ニ對スル一個ノ療養所ヲ經營ス慈惠局ハブラツクエルス島ニ於テ一個ノ大病院ヲ設立シ尙ホステーション島ニ於テモ八百人ヲ容ルヘキ病院ノ建設中ナリ
- 衛生局ノ教育的事業ハ多數ノ書籍ヲ分配シ展覽會ヲ開催シ且公開演說會ヲ開ク等ニアリ

紐育衛生局ハ「肺結核(肺病)ニ罹レル者ノ救助要録」ナル書ヲ公刊セリ其内左ノ項アリ

甲、肺結核ニ罹レル者ニ對シ如何ニ處置スヘキカ

一、診 斷

肺結核ノ疑アル場合ニ探ルヘキ第一ノ手段ハ患者カ果シテ該病ニ罹レルヤヲ確ムルコトニアリ
 凡ソ壯年タルト小兒タルトヲ問ハス絶ヘス咳嗽シ、體量減スル等ノコトアルトキハ(第三條參照)各自ノ主治醫ニツキ診斷ヲナサシムヘシ若シ個人的醫師ノ診斷ヲナサシムルノ費用ヲ辨スルコト能ハサルモハ特設結核病施療院ノ一ニ依托スヘシ(施療院及臨床講義規則書第六條參照)

マンハタン市區ニ於テハ肺結核ノ場合ノ診斷及處置ニ關シ幾多優良ナル設備ヲ結核病臨床講義協會ニ於テ設ケタリ乃チ十七個ノ施療院ヨリ成リ各自市内一定區域ヨリ來ル凡テ患者ヲ療治ス且之ニ從事スル醫員中ノ一人ノ係員ヲ附シ尙ホ其一名ノ看護員ヲ附ス是等看護員ハ患者ノ住宅ヲ訪問シテ必要ナル注意ヲ遵守セルヤ與ヘタル助言ヲ實行セルヤヲ視察シ且不都合ノ事情ハ出來ル丈ケ之ヲ除斥スルコトニ努ムルモノトス

施療申請書ニシテ其申請セル施療院ノ管轄區域外ニ住居スル者ナルトキハ申請施療院ニ於テハ之ヲ取扱フコトヲ拒絕シ且其者ノ住所地ヲ管轄スル施療院ニ傳票ヲ附シテ送致スルモノトス患者ヲ是等施療院ノ一ニ送致スル以前ニ該患者ヲシテ其當該所轄ノ施療院ニ行カシムルコトニ注意スヘシ單ニ夜間ノミ出頭スルコトヲ得ル患者ハ衛生局マンハタン及ブルツクリン臨床講義所ニ於テ其取扱ハルヘキモノトス

係醫員又ハ特設結核病施療院ニ於テ早時期ニ診斷スルモ時トシテ結核ノ疑ナキ存在ヲ放還スルコトア

リ若シ適宜ノ時期ニ診断セハ留置セラルハキモノナルナリ怠慢ト不注意トハ結核病ニヨル死亡率ヲ高ムルニ多大ノ關係アルモノナリ昨年中紐育市内ニ於テ斯ノ如キ大部分防止シ得、ク且屢々全癒シ得、カリシ疾患ノ爲メニ死亡セルモノ一、一四七人アリキ

二、咯痰検査

紐育市第六通り第五十五號街ナル衛生局又ハ衛生局ノ取次所トシテ勤務スル市内各所ノ藥種店ニ咯痰ノ試料ヲ送致ス、シ、(是等藥種店ニ關スル規則ハ請求次第之ヲ送附ス)

結核ノ疑アル場合ニ於テ咯痰ノ検査ヲナスハ診斷上ノ根本的事項ナリ此方法ニヨリテ從來該病ノ疑ナキ場合ヲモ確認セラル、コトヲ得、衛生局ハ無料ヲ以テ斯ノ如キ試料ヲ検査シテ之ヲ提出シタル當該主治醫、團體、病院若クハ私人又ハ係醫員ナキトキハ本人ニ之レカ報告ヲナスモノトス検査ニツキテハ何等ノ負擔ヲ課セス

密栓ヲ施セル瓶及報告用附箋ハ市内到ル所ノ藥種店ニ於テ隨意ニ之ヲ求メ得ヘク是等ハ衛生局ヨリ發行シタル診斷用裝置、抗毒素及痘苗ノ廠所ナリ咯痰附箋ニ記載セル注意書ニ基キ咯痰ノ試料ヲ得タル後該試料及附箋ハ當該藥種店ニ置クモノトス然ルトキハ之ヲ衛生局診斷所ニ運ヒ此處ニテ検査シ報告ヲ送達スルコト前述ノ如シ

咯痰ノ検査ニ關聯シテ二事項ヲ記憶セサル可カラス

一、咯痰中ニ結核菌ヲ發見スルコト能ハサリシトスルモ之ヲ以テ當人ハ結核患者ニアラストスルコトヲ得ス結核菌ハ病症カ相當ニ進ム迄ハ必シモ常ニ現ハル、モノニアラス最初又ハ初期ノ場合ニハ其存在セサルヲ常トス又一回二回ノ検査ニハ發見セラレストモ後ニ至リテ發見セラル、コトアリ故ニ疑アル場合ニハ數回試料ヲ提出セサル可ラス

二、發見セラレタル結核菌ノ數、如何ハ病症ノ如何ト關係アルモノニアラス初期ノ場合ノ咯痰ニモ無數ノ微菌存スルコトアリ後期ノ場合ノ咯痰ニモ全然微菌ヲ發見セサルコトアリ然レトモ結核菌ノ數多クシテ咯痰ノ量大ナルモノハ他ニ對スル危險性隨テ加ハルモノナリ

三、家庭ニ於ケル結核病ノ處分

病症ニツキテ特設結核病臨床講義所ニ通告スヘシ(第三條一號及第六條)

原則トシテ肺病患者ハ其自己ノ住宅ニ居ランヨリモ療養所又ハ病院ニ在ル方好都合ナリ然レトモアル場合ニ於テハ患者ハ市ヲ離ル、ヲ欲セス又ハ業務繼續ノ必要其他ニヨリ餘義ナク市ヲ離ルコト能ハサルモノアリ斯ノ如キ患者ニシテ自ラ個人的ニ醫師ノ診療ヲ支辨シ能ハサルトキハ特設結核病治療院ノ一二於テ無料取扱及注意ヲ受クヘシ看護員ハ患者ノ自宅ヲ訪問シ其如何ニシテ生活シ且他人ニ疾病ヲ傳染セシメサル様如何ナル注意ヲナスヘキカニツキ口頭又ハ文書ニヨル注意ヲ與フルモノトス藥ハ唾壺其他ト共ニ無料ニテ施給セラル日々渡船ニテ外出スル爲メノ設備ハ衛生局バンダビールド及ニル

レープ結核病臨床講義所ノ用意スル所ナリ

四、慈惠の助力

諸種ノ慈惠團體ノ一ニ事情ヲ通告スヘシ

患者又ハ其家族ニ對シ金錢、雜貨、石炭、水其他ノ形ニ於テ慈惠的施與ヲナスコトヲ望マレシ場合ニハ諸種大慈惠團體ハ文書又ハ電話ヲ以テ告知セラレ、コトヲ要スユダヤ人ニアラサル場合ナリセハ第二十二號街東部第百〇五番貧民境遇進協會及第二十二號街東部第百〇五番慈惠組織協會アリユダヤ人ニ關スル場合ニハ第二通第三百五十六番紐育市聯合ヘブリユ一慈惠會アリソルツクリンノ場合ニハブルツクリンシヤーマーホルン街第六十九番ブルツクリン慈惠局等アリ各場合ヲ檢閲スル爲メ視察員ヲ派遣シ救済上適當ナル方法ヲ講セシム

五、初期經過好キ患者ノ療養所ヘノ移轉

事情ヲ衛生局又ハ當該市邑官廳ニ申告スヘシ

結核病療養上ノ好結果ハ新鮮ナル空氣、安息及適宜ノ食物並ニ之ニ應適スル藥トヲ用フルニヨリテ之ヲ得ヘシ斯ノ如キ要求ハ田舎ノ療養所ニ於テ最モ克ク充タスコトヲ得アチロングツクスニ於ケルレイソロツクノ初期結核患者ニ對スル紐育州立病院、衛生局所屬オチスビル療養所ノ如キ之ナリ紐育ヨリノ患者ヲ收容スル田舎ノ療養所ハ殆ント全部一定ノ制限ヲ設ケ初期若クハ初期後經過良好ナ

ルモノノミヲ收容ス

初期ノ結核病トハ病症尙ホ最初ノ階梯ニアルヲ謂フ侵サレタル肺臟ノ部分ハ甚々小部ニシテ（一肺臟ノ最上端ナルヲ普通トス）熱其他身體上ノ痛苦ナク其咯痰ハ結核菌ヲ包含セス咯痰中ニ結核菌ノ混入セシハ肺臟ノ軟化シテ破損セルヲ意味ス而シテ病症カ既ニ初期ヲ過キタルヲ示スモノナリ發病後經過良好ト稱スルハ肺臟ノ侵サレタル部分稍大ニシテ咯痰中結核菌ヲ見ルモノヲ云フ但熱ナク相當ノ健康狀態ニアリ必要ニ應シテ手輕ノ仕事ヲ營ムコトヲ得ヘシ

手當ヲ早クヨリ施スコトハ最モ肝要ナルコトナルヲ以テ結核病タルノ診斷確定スルトキハ直ニ療養所ニ入ルヘキ許可ノ申請ヲナスヘシ患者ハ屢々其心地克キマ、病症ノ重大ナルヲ思ハス早クヨリ手當ヲ施スコトノ重要ナルヲ思ハサルモノアリ之レ實ニ說服スルコトヲ要スル事項ニシテ普通手廻ハ乃チ死ヲ意味スルナリ凡テ適當ナル患者ハマシ市邑第二十六號街東部ノ慈惠部壯年者救護局ニ之ヲ送致スヘシ此處ニ於テ患者ハ其資力狀態並ニ市民タル資格ニツキ檢閲セラレヘシ若シ適當ナルトキハ檢査ノ爲メ州檢査官ノ一人ニ送致セラレ單ニ初期ニシテ經過良好ノ患者ノミアデロングツクスニ於ケルレイ、ソロツクノ初期結核病紐育州病院ニ收容セラレ無料療養所ニ對シ病症昂進セルモノノ收容ヲ許可セラレンコトヲ求ムルモ無益ノ事ナリトス

初期後經過良好ノ者（手輕ノ仕事ヲナスヲ得ルモノ）ハ紐育オチスビルナル衛生局附屬療養所ニ收容セ

ラル尙病症昂進シ咯痰ニ微菌ヲ包含セルモノハノースブラザール島ニ於ケル衛生局附属リバーサイド療養所ニ送致セラルハシ是等療養所ニ於ケル手當ハ凡テ無料トス患者カ半私人的療養所ノ一ニ收容セラレンコトヲ欲スルトキハ(アチロンダックス、ルミミ等)直接當該療養所ト交渉スヘキモノトス(第七條参照)

茲ニ一言警告スヘキハ結核患者ヲ南部若クハ西南部地方又ハ其患者ノ前途ニツキ何等ノ定按ナク又ハ醫療上ノ設備ヲモナキ田舎地方ニ送致スルノ不可ナルコト之ナリ病症昂進セルモノハ何等ノ目的ナクシテ長途ノ旅行ニ費用ト疲勞トヲ課センヨリモ寧ロ市中ノ病院ニ於テ其終焉ヲ留マラシムルヲ以テ可ナリトセン加之是等患者ハ其探ルヘキ必要ナル注意ヲ知ラス又習ハサルヲ以テ其周圍ノ人々ニ對シ危害ノ根源タルニ至ルヘク西部及西南部ノ多數地方ハ東部ヨリ結核患者ヲ移送シ來ルコトニ對シ猛烈ナル反對ヲ唱ヘシカ素ヨリ當然ノ事タルナリ資力ナク又資力ヲ得ヘキ機會ヲモナクシテ彼等患者ハ其家郷ニ於ケルヨリモ遙カニ困弊スヘキヤ必セリ

六、病症昂進セル患者ニ對スル病院手當

紐育市ニ於ケル結核大病院(メッロボリタン、セント、ジョセフス、シートン、エンド、セント、ビンセント、ステーション島)ハ結核患者入院許可ノ申請ハ慈惠部(電話マヂソン三三三五〇)ニ提出スヘキモノトス衛生局モ亦以上ノ病院ハ患者ノ入院許可ヲ取扱フモ時間ヲ要スルコト大ナルハシマンハツタンニ於

テハ遊動病院ノ必要アル場合ニ貧困其他臨時ノ事由アルトキハ患者ノ住居スル地區所管ノ病院ニ電話ヲ以テ通告シテ直接「イースト、リッパ」第二十六號街ナル「ベルレーブ」病院ニ之ヲ送致スルコトヲ得遊動病院ノ勤務ヲナセル病院及其所管區域左ノ如シ(表)

七、危險ナル患者ノ強制的移送

紐育市第六通第五十五號街衛生局ニ其旨通告スヘシ電話「コロムバス」四九〇〇番咯痰等排棄ニ關シテ必要ナル注意ヲナス又ハ咳嗽ニツキ用心セサル肺結核患者ノ存在スル爲メ子供又ハ其他ノ者ノ健康ヲ危クスル場合ニハ衛生局ハ該患者ヲ必要ニ應シ強制シテ「ノース、ブラザール」島ナル「リッパサイド」施療院ニ移送シ且必要ノ期間之ヲ留置スルノ權限ヲ有スルモノトス唯貧困ナルノ事實ハ此種移送ノ事由トナラス單ニ極端ノ場合ニ於テノミ探ルヘキ處置法ナリトス電話ニヨル通告ヲ受ケタルトキハ検査員ハ直ニ其病床ニ至リテ適宜ノ處置ヲナスモノトス

八、邸宅、寢具其他ノ消毒

衛生局ニ申告スヘシ衛生局ハ肺結核ニ罹レル者ノ居リタル後ノ邸宅ヲ消毒ス此消毒法ハ室内ノ「フツルマルデヒト」燻蒸、及患者ノ使用シタル寢具ノ取片付ケニヨルモノトス「フツルマルデヒト」ハ衣服、繪畫其他ノ物品ヲ毀損スルモノニアラス寢具ハ熱ヲ以テ消毒シ希望ニヨリ之ヲ還送シ又ハ破棄スルモノトス以上消毒ニ對シ何等ノ負擔ヲ課セサルモノトス居室若シ頗ル破損ノ状態ニアリ且衛生局検査員

ヨリ同様ノ報告アルトキハ該局ハ家主若クハ其代理人ニ對シ命令ヲ發シ必要ニ應シテ色彩、紙貼、白塗等新規借家人ノ入り來ル以前ニ手入レセシムルモノトス

乙、結核病ニ對スル準則綱要

自宅ニ在リテ個人的醫師若クハ特設臨床講義所ノ一ヨリ診療ヲ受クル結核患者ハ其生活ノ方法、遵守スヘキ注意等ニ關スル充分ナル指令ヲ與ヘラルヘキモノトス是等注意事項中ノ或ルモノハ最モ肝要ナルモノニシテ常ニ反覆スヘキモノトス是ヲ以テ結核患者ト接觸スルモノハ患者並ニ家族ニツキ左ノ諸點ヲ心得セシムヘシ

一、肺結核ハ不治ノ病ニアラサルコト

早期ヨリ手當ヲ施ストキハ該疾患ハ多クハ善良ナル食物、清潔ナル空氣及醫師ノ投藥ニヨリテ全治スルコトヲ得斯ノ如キ状態ハ田舎ノ療養所ニ於テ最モ能ク得ラルル所ニシテ廣告的ノ藥劑若クハ廣告的ノ醫師ノ爲メニ時間ト費用トヲ浪費スヘキニアラス蓋シ無益ノ事ナレハナリ

二、醫師及看護員ヨリ患者及其家族ニ與ヘタル心得ハ細大トナク之ヲ遵守セサルハカラサルコト

三、結核患者ノ咳嗽ニヨル吐咯物ヲ速ニ排棄シ且其口ニ覆ヲ施セルト

キハ該患者ト同棲スルモ危險ニアラス

咳嗽ニヨリ吐咯シタルモノヲ消毒スルトキハ患者モ屢々其常職ニ就キテ他ニ危害ヲ及ボスコトナキノミナラス自己ノ健康状態ヲ増進シテ其恢復ノ機會ヲ増加スヘシ咯痰ハ床、敷物、煖爐、壁又ハ歩道ニ等吐出スルコトアルハカラス成ルハク特ニ設ケタル唾壺中ニ之ヲ吐出スヘシ壺中ニハ水ヲ湛ハ吐咯物ノ乾燥セサル様ニシ又二十倍ノ石炭酸水(茶匙六杯「ポイント」)ヲ容レ置クトキハ尙可ナリ此溶液ハ微菌ヲ殺スノ効アリ壺ハ一日一回以上便所ニ明ケ熱湯ヲ以テ周到ニ洗滌スヘシ患者カ外出セル場合ニハ吐咯物ハ特製シタル「ボツケツト」用壺ニ之ヲ吐出スヘシ若シ布ヲ用フルトキハ歸宅後直ニ之ヲ燒棄スヘシ若シ手拭(直ニ燒棄シ得ル様值無キ布ヲ用フレハ適カニ好都合ナルモ)ヲ用ヒタルトキハ之ヲ洗滌スル前一時半以上之ヲ煮沸スルコトヲ要ス故ニ出來得ヘクンハ吐咯物ハ壺又ハ瓶ニ之ヲ受クルヲ可トス紙製壺ハ普通ノ壺ヨリモ更ニ可ナリ蓋シ紙製壺ハ其使用後其内容物ト共ニ燒棄スルヲ得ルノ便アレハナリ玻璃、金屬、厚紙製ノ「ボツケツト」用壺モ亦外出中ノ咯痰ニ最モ便利ヨキモノナリ廉價ニシテ便利ナル各種ノ壺及瓶ヲ多數ノ藥種店ニ於テ販賣セリ衰弱シテ壺ヲ用フルコト能ハサル患者ハ濕潤シタル屑布ヲ用フヘク且直ニ之ヲ燒棄スヘシ若シ布ヲ用ヒタルトキハ「ボツケツト」内ニ無難作ニ携帶スヘカラス排水性アル容器(革囊)ニ入レ且容器ハ屢々煮沸スルコトヲ要ス患者ノ汚衣及寢臺用白布ハ成ルヘク乾燥セル間ニ取扱ハサルコトヲ要シ洗滌スル迄ハ水ニ浸シ置クヘシ

四、結核患者ハ其手、顔、及衣服ヲ咯痰ヲ以テ汚ササル様大ニ注意スルコト

トヲ要スルコト

若シ汚レタルトキハ直ニ之ヲ石鹼及湯ヲ以テ洗滌スハシ

五、結核患者ハ決シテ其吐咯物ヲ嚙下セサルハキコト

六、結核患者ハ專用ノ寢床ヲ有シ又若シ出來得ハタンハ專用ノ室ヲ有

スハキコト

結核患者ハ其家族ノ者ヲ接吻スヘカラス且出來ル火ケ自己所屬ノ物品(手拭、煙管等)ハ自己專用ナルコトヲ要ス

七、結核患者ハ常ニ充分新鮮ナル空氣ヲ吸收シ窓ハ晝間及夜間開放ス

ハキコト

八、乾燥セル儘掃除スルコトナキコト

室ハ毎日掃除セサル可シ然レトモ床上ニ塵埃起ルヲ防ク爲メ掃出ス前ニ水ヲ撒キ濕氣アル布ヲ以テ塵ヲ拂フヘシ

九、小兒ハ結核患者ノ使用スル室内床上ニテ遊戯スヘカラサルコト

斯ノ如キ小兒ハ結核性腦膜炎、腸炎等ニ罹カラシムルノ傾向アリ衛生局カ其防塵策ヲ吐痰ヨリ着手シテ患者ヲ病院ニ送り唾壺ヲ設備セシメ患者ノ居タル空室ノ消毒ヲ勵行セシメタル結果十五歳以下ノ少

年ニシテ結核病ニヨリ死亡シタル者ノ割合ハ一萬人ニ付七・一〇ヨリ二・六ニ減少シタリ

十、酒精飲料ノ過用ハ結核病ニ有害ナルコト

麥酒及麥芽酒ノ如キ飲料ニテモ醫師ノ忠告ニ基キテノミ使用スヘシ

十一、不必要ナル勞働ヲ避クハキコト

安息休養多キ程可ナリ

十二、有望快活ナル性情ハ肺結核ニ對スル最好ノ救治法タルコト

丙、如何ニシテ肺結核ニ感染スルコトヲ避ケ得ヘキカ

肺結核ニ感染スルコトヲ避クハキ第一ニシテ且最も重要ナル規則ハ出來ル丈ケ身體ヲ強壯健全ニ保持スルニアリ結核菌カ脆弱ナル者若クハ病者ノ體內若クハ肺臟ニ侵入スルトキハ屢々増殖シテ結核病ヲ發生セシム

身體ノ健全ヲ保持スルニ最大重要ノ事項ハ自宅、學校及業務室等ニ於テ新鮮清淨ナル空氣ヲ吸ヒ適當ナル食事ヲナシ清潔ヲ保持シ萬般ノ事物ニツキ節制ニシテ規則正シキ生活ヲ送り且出來得ル限リ戶外生活ヲナスト謂フニアリ

新鮮清淨ナル空氣ヲ得シカ爲メニハ(イ)戶外ニ出テ且塵埃ヲ避クルコト(ロ)其居室、執務室、又ハ學習室内ニ一日數回新鮮ナル空氣ヲ充分ニ入ラシムルコト(ハ)終夜寢室ノ窓ヲ一個以上開放シ置クコト

(ニ)室内ニ起ル塵埃ヲ防ク爲メニ濕リタル布若クハ箆(決シテ乾燥シタル箆又ハ雑巾ヲ用ユハカラス)ヲ以テ掃除スルコトヲ要ス
咳嗽カ如何ニ微弱ナリトスルモ二週間以上繼續スルトキハ醫師又ハ施療所ニ就キテ其肺臟ヲ診斷セシムハシ

指、貨幣若クハ圓筆ヲ口中ニ挿入スルコトハ嚴ニ之ヲ避ケサル可ラス
各人少クトモ一週二回ハ溫湯浴ヲナシ石鹼ヲ使用スハシ且出來得ヘクンハ毎朝冷水浴ヲナスハシ
酒精飲料ヲ過量ニ使用スルハ最モ有害ナリ蓋シテ身體ノ病菌ニ對スル抵抗力ヲ殺滅スハキヨリテナリ

感冒ヲ豫防セント欲セハ(イ)晝夜共ニ新鮮ナル空氣ヲ充分ニシテ毎朝冷水浴ヲナスコト(ロ)咳嗽ヲナシ又床若クハ步道ニ睡スル人ヲ遠カリ且脊メルト(ハ)麻疹及咳嗽等ノ疾病ニ罹リタル後冷氣及濕氣ニ當ルコトヲ避クルコト及(ニ)多人數集合セル室ヲ密閉シ過度ニ溫ムルコトナキコト等ニ留意セサル可ラス

ヌ、移住民ノ人種的分類

合衆國移住民委員會「合衆國居住民ノ出生國及其各國ニ於ケル人種」ニ關シ左ノ如キ表ヲ公表セリ

合衆國	芬蘭	露西亞
亞米利加白人	芬蘭人	「アルメニヤ」人
亞米利加黑奴	佛蘭西人	「フイニシヤ」人
亞米利加「インデヤン」	佛蘭西人	獨逸人
奧太利匈牙利	「ハヅリユ」人	「ハヅリユ」人
「ボハミヤ」人「セツク」	獨逸人	「リスアニヤ」人
「ボスニヤ」人	獨逸人	波蘭人
「ブルガリヤ」人	「ハヅリユ」人	露西亞人
「クロアシヤ」人	波蘭人	蘇格蘭
「ダルマシヤ」人	希臘人	蘇格蘭人
獨逸人	希臘人	「セルビヤ」
「ハヅリユ」人	「マセドニヤ」人	「セルビヤ」人
「ハーツエ」人	印度	西班牙
「ヘルチエゴビナ」人	東印度若クハ「ヒンディー」人	西班牙人
伊太利人(北)	愛蘭	瑞典
「マギヤ」人(匈牙利)	愛蘭人	瑞典人
「モンテネグロ」人	「スコッチ、アイルランド」人	瑞西
「モラビヤ」人(「セツク」)	伊太利	佛蘭西人
波蘭人	伊太利人(北)	獨逸人

製造工業機械工業ニ従事スル者總計	二四二,九三四	四三,九九一	一九七,九四三	一八二
鍛冶職	一〇,〇八三	一,一四〇	八,九四三	一一二
靴製造及修繕職	四,五〇六	七〇七	三,七九九	一五七
煉瓦及瓦製造職	九,九三一	三,四八九	六,四四二	三四二
大工及指物師	二二,〇六七	一,六六四	一九,四〇三	七九
木炭、煤炭、及石灰焼	三,八六一	五九八	三,二六三	一五五
桶匠	二,九五三	一八五	二,七六八	六三
機械運轉手及火夫(汽罐ニアラサル)	一〇,二二五	二,五三二	七,六八四	二四八
鐵鋼製作業者(特ニ掲ケタル者ヲ除ク)	二二,六四二	三,七八八	八,八五四	二九九
機械製造業者	一,二六八	四三七	八三二	三九九
大理石細工及石切職	一,二五二	二九五	九五七	二三六
煉瓦師及石匠	一四,三七〇	四,四五一	九,九一八	二〇九
坑夫及採石職	三,六四九	八八五	二,七六八	二四三
繪師、釉藥工、漆物師	五,七四九	一,二六一	四,四八八	二二九
左官	三,七四八	一,二〇九	二,五三九	三三三
鉛管工、瓦斯及蒸氣管工	一,一九二	三三七	八七五	二六六
印刷師石版師及活版工其他	一,二一九	四七二	六四八	四二
鋸挽キ及鉋削工場使用人	三,一六六	五九六	三,五九八	一七
仕立職	一,五二二	四三三	一,一八八	二九九
煙草及葉卷煙草工場従業者	二〇,三三三	八三九	九,三九三	八一

八百九十八

てれびん蒸溜者	五,六八八	二	五,六八六	三六六
洗濯屋	二,三三五	九四四	一,四二二	三六六
木工(特ニ掲ケタルモノヲ除ク)	一,五七八	三三二	一,二九七	一四六
(女)				
婦人服仕立職	二,三五四	四,三三五	八,二七九	三三八
縫職	二,四五一	一,七四四	九七七	一五二
煙草及葉卷煙草工場従業者	五,二二七	一六七	四,九五〇	三三

十分ノ一「パーセント」以下ナリ

以上ノ示ス所ヲ以テスレハ黒奴ノ就業セル重要技術工業ノ各部ニ互リテ其數ハ其地ニ住スル全體ノ黒奴數ニ對スル比例上南部ニ於ケルヨリモ北部ニ於テ多キヲ知ルハシ北部ニ於ケル黒奴數ハ全黒奴數ノ約一割強ニ過キス然ルニ北部ノアル種ノ工業ニ於テハ其就業セル黒奴數ノ全數ニ對スル比例ノ四倍ヲサハ之ヲ見ルモノアリ黒奴ナル印刷者及活版工全數ノ五分ノ一以上ハ北部ニ居住セリ鐵鋼業製作業並洗濯業者ニツキテモ亦殆ント同様ナリ婦人服仕立職及煉瓦並瓦製造職ノ各三分ノ一機械運轉手及火夫、水管瓦斯管工及仕立職ノ四分ノ一以上モ亦北部ニ居住セルモノナリ

黒奴ノ主要ナル職業中其種職業ニ従事スル黒奴全數ニ比シ北部黒奴ノ割合聊カ少數ナルモノハ左ノ如キ數個ノ職業ニ過キス乃チ

大工及指物師七・九桶匠六・三煙草及葉卷煙草製造八・一鋸挽及鉋削工場勞働者一・七及「テレビン」蒸溜者ノ二名

等之ナリ以上ノ表ノ示ス所ハ恐ク多數者ノ觀測スル所ト異リタル結果ヲ示スハキモ之蓋シ該觀測カ多ク都市ヲ標準トシテナサレシニヨルナリ北部黑奴モ大部分都市ニ住シ技術的製造工業ハ多ク都市ニ於テ行ハル南北間ノ比較ヲシテ一層明確ナラシメントセハ須ラク都市ニ於ケル黑奴ノ状態ヲ考察セサル可シス

比較ノ範圍ヲ都市ニ限局スルトキハ上表ニ於ケルカ如クニ北部黑奴ノ多數ヲ示スハキ優勢アルヲ見ルコトナシ多數ノ職業ヲ以テ之ヲ見ルニ南部諸市ニ於ケル勞働者數ハ北部諸市ニ於ケルヨリモ多數ニシテ隨テ其比例モ亦大ナラサルヲ得ス然レトモ北部諸市ニ於ケル技術工業者ノ數ノ増加ハ南部諸市ニ於ケルヨリモ尙一層歩調ヲ均シクセルモノアリ北部諸市ニ於テハ技術的職工タル黑奴ノ數ハ漸次増加セルニ反シ南部諸市ニ於テハ頗ル遅々タルノ有様ナリ然モ其多數ノ職業ニ於テハ實際減少ヲ示セルノ有様ナリ之ノ北部ニツキ見ルニ「ボストン」ニ於テハ黑奴ノ職業タル四種乃チ鍛冶及車輪製造工、靴製造職、機械製造職及仕立屋ニ於テノミ減少ヲ示シ「フォラデルフヤ」ニ於ケル靴製造職、煉瓦製造職及陶器師「インヂヤナポリス」ニ於ケル家具師、室内裝飾品職及大理石細刻並石切職等ノ中僅カニ二個ノ職業ニ於テ從業者ヲ減少シ「シンシナー」ニ於テハ大工及指物師ノ職業ニ於テノミ減少シ「ピッツバー

グ」及市俄古ニ於テハ黑奴ノ從業ニハ減少シタルモノナシ北部都市ニ於ケル減少數ハ過去十年間ニ二百七十九人ニシテ増加二千三百六十六人ナリ換言スレハ一八九〇年ヨリ一九〇〇年ニ至ルノ間ニ於テ黑奴タル技術的職工ノ數ハ二千八十七人ヲ増加シタル割合ナリ

之ニ反シ南部都市ヲ見ルニ「アトランタ」「ジョージア」ハ鍛冶、車輪製造職、家具師、室内裝飾品製造職、大工及指物師、左官、印刷師、彫刻師等ニ於テ減少ヲ示シ「ボルチモア」ニ於テハ鍛冶及車輪製造職、靴製造職、煉瓦製造及陶器師、屠夫、大工及指物師、鉛管工、瓦斯管工及仕立業何レモ減少シ「ナツシピルテン」等ニ於リテハ鍛冶及車輪製造職、靴製造職、煉瓦製造職及陶器師、屠夫、大工及指物師、機械製造職、大理石細工及石切職、煉瓦及石匠、繪師、袖藥工、並左官等ニ於テ減少ヲ示シ「ニュー、オルレアン」ニ於テハ靴製造職、大工、及指物師、鐵鋼製作業者、機械製造職、仕立屋、婦人服仕立職等ニ減少ヲ見「メンソホス」「テネシー」ニ於テハ左官及印刷師ノ減少ヲ見タリ更ニ「リッチモンド」「ヴァージニア」ニ於テハ鍛冶及車輪製造職、靴製造職、家具製造職及室内裝飾品製造職、大工及指物師、鐵鋼製作業者、機械製造職、大理石細刻及石匠、繪師、袖藥師其他左官、鉛管工、瓦斯管工及仕立屋等ニ減少セリ六個ノ南部都市ニ於ケル減少數ハ總計千八百八十七人ニシテ増加總數千七百五十四人換言スレハ南部都市ニ於ケル黑奴ノ技術工業從業者ハ百三十三人ヲ減少シタル割合ナリ是ヲ以テ見レハ北部ニ於テハ徐々タリト雖モ確實ニ増加シ行クニ反シ南部ニ於テハ現状ヲ維持スルニ尙吸々タリトノ重要ナル傾向ヲ表明ス

過去二十年ノ間技術工業ニ於ケル北部黒奴ノ數ハ一般増加シタルコト前述ノ如シト雖モ之ヲ白人ノ増加ニ對比スレハ其當然増加スハキ比例ニ達スル能ハサルコト遙ニ遠シト謂ハサル可ラス之ヲ「フョラデルンヤ」ニ見ヨ同市ニ於ケル黒奴ノ數ハ實ニ其全人口ノ四歩八厘ニ相當ス然モ其技術的製造工業從業者ハ僅カニ一歩二厘ヲ占ムルニ過キス更ニ「ピッツバーグ」ニ於テハ黒奴ノ數ハ全人口ノ五歩三厘ニ相當スルニ拘ラス該工業ニ從事スル者ハ三歩五厘ニ過キサルナリ「ボストン」ニ於テハ全人口ノ二歩一厘ヲ有ス。黒奴ハ該工業ノ七厘ヲ占取スルニ過キス又市俄古ニ於テハ全人口ノ一歩八厘ニ相當スルモ該工業從業者ハ其六厘ニ相當スルノミ其他「インヂアナポリス」及「シンシナチー」ニ於テハ九歩四厘對三歩二厘及四歩四厘對一歩五厘ノ割合ナリ是等諸市ノ中「フョラデルンヤ」ニ於ケル比例最モ小ニシテ「ピッツバーグ」ニ於ケルモノ最モ大ナリ其他ハ黒奴カ當然占取スハキ比例ノ約三分ノ一ヲ保持スルニ過キス

斯ノ如キ黒奴ノ從業者少キ原因ハ主トシテ人種的偏見ニアリトハ屢々論セララル、所ナリ然レトモ尙更ニ説明スルコトヲ得ヘキ他ノ原因ノ存スルアルナリ

黒奴ハ其産業的智識ヲ收得スル上ニ甚々機會ニ乏シキモノナルコト其一ナリ北部ニ於テハ黒奴ノ子弟ヲシテ技術的工業ヲ習修セシムヘキ學校殆ントアルコトナシ是ヲ以テ北部ニ於テ出生シタル黒奴ノ大

部分ハ産業上ノ學習ヲナスコト實際上不可能ニ屬スルナリ其結果北部ノ人ハ黒奴ノ技術的職工ヲ得ンカ爲メニハ多クハ南部生レノ者ニ之ヲ求ムルノ有様ナリ現ニ北部ニ於テ勞働セル黒奴ノ技術的職工ノ大多數ハ南部ノ産ニシテ又其教習ニヨルモノナリ

北部ニ於テ黒奴ノ技術的産業ニ少數ナル他ノ原因ハ北部ニ於テハ競争ノ存スルコト之ナリ黒奴ハ勞働者ハ競争上最モ必要ナル二條件乃ト仕事ノ迅速及正確ナルコトノ一又ハ兩者ヲ缺ケルモ決シテ稀ナリトセス奴隷タル間ニ其業務ヲ修得シタル黒奴ト南部ニ於テ其子カ父ヨリ教習セラレタル者トハ到底北部ニ於ケル白人ト同一ノ正確ト精巧トヲ以テ勞働スルコト能ハス若シ其同一ノ正確ノ度ヲ以テ勞働スルコトヲ得トスルモ其仕事ハ白人ニ比シ一層ノ長時間ヲ要スヘシ

尙他ノ一原因ハ北部ニ於ケル工業ノ狀態ハ人的要素ヲ容ルルノ餘地尠キコト之ナリ而シテ各人ハ規則正シク業務ニ就キ迅速ニ報告シ且其業務上何物モ妨ケシムルコトナキコトヲ期待セラルル然ルニ北部ニ於テ機會ヲ得タル多ク、黒奴モ其規則正シク且正確ナルヘキ課程ヲ修習セサルノ故ヲ以テ多クコノ機會ヲ逸スルノ已ヲ得サリキ

第四ニシテ最モ重要ナル原因ハ勞働ノ組織ニ關ス黒奴ハ勞働的團體ノ價值ヲ了知セサルヲ常トス若シ之ヲ了知ストスルモ自ラ團體ヲ組織スルコト能ハサルナリ彼等ハ通常其職工組合ヨリ除外セラレ若クハ其加入ヲ眞實ニ於テ歡迎セラレサルヲ愁訴シ之ニ向テ努力スルコトアルモ其結果ハ依然不平ヲ以テ

終ルヲ常トス然レトモ彼等ハ尙自ラ團體ヲ組織シ又ハ白人ノ組合ニ加入ヲ許サレタル場合ニ於テ職工組合事情ニ關シ活動的智力的ノ利害ヲ認メテ望マシキ組合員タルコトヲ發揮シタルコトナキナリ彼等ハ實ニ稀ニ日立チタル場合ヲ除ク外職工組合中ニ於テ有望ナル部分ヲ形成セルコトナシ(之多クハ其員數ノ少キニ因ルモ亦素養ノ缺乏セルト工業的智識ノ缺乏セルトニ基因ス)而シテ組合ハ多年間ノ論争團結ノ結果漸ク得ル特典ト利益トヲ彼等黒奴ニ配與セサルハカラサルノ理由アルヲ見サルナリ以上ノ如ク諸種ノ困難アルニ拘ラヌ黒奴ノ技術的工業ニ從事スル者ハ漸次増加シ彼等ハ辛キ經驗ヲ得メテ現在彼等ノ前ニ横ハレル障礙物ヲ如何ニシテ打破スハキカラ次第第二研究シ來レルナリ然ルニ黒奴タル技術的職工ノ進歩ノ程ハ一般社會ノ了認スル所トナラサルニ似タリ蓋シ紐育、市俄古又ハ「フツヤ」等ノ如キ技術的職工ノ數數萬ヲ以テ算フハキ都市ニ於テハ一百ノ黒奴アリトスルモ世目ヲ吸引スルニ足ラサルナリ彼等カ百五十ニ増加シタリトシ増加割合ハ五割ナリト雖トモ世上何等ノ刺戟ヲ與フル所ニアラス然ルニ彼等若シ南部ノ小都市ニ移轉セラレバハ其ハ頗ル自立ツハキ事ナルヘキモ目下ノ如キ百萬以上ノ人口ヲ有スル大都會ニ於テハ彼等ハ殆ント全然閑却セラレテニ探究スルモノニアラサレハ克ク黒奴ニツキ何等知得スルコト能ハサルハシ若シ夫レ北部大都會ニ居住スル黒奴タル技術的勞働者ノ一部ニシテ南部ノ都市ニ至リテ現在紐育、市俄古「フツヤ」又ハ「インヂヤナボリス」ニ於ケルト同一ノ業務ヲ營ムモノトセンカ彼等ハ最も成功的請負人トシテ律セラルハキハ

明カナリ然ルニ目下彼等ハ一週平均百萬弗以上ノ大事業ヲカラサル四圍ノ境遇ニ介在スルヲ以テ實際上顧ミラレス偶々彼等ノ進歩ヲ程度セントスルモ容易ニ觀察シ得ハキニアラサルナリ然レトモ北部二三ノ都市ニ於ケル數個ノ工業ニ於テハ之ニ從事スル黒奴ノ割合ハ其全人口ニ對スル割合ヨリモ多キモノナキニアラス之ヲ例セハ「ピッツバーグ」ニ於テハ黒奴ハ全人口ノ五歩三厘ヲ占ムル所ナルカ一九〇〇年ノ人口調査ニ依レハ煉瓦及瓦製造職工ニ割機械運轉手及火夫ノ九歩煉瓦積及石工ノ一割四歩左官職ノ八歩經師屋ノ一割及「ピッツバーグ」ノ最重要ナル技術的工業タル鐵鋼製作業從業者ノ三歩九厘ハ乃チ黒奴ナリトス市俄古ニ於テハ全人口ノ一歩八厘ハ黒奴ナルカ同地ニ於ケル左官職ノ三歩一厘經師屋ノ五歩五厘及洗濯業者ノ一割七歩四厘ハ黒奴ノ就業スル所ナリ更ニ紐育ヲ見ルニ黒奴ハ全人口ノ一歩八厘ニ相當スルカ煖爐、熔鐵爐及火床製造業者ノ五歩七厘ハ乃チ黒奴ナリトス北部ニ於テ其立脚地ヲ獲得セントハ黒奴タル技術職工ニトリテ容易ノ業ニアラス北部ニ於ケル各大都會ニ於テハ南部ノ家郷ニ於テ技術的職工ヲ以テ目セラレ合ハ家内ノ個人的業務ニ從事セル者尠シトセス例セハ「フツヤ」ニ於テハ其筋違ヒノ業務ニ從事セル者ニシテ技術的職工ヲランコトヲ求ムル者ノ數ハ其所ヲ得テ夫々業務ニ從事セル黒奴數ニ二倍スルノ有様ナリ競争ノ激甚並生存ノ競争ハ北部ニ於ケル黒奴タル技術的職工ノ經驗セル所ヲ考察スレハ克ク之ヲ解明スルコトヲ得ハキナリ彼等ノ主要問題タルヤ實ニ業務ヲ得ルト謂フニ存スルナリ稀ニハ仕事潤澤ニシテ之ヲ得ルニ殆ント困難ヲ

感スルコトナク各請負者ト相識リ若クハ自身モ亦請負者タリシ場合ナキニアラサレトモ大都會ニ於テハ同一業務ニ對シ渴望セル二名以上ノ競争者ヲ出スコト決シテ稀ナラス

是ニ於テカ第一流ノ技術的職工タルニアラスンハ彼等ハ通常斷念シテ彼ノ競争ノ激甚ナラサル家內的個人業務ニ屆スル幾多徑路中ノ一ヲ求メテ之ニ就クニ至ル普通ノ元氣ト並ノ技術トヲ有スル者ナルトキハ彼ハ依然トシテ職業ヲ漁ラサルヲ得サルナリ時トシテハ職工トシテ成功スルコトアルモ其者ニシテ大工、煉瓦積、繪師、左官、其他建築業ニ於ケル其他ノ作業ニ於ケル其他ノ關係スルモノナルトキハ多クノ場合ニ於テ自ラ其業務ノ請負人トナリ修繕改造等ノ小仕事ヲナスニ至ル大都會ニ於ケル多數ノ小仕事師ハ他人ヲ雇備スルカ如キコトハ殆ント稀ニシテ又克ク一千弗ニ達スル仕事ヲ營ムモノ多カラサルナリ然レトモ彼等モ亦其生計ヲ支持スルナリ

ナ、全國黒奴、就業同盟

地方支部ニ關スル左ノ規則草案ハ全國黒奴就業同盟(會長「ブーカー、テイーワシントン」氏)ノ發表シタルモノナリ左ノ如シ

吾人黒色ナル……ノ市民ハ……市及其附近ニ於ケル同人種ノ間ニ企業上ノ活動及發展ヲ助勢センコトヲ希望シ既ニ業務ニ従事セル同人種間ニ間斷ナキ協同ト相互的談合トノ必要ナルヲ感シ

他ヲ贊助シテ業ニ就カシメ又其既ニ經營セル事業ヲ支持シテ同人種ノ利益ヲ増進シ且全國黒奴就業同盟ト協合センコトヲ欲シ茲ニ本會ヲ組織シ左ノ規則ヲ制定スルモノナリ

(名稱、役員、役員及委員會ノ任務等ノ條項アリ)

會 員

滿十六歳以上ノ性質善良ナルモノニシテ適法ナル業務又ハ名譽職ニ従事シ又ハ企業ヲ進捗シ經營スルコト信用セラルルモノハ總會ニ其名ヲ提出シ出席員ノ多數決ヲ以テ之ヲ會員トスルコトヲ得

會員タル資格ハ……仙若クハ……弗ノ入會金ヲ納付シタル時ヨリ開始スルモノトス

(會合ノ期日、業務ノ順序、會員ノ除名及定足等ニ關スル規定アリ)

組 織

全國黒奴就業同盟ハ左ノ如キ「地方就業同盟」ノ組織及維持ニ關スル提言ヲ發表シタリ

地方同盟ヲ組織スルニ當リテハ其當該地方ニ於ケル業務者中最モ責任ヲ重シ且信頼スヘキ者ヲ選擇スルニ留意スルコトヲ要ス且就業同盟ハ利益ヲ渴望セルモノト思惟セラル可ラサルコトヲ適當ニ記憶セラル、コトヲ要ス

會 合

各地方同盟ノ名ノ下ニ一年一回以上ノ公會ヲ開キ當該地方ノ黒奴ノ間ニ起リタル業務ニ關シ報告及發

勵事項ヲ開陳スルコトヲ要ス

白人ノ關與

白人タル實業家ニシテ手腕アリ且性質善キ者ヲ隨時招致シテ同盟ニ於テ業務上ノ事項ニツキ談話セシムスクシテ業務上嶄新、進歩ノ事物ヲ説述セシムハキモノトス

就業指令

各地方同盟ハ當該地方ニ於テ行ハル、各種業務ニ關シ當然知ルコトヲ要スル事項ヲ了認スハク且若シ出來得ヘクシテ業務ノ出來高、方法、就業シタル人員、俸給、若クハ勞銀等男女業務者ノ資力的狀態ヲ知ルコトヲ要ス斯クシテ黒奴ノ進歩セル重大ナル證據トシテ該報告ヲ全國協議會ニ提出スハキモノトス

會員

業務ニ従事スル者業務ヨリ退キタル者又ハ企業ヲ増進セシコトヲ欲スル者ハ全國黒奴就業同盟ノ會員タルコトヲ得但シ會費年額二弗若クハ終身會員ハ一時金二十五弗ヲ納付スルコトヲ要シ且全國黒奴就業同盟ノ保護ノ下ニ正式ニ組織セラレ且承認セラレタル地方同盟ノ代表者トシテノ信任狀ヲ有スルコトヲ要ス

公共ニ對スル貢獻

組織良好ニシテ範圍廣汎ナル地方同盟ハ共存立セル市若クハ町ニ對シ大ニ貢獻スル所アルモノトス左

ノ數項ハ之ヲ實現シ得ヘキ所ニ屬ス

- 一、智識アリ修養アリテ書記、監査人、販賣係、家番、擔夫其他責任アル任務ヲ充スニ適當ナルヘキ青年男女ノ名簿ヲ備置キ斯クシテ同盟ハ適任者ニ對シ相當ノ職業ヲ授クル上ニ於テ殊ニ北部諸州ニ於テ貢獻スル所アルモノトス
- 二、全然有色人種ヲ欺騙スルノ目的ヲ以テ起リタル詐欺的株式會社等ノ如キ騙取の企計ニ對シ公共ヲ保護スルコト
- 三、衛生、清潔法、有色人ノ住居地ヲ外觀上心地善カラシムヘキ修飾設備其他市民タル上ニ於テノ利益ヲ増進シ公共的生活ヲ昂上セシムヘキ各種ノ事項ニ於ケル利益ヲ表示スルコト

地方就業同盟組織手續

- 一、當該地方ニ於ケル實務者六名ト協合スヘシ他ノ行動ニ俟ツコトナク自己ノ任務トシテ之ヲ爲スハシ
- 二、思想ノ交換ヨリ生スヘキ利益及斯ノ如キ會合ヲ保持スルノ賢明ナルコトヲ示スヘシ
- 三、個人的招待及教會ニヨル通告ヲ以テ公會ヲ開催スヘシ
- 四、教務者及實業家ヲシテ之ニ關與スルニ至ラシムヘシ
- 五、會合ヲ繼續シテ出席者少數ナルニ拘ラス其事務ヲ進捗セシムヘシ

- 六、會合ヲ開催シタルトキ司會者ヲシテ其目的ヲ演告セシメ地方黒奴就業同盟ノ價值ヲ説明スヘシ
- 七、臨時會務ヲ統轄スヘキ數人及記録ヲナスヘキ一人ヲ擇フヘシ
- 八、規則制定ノ爲メ五名ノ委員ヲ任命シ該委員カ其既ニ全國組織委員ノ作製シタル草案按テ閱讀シ修正ノ必要アリヤ及規定スルノ如何等ヲ考察セルノ間會衆ヲシテ實務及協同勞働ノ重要ナルコトニ關スル單簡ナル演告ヲ聽カシメテ其時間ヲ經過セシムヘシ
- 九、規則制定委員ハ出來ル丈ケ速ニ其結果ヲ報告スヘシ
- 十、委員會ノ報告カ該提按タル規則ニ贊同スルモノナルトキハ之ヲ採用セシムヘシ規則ニ關シ最後ノ決ヲ採ル場合ニハ起立ニヨルモノトス
- 十一、規則ノ採用セラレタル後直ニ役員ノ選舉ニ移リ左ノ者ヲ以テ役員中ノ幹部トス
 - 會長、副會長、主事及會計主任
 - 是等役員ハ一年間ヲ任期トシ若クハ後繼者ノ選任就職スル迄ヲ任期トス各役員毎ニ別個ノ投票ヲナスヘキモノトス
- 十二、右會合ニ於テ定期總會ノ時日及場所ヲモ決定スヘシ會合ハ八時ニ開始シ十時以後ニ繼續スルコトヲ得ス迅速ト正確トハ同盟ノ本旨ナリ
- 十三、同盟ノ主事ハ其組織成立後直ニ之ヲ全國組織委員ニ對シ黒奴ノ就業狀態及役員會員ノ姓名住

所ニ關スル詳細ナル報告ヲ送致スヘシ

十四、左ノ事項ノ一ニツキ討議ノ爲メ半時間ヲ費ヤスヘシ

討議スヘキ提出題目

- 一、該地方ニ於ケル有色人種ノ業務上ノ利害ヲ如何ニシテ統一スヘキカ
- 二、實業家、教誨師、教師、醫師、法律家其他ノ者ハ男女就業者ヲ援助シテ如何ナルコトヲ爲シ得ヘキカ
- 三、就業者ハ實業家ヲ援助スル爲メニ如何ナルコトヲ爲シ得ヘキカ
- 四、黒奴ノ就業スル企業ヲ引立ツルコト
- 五、該地方ニ於テ如何ナル新事業ヲ設立シ得ヘキカ
- 六、既存企業ヲ如何ニシテ修正シ得ヘキカ
- 七、如何ニシテ内地取引ノ増加ヲ來シ得ヘキカ
- 八、銀行存在セサルトキハ銀行ヲ設立維持スルヲ得ヘキカ
- 九、小間物商店存在セサルトキハ此種ノ商店ヲ設立維持シ得ヘキカ
- 十、靴屋又ハ裝具店存在セサルトキハ此種ノ店舗ヲ設立維持シ得ヘキカ
- 十一、藥種店存在セサルトキハ此種ノ店舗ヲ設立維持シ得ヘキカ

附

錄

第二

附 錄 第二

北米合衆國ニ於ケル失業者

或一定時ニ於テ合衆國內ニ現存スル工業的失業ノ高ヲ數字上ニ計算セントスルノ企圖ハ恐ラク無益ノ事ニ屬スヘシ蓋シ斯ノ如キ事項ニ關スル完全ナル統計ナキノミナラス全局ニ演繹スヘキ部分的ノ統計スラ尙得易カラサルヲ以テナリスノ如キハ從來中央勞働局ノ曾テ着手セシコトナキ勞働統計ノ一部ニ屬シ僅カニ二個ノ州立勞働局ヨリ定期ニ職工組合失業者報告ヲ發刊セルモノアルノミ而シテ後者ハ一八八七年以來英國商工局ニ於テ蒐集シ一八九三年以來「勞働雜誌」ニ發表セルモノト其體ヲ等シクセリ紐育州ノ勞働統計局ハ一八九九年六月以來同州内ノ職工組合員中ノ失業者ノ割合ヲ各四半季毎ニ之ヲ發表セリ

更ニ一九〇三年六月以降ニ至リテハ同局ハ州内ノ代表的職工組合ト稱スヘキモノニツキ失業者ノ割合ハ各月ニ計算シ半季毎ニ之ヲ發表スルコトヲナセリ「マサチューセッツ」州ノ勞働統計局ハ一九〇八年三月以來各四半季末ニ於ケル失業者ノ統計ヲ各職工組合ヨリ徴シテ「州勞働雜誌」ニ之ヲ發表ス亞米利加勞働聯合組合ヨリモ亦一九〇〇年一月以降一九〇九年十月迄定期ニ失業者ノ各月ノ割合ヲ公刊セリ

但シ此割合タルヤ聯合組合ニ加盟セル職工組合ノ或ルモノヨリ提供スル報告ニ基キテ算出シタルモノ
 ヲシテ該報告ヲナセル職工組合ノ員數ハ合衆國內職工組合ノ組合員トシテ公然ト認セラルル總數ノ約
 四歩ニ足ラス隨テ如上ノ計算ヲ以テハ之ヲ亞米利加ノ勞働界ヲ代表スルモノナリト思惟セラルルコト
 能ハサルナリ

是ヲ以テ公ノ性質ヲ帶フル定期統計材料中利用シ得ヘキモノハ紐育及「マサチユーセッツ」州ヨリ公刊
 スル職工組合失業者報告ニ之ヲ限ラサルヘカラス最モ此兩州カ合衆國ノ全人口ノ七分ノ一弱ヲ有スル
 ノ事實ハ該報告ノ結果ヲ以テ全國ニ適用セントスルニ當リ不安ナラシムル所以タラスンハアラス加之
 該報告ヲ當該州ニ於ケル勞働市場ノ狀況ヲ充分ニ表明スルモノトシテ之ヲ探ランカ又重要ナル反對論
 ニ遭遇セサルヲ得ス然カモ該報告ニヨリテ國際的比較ノ目的ニ之ヲ使用セントスルトキハ反對論ハ尙
 一層甚大ナルヘキナリ蓋シ是等兩州ニ於テ其失業者ヲ報告セル職工組合ノ員數ハ兩州ニ於ケル貸銀勞
 働者總數ノ單ニ一部分ヲ形成スルニ過キサルナリ合衆國ニ於ケル就業者ニ關スル最近ノ完全ナル公的
 分類ハ一九〇〇年ノ聯合人口調査ヲ基礎トス比較スルニ一九〇九年十二月ニ報告セラレタル紐育州内
 職工組合員數ハ一九〇〇年ニ於テ商業及運輸並製造工業ニ従事スル十六歳以上ノ總人員ノ約五歩ニ當
 レリ金屬工業ニ於テノミハ五歩六厘ニ當リ織物及衣服業ニ於テハ四歩四厘ヲ示シタリ次ニ「マサチユ
 ーセッツ」州ニ於テ同時ニ報告ヲナシタル職工組合ノ員數ハ一九〇〇年ノ人口調査ニヨル商業及運輸

並製造工業ニ従事スル十六歳以上ノ總人員ノ一割三歩ニ當リ金屬工業及機業ニ於テハ夫々九歩及六歩
 ヲ示シ衣服業ニ於テハ二割一歩九厘ニ相當セリ

之ヲ國際的比較ニ使用セントスルニ對スル非難ハ尙一層甚シキモノアリ此種統計ノ信據スルヲ得ヘキ
 必然ノ條件ハ該報告カ失業者扶助金ヲ支給スル職工組合ノミニ限ラレルコト之ナリ然ラズンハ不明確
 ナル説明ニ陷ルコト大ナラストモス英國ニ於ケル報告モ亦獨乙ニ於ケルト等シク全然此種ノモノニシ
 テ丁抹ニ於ケルモ亦同一ナリ佛國ノ報告中ニ包含セラルル勞働者數中約三割ハ失業者扶助金ヲ支給セ
 ル職工組合ニ屬スルモノナリ白耳義ニ於テハ其割合約八割四歩諾威ニ於テハ六割五歩ニ相當ス然レト
 モ合衆國ノ職工組合ニアリテハ斯ノ如キ扶助金ノ形式アルモノ至テ稀ナリ故ニ其職工組合員中ノ失業
 者ヲ完全ニ算定スル上ニ於テ重要ナル關係ヲ及ホスコト疑ヲ客レサル所ナリ

國際的比較ヲ困難ナラシムヘキ尙他ノ事項ハ各國ノ統計上各種職業ノ表示セラルヘキ比例カ頗フル不
 均衡ナルコト之ナリ此見地ヨリ之ヲ論スレハ紐育及「マサチユーセッツ」兩州ノ報告ハ同州ニ於ケル
 失業者ノ一般的割合ヲ不當ニ高カラシメントスルノ傾向アリト想定スルコトヲ得ヘシ乃チ此種報告ハ
 二三歐洲諸國ニ於ケル報告ニ比スレハ就職上特ニ大ナル變動ナキ職業ニハ少ク表明セラレ之ニ反シテ
 變動多キ職業ハ多ク表明セラルルノ事項ヨリ來ル弊害ナリトス

英國ニ於テ絶對的失業(一部の若クハ一時的失業ト區別ス)ノ發生少キ工業中ニテ機業ハ英國ノ報告ニ

アリテハ一九〇九年十二月ニ報告セル職工組合總員數ノ一割七步ヲ表示スルニ
 「マサチユーセツツ」報告ニ於テハ僅ニ七步ニ相當ス又石炭業ハ英國ノ報告ニ於テハ全員數ノ二割ヲ表
 示スルニ紐育及「マサチユーセツツ」ニ於テハ何等表示セルモノナシ
 他ノ一方ニ於テ建築業及土木工業ノ如キハ循環的並季節的ニ特ニ失業者ヲ出スコト多キモノナルカ紐
 育ニ於テハ報告セラレタル全員數ノ三割四步ヲ示シ「マサチユーセツツ」ニ於テハ二割三步ニ相當ス然
 ルニ英國ニ於テハ一割三步ヲ表示スルニ當ルト謂フ更ニ運輸業ノ如キモ亦變動多キ職業ナルカ紐育州
 ニ於テハ一割六步七厘「マサチユーセツツ」州ニ於テハ一割八步ニ相當シ英國ノ報告ニ於テハ全然記載
 中ニ存セサルナリ

此兩極端ノ失業ヲ表示スル兩個ノ職業ノ中間ニ介在スルモノヲ金屬工業トス前記ノ時日ニ於テ報告セ
 ラレタル職工組合員數ハ紐育ニ於ケル報告總員數ノ八步一厘「マサチユーセツツ」ニ於テハ六步ニ該當シ
 英國ニ於テハ三割八步ニ相當ス
 是ヲ以テ紐育及「マサチユーセツツ」ノ統計ハ職業ノ變動激甚ナル特色ヲ有スル職業乃チ建築業、土木
 工業及運輸業等ヲ代表スルコト比較的大ナルコト明カナリ而シテ此代表ハ紐育ノ場合ニ於テハ頗ソル
 重要ノ關係ヲ有スルモノニシテ一九〇九年十二月ノ報告ヨリ是等三個ノ職業ニ關スル計數ヲ除外スル
 トキハ失業者ノ百分率ハ實ニ約五分ノ二ニ低減スルノ結果ヲ生スハキナリ

以上述フル所ノ理由ニ基キ失業者ニ關スル統計ハ一國ノ全局面ヲ代表スルモノトシテ採用スハキモノ
 アラサルニ尙更ニ考慮スハキ一問題ハ商業沈睡ノ時期ニ於テハ合衆國ニ於テ労働ノ一時的廢止行ハル
 ヲコト之ナリ其重視スハキコト少クトモ歐洲諸國ニ於ケルト同一ナルヘシ之ト同時ニ合衆國ニ於ケル
 失業者問題ヲ考察スルニ當リテハアル程度迄其國ニ特殊ナル事項ニシテ且工業不振時代ヨリ生スル諸
 會及個人的困難ニ重要關係ヲ有スハキモノヲ常ニ記憶シ居ルコト肝要ナリトス
 各種職業ノ間ニハ常ニ著シキ労働ノ轉換行ハル米國ノ職工ハ頗ソル應適性ニ富ム工業ノ發達迅速ニシ
 テ特ニ彼ノ常ニ見ル所ノ如ク分業ノ増加ヲ伴フ場合ニ於テハ職工ヲシテ一業ヨリ他業ニ轉移スルヲ得
 セシメ且時トシテハ轉移セサルヲ得サラシム工業不振ノ時期ニ於テハ一種ノ業務ヨリ他種ニ轉移スル場
 合ニハ普通其資格ノ低下ヲ伴フモノニシテ換言スレバ技術熟練セル職工モ其當座必要ナキニ至レハ他
 ノ技術熟練ノ程度低キ職工ニ代リテ其地位ヲ占取スヘク隨テ技術熟練ノ程度低キ職工ハ不熟練職工ニ
 代リテ彼等ヲ除斥スルニ至ルヘシ是ヲ以テ失業ノ大ナル痛棒ハ最も低キ地層ニ向テ落下スヘク而シテ
 低キ地層ハ主トシテ外國人ヨリ成レル所ナリトス故ニ失業者ノ問題ハ此國ニ於ケルカ如ク著シク且露
 シキモノアラサルナリ現ニ亞米利加ノ大都會ニ於テハ外國人タル労働者ハ二三「ゲース」ノ各異リタル
 國籍及言語ニヨリ表示セラル、所ナルカ斯ノ如キ不同ト屢々之ニ伴フ相互ノ反感トハ失業問題ノ如キ
 共同ノ苦痛タルハキ事項ニツキテサハ不和ト不整調トヲ惹起スルニ至ル比較的近時ノ移住民殊ニ其根

據未々確立セラレラル者ノ間ニハ彼等カ此國ニ在住スルコトハ彼等自身ノミ責任ヲ負フハキ問題ナリトノ思想行ハレ斯クシテ彼等ノ苦痛ヨリ多少力ヲ抜ク所ニシテ彼等若シ現在ノ境遇ニ満足セスンハ其本國ニ歸ルハキノミ市場カ沈睡スルニ當リテヤ移住氏ノ歐洲ニ歸リ行キタルモノ多數ナルハ過去ノ經驗ニ徴シテ明カナル所ナリ彼等ノ多數ハ年若キ未婚者ニシテ一九〇八年ノ恐慌ノ際ニハ歸國シタル者尠カラザリキ而シテ斯ノ如キハ其家族ヲ歐洲ニ殘シ來レル已婚者ノ多數者ニモ同様ニシテ彼等歸國セルノ結果ハ或ル地方ニ於テ失業ノ壓迫ヲ輕減セルコト大ナルモノアリキ亞米利加移民局ノ報告ニヨレハ一九〇七年七月ヨリ一九〇八年六月迄ノ一年間ニ於テ歸國シタル移民數三九五、〇七三人アリシト謂フ(是等ノ外國人ハ合衆國ニ於テ住宅ヲ有シ且永久外國ニ居住センコトヲ企圖シタリシ者ナリ)然ルニ同年内ニ於テ到着シタル外來移民ノ數ハ七八二、八七〇人ニシテ一九〇六―七年ニハ一、二八五、三四九人一九〇五―六年ニハ一、一〇〇、七三五人ナリシニ比スレハ著シキ減少ナリ

尙取引不振ノ時ニ當リテモ國內ニ代替的業務ニ就クモ機會存シ必要ニ應ジテ之ヲ利用スルコトヲ得ルノ事實ハ工業的勞働界ニ於ケル競争ノ輕減スル上ニ與ツテ力アルモノト謂フハシ亞米利加ノ大都會並重要ナル製造工業ハ莫吉利ニ於ケルヨリモ更ニ近世ノ發達ニ屬スルヲ以テ内國人タル都會勞働者ノ大半ハ田舎ヨリ來レルモノナリ是ヲ以テ其父母若クハ親族ニシテ田園ニ生活セルモノ尠シトセス而シテ事業界ノ沈睡スルヤ彼等一是等ノ田園ニ歸還シ其宿泊ニ對スル代價トシテ自ラ勞働シテ之ニ報ユルナ

リ若シソレ彼等ハ田舎ニ知己ナシトスルモ尙夏季ニハ屢々業務ヲ田舎ニ求ムルコトヲ得ハシ之ニ等シク南部ニ於ケル鐵、鋼及石炭坑ニ勞働シタリシ黑奴ニシテ一九〇七年ニ際シ業ヲ失ヒタルモノ砂糖及棉花ノ栽培ニ其職ヲ求メタルノ有様ナリ國內農業ノ優良ナルコトモ亦都會ニ充溢セル勞働者ノ賣口上重要ナル關係ヲ有スルモノト謂フハシ尙茲ニ留意スヘキハ合衆國ニ於ケル勞銀ハ食料費ニ比シテ比較的高キコトニシテ其結果一旦事業不振ノ時期到來スルモ其實際上窮乏ヲ來スノ程度ニ遠スル迄ニハ尙著シキ勞銀ノ低減ニ堪ユヘキモノナリトス

附

錄

第三

附 錄 第三

目 次

甲、貸銀及勞働時間報告書々式	九二一
乙、家賃報告書々式	九二八
丙、小賣價格報告書々式	九三〇
丁、貸銀取得者ノ收支報告書々式	九三六
戊、一九〇九年普通一週間ニ於ケル食料品其他ノ支出内譯報告書々式	九三八

附 録 第三

甲、賃銀及労働時間報告書々式

(一) 建築業

一九〇九年ニ於テ左記會社ノ使用スル男子賃銀取得者(二十五歳以上)ノ普通賃銀及労働時間
 注意 報告ニ依リ得タル材料ハ單ニ統計上ノ調査ニ之ヲ用キ秘密トシテ之ヲ取扱フ可シ又個人ヨリ
 ノ報告ハ之ヲ公ニセサルハシ

職 業	賃銀取得者 ノ數	賃銀支拂ノ方法 (時間拂又ハ 出来高拂)	一九〇九年二月ニ 於ケル一週間又ハ 一時間ノ賃銀	夏期ニ於ケル一週間ノ労働時間(食 事時間及定時外ノ労働時間ヲ除 ク)
		賃銀ノ支拂ニ於テ 時間拂法ニ依リサ ルトキハ出来高拂 法ニ依リ夏期ニ於 ケル一週間(定時 外ヲ除ク)ノ労働 ニ對スル賃銀ヲ掲 グヘシ		

漆喰職					
鉛管職					
鐵用材工					
ペンキ職					
勞力者					
煉瓦運搬					
煉瓦積職補助					
石工補助					
漆喰職補助					

注意 ……………

一九〇九年 月 日

町名番地

何々會社

(二) 鑄造、器械製造、汽罐製造及造船

一九〇九年二月ニ於テ左記會社ノ使用スル男子貸銀取得者(二十五歳以上)ノ普通貸銀及勞働時間

注意 報告ニ依リ得タル材料ハ單ニ統計上ノ調査ニ之ヲ用キ秘密トシテ之ヲ取扱フヘシ又個人ヨリノ報告ハ之ヲ公ニセサルヘシ

職 業	貸銀取得者ノ數	貸銀支拂ノ力ハ出來高拂又ハ(時間拂)	一九〇九年二月ニ於ケル	
			一週間ノ賃銀 時間 拂	出來高拂
鑄造及器械製造			(定時外ノ勞働時間ヲ除ク)	夏期ニ於ケル一週間ノ勞働時間(食卓時間及定時外ノ勞働時間ヲ除ク)
監督工				
鐵型工				
組立工				
旋盤職				
鍛冶職				
木型工				
勞力者				
汽罐製造及造船				
監督工				

山形鐵鍛冶職									
汽罐製造									
造船									
重鐵板職									
汽罐製造									
造船									
輕鐵板職									
汽罐									
船舶									
汽罐									
船舶									
絞釘工									
汽罐									
船舶									
尖鐵工									

把持工									
鐵板職助手									
勞力者									

注意

一九〇九年 月 日

町名番地 何々會社

(三) 公共事業(會社經營又ハ市營ナル旨ヲ記載スハシ)

一九〇九年ニ於テ左記ノ市ニ於テ使用スル男子賃銀取得者(二十五歳以下)ノ普通賃銀及勞働時間
 州 市

職 業	賃銀取得者數	賃銀支拂ノ方法 (時間拂又ハ出米高拂)	一九〇九年二月ニ於ケル一週間ノ賃銀(定時外ノ勞働時間ヲ除ク)	夏期ニ於ケル一週間ノ勞働時間(食ク)
監督者				
鋪石工		街路建設、鋪石及掃除		